

4.教育内容・方法・成果

4-1 教育目標、他

4. 教育内容・方法・成果

4-1. 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

中期目標

- 【目標1】教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、定期的に検証し適切に維持する。
 【目標2】教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、大学構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表する。また、認知度を向上させる。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。	[1-1,1-2,1-3 共通] ①関連性対照表を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連性の低い項目を抽出する。	
[1-2]	教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。		
[1-3]	教育課程の編成について、入試・就職等多様な観点からの設計を行う。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標の到達度を定量的、定性的に示す指標を引き続き検討する。	今年度は着手できなかった。今後、評価指標(アセスメントポリシー)の策定について検討したい。教養英語 B で実施されているチームティーチングの枠組みの中で到達度を定量的、定性的に示す指標を整備した。学位授与方針について学外機関(札幌中央信用組合、江別市)の意見を聴取した。	達成度20% 【指標1】については検討できなかった。今後、指標の見直しも含めて検討したい。
	[1-2] 学科間のカリキュラムの通用性を見出すために、カリキュラムマップのフォーマットの共通化を引き続き検討していく。	今年度は着手できなかった。グローバル科目群、地域貢献活動といった一部の教養科目で科目を階層化し(導入科目、展開科目)、将来のカリキュラムマップフォーマット共通化の下地とした。ナンバリング導入について全学教務委員会で検討した。	達成度20% 【指標1】については検討できなかった。今後、指標の見直しも含めて検討したい。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標の到達度を定量的、定性的に示す指標を引き続き検討する。 [1-2] 学科間のカリキュラムの通用性を見出すために、カリキュラムマップのフォーマットの共通化を引き続き検討していく。		

(2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。	[1-1] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。 [1-2] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。	
[1-2]	教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標の作成を行う。	具体的な指標の作成は行われなかった。	2016年度中の作成には至らなかったが、2017年度中の作成に向けた検討を進めていく。
	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標の作成を行う。	具体的な資料の作成は行われなかった。	2016年度中の作成には至らなかったが、2017年度中の作成に向けた検討を進めていく。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 他学部・他分野とのより緊密・高度な連携・協力関係構築を視野に入れて、受け入れる学生の変化に適合した教育目標、学位授与方針を新たに構築する。 [1-2] これまで指標の作成が行われなかった原因を分析し、新たな教育目標と教育課程の編成方針との関連について検討を進める。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知し認知度の向上を図る	①刊行、掲載実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] ホームページでの公表を引き続き行う。	ホームページでの公表を継続している。	認知度調査を行うには至らなかったため、具体的な調査方法を検討する必要がある。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 社会に向けてホームページでの公表を引き続き行う。また情報ポータル等を利用し個々の学生への周知を図る。		

(3) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1]	教育目標と学位授与方針との関連性を確定し検証する。	[1-1]①教育目標とディプロマポリシー
[1-2]	教育目標と教育課程の編成・実施方針との整合性を検証する。	[1-2]①カリキュラムマップ
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針に沿った教育ができているかを引き続き検証する。	教育目標に関連できるディプロマポリシーに改訂した。
	[1-2] 教育課程の編成・実施方針に基づいてカリキュラム運営できているかを引き続き検証する。	コースの魅力が伝わる履修をするためにコースごとに推奨する科目を選定し、シラバスに掲載した。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		関連性を確認しながらディプロマポリシーを改訂した。今後、継続して検証していく。
		整合性を整えるため、履修すべき科目をシラバスに記載した。今後、学生に周知し、カリキュラム運営に支障がないようにしたい。
2017年度	年次計画内容	
	[1-1] 教育目標と学位授与方針に沿った教育ができているかを引き続き検証する。	
	[1-2]	
	1)教育課程の編成・実施方針に基づいてカリキュラム運営できているかを引き続き検証する。	
	2)現カリキュラムの完成年度にあたり、カリキュラムの点検を行う。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1]	刊行物、ホームページ等を通じて公表する。	①刊行、掲載、説明実績
[2-2]	オープンキャンパスやガイダンス等で周知し、認知度の向上を図る。	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1]	
	1)学科パンフレットにおいて教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を掲載し、周知を図る。	1)年度初めに学部広報委員会を2回実施し、広報戦略や広報の方法を確認した。また、ニュースレターを作成した。
	2)ホームページを有効に活用し、ゼミナール活動や授業内容などを広報する。	2)ホームページへの記事掲載を各教員に依頼し、さまざまな行事の記事を掲載することができた。
	3)予算がかかる事業についてはホームページ等で外部への公開を義務付けることを検討する。	3)公開を呼びかけたが、すべての事業を公開することはできなかった。
	[2-2] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針等について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会にて説明を行い、周知を図る。	各学年の学部ガイダンスおよび4回のオープンキャンパスにおいて、教育目標、学位授与方針および教育課程について説明を行い、周知を図った。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		就職実績をまとめたパンフレットを作成するとともに、14件の記事を大学ホームページで公開した。ただし、予算がかかる事業についての外部への公開を呼びかけたが、すべての事業を公開することができなかつたため、来年度以降改善したい。
		すべてのイベントにおいて説明し、周知を図った。来年度以降は伝え方に工夫をしていきたい。
2017年度	年次計画内容	
	[2-1]	
	1)学科パンフレットにおいて教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を掲載し、周知を図る。	
	2)ホームページを有効に活用し、ゼミナール活動や授業内容などを広報する。	
	3)予算がかかる事業についてはホームページ等で外部への公開を義務付けることを検討する。	
	[2-2] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針等について、学部ガイダンスやオープンキャンパス、父母懇談会にて説明を行い、周知を図る。	

(4) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1]	教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。	[1-1]
[1-2]	教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。	関連性対照表を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。
		[1-2]
		関連性対照表を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 教育目標と学位授与方針の適切な維持を継続するための方法について、具体的な検討を行う。	思想領域の専任教員の欠員が非常勤により補われ、教育目標と学位授与方針とに大きな問題が生じているとまではいえないので具体的な検討には至らなかったが、適切な維持のための方法としては欠員補充を必要があると認識した。
	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との一致度を確保するためにはどのような指標が有効か検討する。	教育目標と教育課程の編成方針との一致度については各教育課程における2017年度の開講科目決定にさいしても留意した。確認のための「指標」についての検討はしなかった。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		状況は前年度と同じなので、引き続き、教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を定期的に検証し適切に維持するための方法の確定(関連性対照表の作成も含めた)と、それを活用するためのマニュアル化が必要である。 【指標なし】
		教育目標と教育課程の編成方針は適切に維持されている。それ以上の、有効な指標というものはイメージできていない。 【指標なし】
2017年度	年次計画内容	
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を定期的に検証し適切に維持するための方法の確定(関連性対照表の作成も含めた)と、それを活用するためのマニュアル化の具体的検討を行う。	
	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を定期的に検証し適切に維持するための方法の確定(関連性対照表の作成も含めた)と、それを活用するためのマニュアル化の具体的検討を行う。	

4.教育内容・方法・成果

4-1 教育目標、他

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	年度当初の学年別ガイダンス等で周知し認知度の向上を図る。	[2-1]	
[2-2]	刊行物、ホームページ等を通じて公表する。	①教育目標、DP、CPの認知度調査 ②新年度ガイダンス資料実績	
		[2-2]	
		①教育目標、DP、CPの認知度調査 ②刊行物、ホームページ等の掲載実績	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、年度当初の学年別ガイダンスにおいて周知する。教育目標、DP、CPの認知度調査については有効かつ実行可能な方法について検討する。	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、年度当初の学年別ガイダンスにおいて周知した。教育目標、DP、CPの認知度調査については有効かつ実行可能な方法について引き続き検討する。	① 教育目標、DP、CPの認知度調査についてはいまだに具体案がないため、来年度以降も有効かつ実行可能な方法について検討していきたい。【指標なし】 ② 学年ごとにガイダンスで周知した。【指標② 2016年度学年別ガイダンス資料】
	[2-2] 学科ホームページにも教育目標、DP、CPの掲載を行い、認知度の向上を図る。	学科ホームページにも教育目標、DP、CPの掲載を行い、認知度の向上を図った。	①教育目標、DP、CPの認知度調査についてはいまだに具体案がないため、来年度以降も有効かつ実行可能な方法について検討していきたい。【指標なし】 ②学科サイトへの掲載を行った。【指標②人間科学科独自サイト】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、年度当初の学年別ガイダンスにおいて周知する。教育目標、DP、CPの認知度調査については、調査の対象と調査を行える機会を具体的に検討する。		
	[2-2] 引き続き、学科ホームページにも教育目標、DP、CPの掲載を行い、認知度の向上を図る。		

(5) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標、学位授与方針および教育課程編成方針を適切に維持するために、現状を分析し点検と評価を行う。	連関性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは連関のない(弱い)項目を抽出する。	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 前年度の取り組みに続き、今年度は教育目標と学位授与方針の内容を照らし合わせ、検証する。	今年度は教育目標と学位授与方針の対応関係を検証し、すべての項目に関して概ね高い関連性があることが明らかになった。また、3ポリシーの提示に関連して学位授与方針と教育課程方針の対応関係についても検証を行うことができた。	2016年度は計画通り教育目標と学位授与方針の対応関係について検証するとともに、学位授与方針と教育過程編成方針の対応関係についても検討することができた。次年度も教育目標、学位授与方針および教育課程編成方針の適切な維持に向けて、点検と評価を継続的に行う。【指標「連関性対照表」「3つのポリシー案(英語英米文学科)」】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を適切に維持するために、点検と評価を引き続き行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、出版物や大学ホームページに掲載し、広く一般に公表する。また新入生には、ガイダンス等で周知し、学生の認知度の向上を図る。	①大学HP ②新年度ガイダンス資料 ③履修要項	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育過程の編成・実施方針について、履修要項を活用した学生の認知度向上についてさらに検討を進める。	履修要項を活用した教育目標、教育課程の編成・実施方針および学位授与方針の認知度向上のための第一歩として、学科長、学科教務委員、教育支援課担当職員の間で話し合いを行い、学生向けのガイダンス等で周知を測るための具体的な手立てについて検討した。	大学HPや履修要項への記載を継続するとともに、実務者間で履修要項を活用した認知度の向上について協議することができた。学生向けのガイダンスでオリエンテーションを行うための具体的な案が出たため、来年度はその実現に向けてさらに討議を進めたい。【指標③】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針をガイダンス等で学生に周知させる方法について、引き続き検討する。		

(6) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1]	教育目標と学位授与方針について、連関性及び一致度を測る指標を作成し、両者の整合性を検証する。	[1-1] 連関性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは連関のない(弱い)項目を抽出する。
[1-2]	教育目標と教育課程の編成方針について、連関性及び一致度を測る指標を作成し、両者の整合性を検証する。	[1-2] 連関性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは連関のない(弱い)項目を抽出する。

2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-2] 教育目標と学位授与方針に関する一致度に関して、継続して検討を行う。	昨年度の一致度評価により、教育目標と学位授与方針の一致は達成できていると考える。	今後、両概念の運用上の齟齬がないかをさらに検討していく。【指標なし】
	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針について、一致度の再検討を行い、その課題を具体化する。	昨年度の検討により、教育目標と教育課程の間に、非一致性が認められた。教育課程編成方針に従い、カリキュラムに不足する点を見出している。	今後数年にわたり、不一致性を改善するカリキュラムの改善に取り組む。【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	[1-2] 教育目標と学位授与方針に関する一致度を損なわぬよう現行の水準を保つ。		
	[1-2] 教育目標と教育課程の間に、非一致性が認められるカリキュラムの不足を改善する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 人文学部においては、「教育目標」、「学位授与方針」および「教育課程の編成・実施方針」は、大学ホームページ上で公開し、大学構成員(教職員および学生等)は、必要なときに自由にそれを参照することができるようにする。また、これらを「履修要項」に明示しこの媒体を利用して参照することも可能にする。更に、入試説明会、オープンキャンパスなども積極的に利用し、社会への周知を図る。			①大学ホームページ ②履修要項
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 「教育目標」、「学位授与方針」について、2015年度に引き続き大学ホームページ上で公開し、更に社会への周知を図る。	「教育目標」「学位授与方針」は引き続きホームページに掲載されている。その他新生にも口頭で説明している。	現行の周知方法のほかにもさらなる機会を繰り返し発信していくことが必要であろう。【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 「教育目標」、「学位授与方針」について、周知できる機会を探る。		

(7) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標と学位授与方針、教員養成の理念などを現状と将来を配慮して検証し、再構成する。 [1-2] 教育目標と教育課程編成方針との関連性および一致度を測るための工夫をする。			[1-1] [1-2] ①教育目標に基づいた学位授与方針や教員養成の理念 ②教職課程履修カルテ
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] これまでの現在の教育目標と学位授与方針の一致度を作成、総括しながら、教職課程・保育士養成カリキュラムの目標を示し、今後の再編への基礎資料とする。	第1段階として、これまでの現在の教育目標と学位授与方針の一致度を作成、総括しながら、教職課程・保育士養成カリキュラムの目標に関する検証作業をおこなった。	調査を3/3実施。検証を2/2を実施。達成0/3を実施。 【指標「計画表」D4-1-1:「第1段階」】 【指標「保育実習ハンドブック」】 【指標「教職課程の単位認定の厳格化について」】
	[1-2] 教職課程希望学生の「教職課程履修カルテ」の記入と活用を促し、保育士養成課程の進行状況を確認(実習報告会など)して「保育実習ハンドブック」の有効性を確認し、教育目標と教育課程編成方針との関連性および一致度を測る。	「教職課程履修カルテ」の記入と活用を促し、保育士養成課程の進行状況を実習報告会などでおこない「保育実習ハンドブック」の有効性を確認した。教育目標と教育課程編成方針との関連性および一致度を検証して再編への方針を作成した。	調査を1/1実施。検証を1/2を実施。達成0/1を実施。 【指標「計画表」D4-1-1:「第2段階」】 【指標「教職課程履修カルテ」】 【指標「保育士実習報告会」資料】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 現在の教育目標と学位授与方針を総括して、教職課程・保育士養成カリキュラムの目標を確認し、再編へと活かしていく。		
	[1-2] 教員希望学生の「教職課程履修カルテ」の記入と活用を促し、保育士養成課程の完成年度として「保育実習ハンドブック」の有効性を検討し、教育目標と教育課程編成方針との整合性を図る。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知するとともに、教育実習・保育実習等を通して認知度の向上を図る。			①刊行、掲載、閲覧実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査(全学) ③ホームページ更新数、閲覧数
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] こども発達学科の情報を各種の媒体を通じて公表する。学生・保護者へも周知するために、学科のブログを全教員が更新できるようにする。また新システムへの移行を重点的に行う。	こども発達学科のHPをすべてWordPressで作成し、学科の教員が更新しやすいように全面リニューアルし、2017年2月中旬からリニューアル版を運用している。また、2月末に、学科の様々な授業風景や行事、教職採用試験対策の取り組み、卒業生との交流などについてブログから抽出した記事を簡潔にまとめたカラー版の通信を作成し、在籍する全学生の保護者宛に発送した。	現状分析を3/3実施。検証を2/2を実施。達成1/2を実施。 【指標「計画表」D4-1-2】 【指標「履修要項」】 【指標「HPのアクセス状況」】 【根拠資料 リニューアルしたホームページ】 【根拠資料 2016年度版「こ発の森」通信】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] こども発達学科の最新情報をホームページや各種メディアなどで公表する。学生・保護者へも周知するために、学科のホームページを全教員が更新できるようにする。また新システムへの移行を重点的に行う。		

4.教育内容・方法・成果

4-1 教育目標、他

(8) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標と学位授与方針との関連性および整合性を検証する。	[1-1]	
[1-2]	教育目標と教育課程の編成方針との関連性および整合性を検証する。	①教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性を示す。 [1-2] ①教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性を示す。	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育環境の変化に積極的に対応するために、教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。	[1-1] 教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性をはかる、全学的な教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の見直しがあり、必要な修正をおこなった。	[1-1] 教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性が図られるように改善した。
	[1-2] 教育環境の変化に積極的に対応するために、教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性をはかる、全学的な教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の見直しがあり、必要な修正をおこなった。	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性が図られるように改善した。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 教育目標と学位授与方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。		
	[1-2] 教育目標と教育課程の編成方針を比較対照して、文章上の整合性を検証する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知し認知度の向上を図る。	①印刷物、HPなどへの掲示実績	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、印刷物、HPなどを通じて公表するとともに、ガイダンス等で周知するように努める。	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成方針については、その要点について法学部独自ホームページ、ニュースレターなどを通じて公表するとともに、在学生のガイダンス等で紹介し認知度の向上を図っている。	[2-1] 法学部の独自ホームページでは、「カリキュラムの概要」「コースとカリキュラム」「法学部の学び」の項目を設け、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成方針について、それらの要点を紹介している。またニュースレターを通じて、高校に、また在学生に紹介し認知度の向上に努めてきた。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を、印刷物、HPなどを通じて公表するとともに、ガイダンス等で周知するように努める。		

(9) 社会情報学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標、学位授与方針に基づいた教育課程の編成に応じた適切な科目担当者を配置する。	[1-1] ①科目担当者の一覧 ②専任教員人事実績	
[1-2]	教育目標、学位授与方針に基づいた教育課程の実施方針を確認し、科目を維持する。	[1-2] ①開講科目の一覧 ②時間割配置の評価	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育課程の編成に応じた科目担当者配置ができるように努める。	[1-1] 教育課程の編成に応じた科目担当者を配置した。ただし、学部学生募集停止に基づいた非常勤講師の削減および人事凍結に伴い、専任教員については担当科目数の過剰が今年度も認められる。	[1-1] ①開講科目及び担当者一覧【2015年度2月,3月教授会資料:資料1,2】、専任教員の平均コマ数7.5、最大10.07。非常勤講師担当総コマ数8。 ②専任教員人事は行われていない
	[1-2] 各科目の教育課程の実施方針への対照を再度確認する。	[1-2] 各科目の教育課程の実施方針は対照されているが、教育課程設定時の想定専任教員数よりも少ない人数で科目は維持されている。	[1-2] ①履修モデル・カリキュラムマップ【履修要項:資料3,4】 ②時間割【履修要項:資料5】、学部教育課程設定の当初よりも少ない教員数で科目を配置しているため時間割は余裕がない。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	社会情報学の観点からの教育課程の実施方針について紀要を通じて公表する。	[2-1] ①教育課程の方針に関する論文の紀要掲載実績	
[2-2]	教育課程の編成・実施方針についてガイダンス等で周知する。	[2-2] ①ガイダンスの施行実績	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 教育課程についてのこれまでの公表実績を検討する。	[2-1] 学部教育課程については、これまで数回にわたり紀要等に掲載されている。	[2-1] ・高田洋、2017、「社会情報学部カリキュラムの変遷からみる社会情報学の展開と教育(追補版)」『社会情

		また、2017年2月に発行された紀要『社会情報』に追補版が掲載された。	報』25(1-2):7-13。 ・高田洋、2012、「社会情報学部カリキュラムの変遷からみる社会情報学の展開と教育」、『社会情報』22(1):13-20。 ・大國充彦・小内純子・佐藤和洋・千葉正喜・長田博泰、2001、「社会情報学部新カリキュラムについて：カリキュラム検討委員会最終答申」、『社会情報』10(2):125-155。 ・大國充彦・佐藤和洋・千葉正喜・長田博泰、2006、「詳説社会情報学部再編案」、『社会情報』16(1):121-1。 ・小内純子、1998、「社会情報学教育と社会調査：社会情報調査実習の必修化を目前にして」、『社会情報』7(2):21-27。 ・斉藤たつき、1996、「社会情報学教育の確立にむけて：札幌学院大学社会情報学部の新カリキュラムのめざすもの」、『社会情報』5(2):111-118。 ・斉藤たつき、1998、「社会情報学教育の展望：札幌学院大学社会情報学科カリキュラムの改訂と将来の課題」、『社会情報』7(2):1-4。 ・田中一、1992、「社会情報学の門出」、『社会情報』1(1):1。 ・田中一、1992、「社会情報学部の教育」、『社会情報』1(1):109-121。
	[2-2] 教育課程の編成・実施方針についてガイダンス以外の周知方法を検討する。	[2-2] ガイダンス等の周知を行った。	[2-2] 学部ガイダンスが年度当初に行われた。

(10) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 本研究科の教育目標を踏まえ、学位授与方針および教育課程編成・実施方針を適切に設定する。その際、2つの方針の間の連関に留意する。			
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 本研究科の教育目標を踏まえ、学位授与方針および教育課程編成・実施方針を適切に設定されているのか検討し、必要性があれば見直す。その際、2つの方針の間の連関に留意する。	[1-1] 学校教育法施行規則の改正に伴い、学位授与方針、教育課程編成方針を改定した。	新教育課程編成・実施方針、参照。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 本研究科の教育目標を踏まえ、学位授与方針および教育課程編成・実施方針を適切に設定されているのか検討し、必要性があれば見直す。その際、2つの方針の間の連関に留意する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて学内外に公表する。また、学生にはガイダンス等で周知し、認知度の向上を図る。			①刊行、掲載実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 2015年度に引き続き、刊行物、ホームページ等を通じて学内外に公表する。また、学生にはガイダンス等で周知し、認知度の向上を図る。	[2-1] ①『大学院案内2017』及び大学院ホームページを通じて、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を学内外に公表した。 ②院生には4月初頭のガイダンスでそれらを周知した。	①『大学院案内2017』及び大学院ホームページ、参照。 ②教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の認知度調査は特に実施していない。個別組織ではなく、全学で行うことを検討した方がよいと考える。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 2016年度に引き続き、刊行物、ホームページ等を通じて学内外に公表する。また、学生にはガイダンス等で周知し、認知度の向上を図る。		

(11) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理士養成指定大学院として認定協会からの要請を満たすカリキュラムを維持し継続する。			①カリキュラム
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 必要なカリキュラムを維持し継続する。	計画に沿って遂行した。	①達成
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 必要なカリキュラムを維持し継続する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 拡大事例検討会などのイベントやホームページに適切な情報を掲載する。			①掲載実績
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 事例検討会の案内やホームページなどにおいて研究科の情報を適宜、掲載	計画に沿って遂行した。学科・研究科・心理臨床センターが関わる市民講	①達成

4.教育内容・方法・成果

4-1 教育目標、他

	載する。	座にてパンフレットなどを配置した。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 事例検討会などの案内や大学院入試説明会、ホームページなどにおいて研究科の情報を適宜、掲載する。	

(12) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。 [1-2] 教育目標と教育課程の編成方針との関連性および一致度を測るための指標を作成し、両者の間の整合性を検証する。	[1-1] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。 [1-2] ①関連性対照表(参考例参照)を作成し対照表に基づいて一致度を検証する。あるいは関連のない(弱い)項目を抽出する。
2016年度	年次計画内容 [1-1] 昨年度行った教育目標と学位授与方針との関連性にもとづき教育目標と学位授与方針の一致度を測る指標について検討する。 [1-2] 昨年度行った教育課程編成方針との関連性にもとづき教育目標と教育課程編成方針の一致度を測る指標について検討する。	計画実施状況 今年度は検討できなかった。 今年度は検討できなかった。
		指標に基づく中期目標の達成状況
2017年度	年次計画内容 [1-1] 教育目標と学位授与方針との関連性にもとづき教育目標と学位授与方針の一致度を測る指標について検討する。 [1-2] 教育課程編成方針との関連性にもとづき教育目標と教育課程編成方針の一致度を測る指標について検討する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
	[2-1] 刊行物、ホームページ等を通じて公表する。またガイダンス等で周知し認知度の向上を図る	①刊行、掲載実績 ②教育目標、DP、CPの認知度調査
2016年度	年次計画内容 [2-1] ①大学院研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針を大学院ホームページ、入試案内用パンフレット、大学院便覧等に記載し周知徹底する。 ②パンフレットの内容を見直し、教育目標、教育課程の内容等が伝わりやすいように工夫する。	計画実施状況 ①大学院研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針を大学院ホームページ、入試案内用パンフレット、大学院便覧等に記載し周知徹底した。 ②今年度もパンフレットの記載事項の構成を変更した。また新たにリーフレットを作成し、社会連携センター、ちえりあなどに置いた。また退職世代の卒業生にリーフレットの送付をおこなった。
		指標に基づく中期目標の達成状況 ①入試パンフレット、ホームページ、大学院便覧等に記載した ②認知度調査は行っていないが、周知はしている。
2017年度	年次計画内容 [2-1] ①大学院研究科の教育目標、ディプロマ・ポリシー及び教育課程の編成・実施方針を大学院ホームページ、入試案内用パンフレット、大学院便覧等に記載し周知徹底する。 ②学科パンフレットを作成し、教育目標、教育課程の内容等を記載する。	

4-2. 教育課程、教育内容

中期目標
【目標1】教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成する。
【目標2】教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供する。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。	【1-1,1-2 共通】 ①入学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別 GPA 分布・推移 ③カリキュラムマップやナンバリングによる体系性の表現と学生のアウトカム(成果)検証	
[1-2]	コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し教育効果を高める。(修士課程)		
2016年度	年次計画内容 [1-1] 順次性の明示化するコースナンバーの導入検討を引き続き行う。また、時間割運営を円滑に行えるよう大学全体の授業科目を削減する方法を引き続き検討する。	計画実施状況 教育支援課からナンバリングに関する調査報告を受け、導入にあたってのメリット・デメリット等について検討を行った。過去の履修人数の推移等を検証し、開講クラスの統廃合を行った。グローバル科目群の開設にあたり科目を階層化し(導入科目・展開科目)、将来のコースナンバー制導入の下地を整えた。2000~2012年度入学者の高校ランク別のGPA推移、卒業率、進路状況等を調査、検討した。	指標に基づく中期目標の達成状況 達成度 50% 【指標1】については検討できなかった。今後、指標の見直しも含めて検討したい。今年度は以下の資料をもとに検討を行った。 ①全学教務委員会資料(ナンバリング、GPA推移) ②グローバル科目階層化関係資料 ③2000~2012年度入学者の高校ランク別のGPA推移、卒業率、進路状況表
2017年度	年次計画内容 [1-1] 順次性の明示化するコースナンバーの導入検討を行う。また、時間割運営を円滑に行えるよう大学全体の授業科目を削減する方法を検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	「社会人基礎力」の確認を行うとともに、その向上策を検討・実施する。また、「学習習慣」を身につけさせる方策を検討・実施する。	【2-1】 ①入学時の基礎力確認 ②学年進行後の基礎力確認 ③学習ポートフォリオの整備や、蓄積された学修成果の検証 【2-2】 ①入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)	
[2-2]	入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検討する。		
2016年度	年次計画内容 [2-1] 基礎科目(国語、数学、英語)の入学時プレースメントテストの全学的導入を引き続き検討する。また、「学習習慣」や「時間外学習」との関連性を見出すため、学年進行時での学力測定の検討を継続する	計画実施状況 昨年度から国語のプレースメントテストを経済学部で実施。今年度は経済学部に加え、経営学部と人間科学科に導入し、「論述作文」のクラス編成に利用した。来年度はさらに法学部を加える予定となっている。FDセンターと連携して、3つのプレースメントテスト(国語、英語、数学)の導入効果等について検討を行った。1年次・2年次を経年的に比較した行動調査を行い、時間外学習、学習習慣等の実態把握を行った。グローバル科目群開設に伴い、学士力の記載事項を、より時節に叶ったものに変更した。	指標に基づく中期目標の達成状況 達成度 75% 【指標2】[2-1]については十分に検討が進まなかった。今後は指標の見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。 ①国語プレースメントテスト分析表(FD研究会資料) ②1年次、2年次行動調査分析結果
	[2-2] 現状の入学前学習の評価と入学前スクーリングなどの導入を継続的に検討する。	計画実施状況 入学前学習は、全学科で実施しており、課題の提出率はほぼ100%である。入学前学習の結果については、1年生ゼミ担任、教務委員等で情報共有している。入学前学習の成果と入学後の学修成果との関連等について分析は進まなかった。入学前スクーリング(数学)については実施できなかった。	達成度 50% 【指標2】[2-2]については十分に検討が進まなかった。次年度はIR分析結果からの検証が必要。入学前スクーリングの実施について検討が必要。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 基礎科目(国語、数学、英語)の入学時プレースメントテストの全学的導入を引き続き検討する。また、「学習習慣」や「時間外学習」との関連性を見出すため、学年進行時での学力測定の検討を継続する。 [2-2] 入学前学習を「学力の三要素」「社会人基礎力」、大学での学びへのマインドセットの診断のために実施する。そしてその結果を、入学後の指導資料として活用する。同様の目的に基づいて、入学前スクーリングを導入する。		

(2) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1]	専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。	【1-1,1-2 共通】 ①入学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別 GPA 分布・推移
[1-2]	コースワークとリサーチワークをバランスよく配置し教育効果を高	

4.教育内容・方法・成果
4-2 教育課程、教育内容

める。(修士課程)		③カリキュラムマップやナンバリングによる体系的表現と学生のアウトカム(成果)検証	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] カリキュラムの再編成に向けての検討を引き続き行う。	2015年度に引き続き、教務委員会において検討を行った。	教務委員会、教授会を通して、カリキュラムの再編成に向けた建設的な意見交換を行った。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 他学部・他分野とのより緊密・高度な連携・協力関係構築を視野に入れたカリキュラム改革の検討作業に入る。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 「読み、書き、計算」の基礎力の確認を行うとともに、その向上策を検討・実施する。また、「学習習慣」を身につけさせる方策を検討・実施する。経営学部では2013年度からの新カリキュラムにおいて専門科目として計算能力の向上を目指すビジネス数学Ⅰ、Ⅱを開設している。個別の検証を行いながら効果を測定していく。 [2-2] 入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検討する。			[2-1] ①入学時の基礎力確認 ②学年進行後の基礎力確認 ③学習ポートフォリオの整備や、蓄積された学修成果の検証 [2-2] ①入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 基礎ゼミにおいて「読み、書き、計算」の基礎力の確認を行い、「学習習慣」を身につけさせる方策についても検討を行う。また、ビジネス数学の効果についての測定も行う。	基礎ゼミは、前期に学習習慣を身に着けることに注力し、後期には教員学生とも入れ替えて、前期に身に着けたことを新たな環境で検証し、また適応力も養うよう努めた。 ビジネス数学Ⅰは、典型的なSPIの文章題6題を毎回試験し、このうち5問以上正解すると合格としてこの科目からは卒業させた。このことにより回を重ねる毎に受講者の数が減少し、より丁寧な説明を必要とする受講者を対象とする授業展開が少人数に対して可能となった。	基礎ゼミを前・後期で、入れ替えることの効果については、見直しを求める意見も聞かれた。主には、前期のゼミ仲間ですら固まる傾向が強く、後期に新たな試みに移行することが難しいというものであった。ただ、入れ替えを歓迎する学生が、それなりの数存在することも、判った。 ビジネス数学は、ほとんど出席しなかった受講者以外は、15回終了までにほぼ全員6問中5問以上正解し、当初の目標を達成した。
	[2-2] 入学前学習の効果について検証を行う。	2016年度の履修率は90%に留まり、昨年度に比べ5ポイントほど減少した。実施状況を見ながら、職員より未履修者への電話による呼びかけを行ったが、連絡が取れない者が若干名おり、履修率の低下に繋がった。	同様の方法を3年間継続したが、詳細な効果検証は不十分である。したがって入学後の入学前学習の履修状況と入学後の成績などの関係性について、教学IRへデータを提供し、検証を依頼するよう取り計らう。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 基礎ゼミ、経営学入門等の基礎科目を含めた初年次教育の再編を検討する。 [2-2] 初年次教育の再編と連動した入学前学習のあり方について検討する。		

(3) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教養科目と専門科目を体系的に配置し、教養教育と専門教育の理念の融合を図り、基礎教養科目と専門科目のリエゾンあるいは統合を行う。 [1-2] 異文化・多文化理解の深化、海外からの留学生(交換留学生)への教育、グローバル化での学士力の検討を進める。 [1-3] 経済学を中心とする社会科学分野を広く学習する。			[1-1] 「教養科目に関する方針」の策定とその運用状況 [1-2] 海外留学・海外研修および国内留学の派遣者数と受け入れ数の推移 [1-3] 「経済学部における社会科学分野の学修方針」の策定とその運用状況
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 1) 経済学部として重要視する教養科目をシラバスに掲載することを検討する。 2) 汎用性技能(日本語や外国語のリテラシー、情報リテラシー)の学習における基礎教育科目とその後の専門基礎科目との関連付けについて議論する。	1) 重要視する教養科目については検討していない。来年度検討する。 2) 英語教育について内容に関する要望を外国語部門に提出した。併せて、2年生以降の履修者を増やすために、指導教員から誘導するよう決定した。	「教養科目に関する方針」については策定していない。来年度策定するかも含めて検討する。
	[1-2] 1) 異文化・多文化の理解とグローバル社会に対応する3・4年次に向けた英語教育の充実を図る。具体的には、国際経済コースの学生に「英語と海外文化」や「海外フィールドワーク」の受講を促す方策を検討する。 2) 学生の海外留学・海外研修あるいは国内留学を推進する。	1) 「英語と海外文化 A, B」の履修者を確保するため、国際経済コース登録者及び英語の基礎学力がある学生には履修を指導教員から促すことを決定した。また、「海外フィールドワーク」は6名の学生が中国に行き、北京農学院大学の学生との交流を深めた。 2) 海外留学・海外研修のより積極的な参加を促す事業を来年度から実施することになった。	「英語と海外文化」の履修者が少なかったことから、来年度は増やすよう、履修すべき学生のリストを作成した。海外留学については2名、国内留学は沖縄国際大学から4名受け入れたが、派遣されていない。多くの派遣者が出るよう学生に促すと同時に来年度から始まる語学研修事業に派遣できる学生を育てたい。
[1-3] 1) 経済学を中心とする社会科学分野(法律	1) CUP コース担当教員から学習状況について情報提供を受けた。ま	社会科学分野(法律学や情報社会や社会学)の学習内容については情報提	

	学や情報社会や社会学)の学習内容の現状を把握するとともに、改善策を検討する。 2)新カリキュラムの具体化。社会科学分野の学修の到達点を検討する。	た、履修状況について教授会で確認した。 2)社会科学分野の学修の到達点については具体的な検討は行っていない。	供を確認するとともに、履修者の状況を把握したにとどまっている。今後更なる検討を行いたい。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 1)経済学部として重要視する教養科目をシラバスに掲載することを検討する。 2)汎用性技能(日本語や外国語のリテラシー、情報リテラシー)の学習における基礎教育科目とその後の専門基礎科目との関連付けについて議論する。		
	[1-2] 1)異文化・多文化の理解とグローバル社会に対応する3・4年次に向けた英語教育の充実を図る。具体的には、国際経済コースの学生に「英語と海外文化」や「海外フィールドワーク」の受講を促し、受講者増を達成させる。 2)学生の海外留学・海外研修あるいは国内留学を推進する。		
	[1-3] 1)経済学を中心とする社会科学分野(法律学や情報社会や社会学)の学習内容の現状を把握するとともに、改善策を検討する。 2)新カリキュラムの具体化。完成年度を迎え、カリキュラムを点検し、社会科学分野の学修の到達点を検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進	[2-1]	①学習ポートフォリオの整備や、蓄積された学修成果の検証 ②海外留学・海外研修および国内留学の派遣者数と受け入れ数の推移
[2-2]	基礎力と数的処理能力やコミュニケーション力や汎用的技能の養成・鍛錬	[2-2]	①英語資格試験の取得状況 ②コンピュータ関連の資格取得状況 ③ゼミナール所属率
[2-3]	経済的思考力のための学習	[2-3]	①授業評価アンケート ②講義の受講状況 ③コンピュータ関連の資格取得状況
[2-4]	社会人力(チームワーク、リーダーシップなど)を身に付ける	[2-4]	①職業と人生の履修率 ②インターンシップ参加者数 ③ジョブパス3級の合格率
[2-5]	情報社会を意識した学習や職業能力と職業を意識する学習およびコンピュータ実習とコミュニケーション力の養成	[2-5]	①コンピュータ関連の資格取得状況 ②コンピュータ基礎の成績分布
[2-6]	教育課程とエクステンションセンターの連続性を図る	[2-6]	①エクステンションセンター受講状況 ②エクステンションセンターによる資格取得者の推移 ③エクステンションセンター受講補助利用者数
[2-7]	データ収集/データ分析とマルチメディア処理と情報通信ネットワーク教育の連携	[2-7]	①情報関連科目の受講状況
[2-8]	入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検討する。	[2-8]	①入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 1)経済のグローバル化に対して、学生の日本語能力、数的処理能力、ならびに英語などの外国語の能力を鍛錬する学習方法の改善と推進を図る。 2)学生の異文化体験やコミュニケーション力の向上を図るために、国内留学制度や海外の留学制度を引き続き活かす。 3)国際コースの学生に対して語学留学の補助を検討する。	1)経済のグローバル化に対して、英語教育について検討し、履修者数を増やすための方策を作成するとともに教育内容の要望を行った。 2)海外の交換留学で2名の受け入れを行った。さらに、英語の語学留学について検討し、具体的な実施方法を策定した。	経済のグローバル化に対する学習方法の改善は、次年度も継続して行う。学習ポートフォリオの活用方法は次年度の検討課題である。
	[2-2] 1)ユニバーサル段階の学生に対応し、学生の言語能力と数的処理能力などの基礎力の向上をはかる。 2)「論述・作文A、B」との連携を維持するとともに、能力別クラス編成の効果について検証する。 3)ゼミナール活動などを通して学生のコミュニケーション・スキルの向上を引き続き図る。 4)学内外での英語資格試験(例えばTOEIC)の受験を学生に働き掛ける。 5)さらなるゼミナール間の相互交流など	1)「論述・作文A、B」では昨年度に引き続き、能力別のクラス編成を行い、基礎力の向上に努めた。 2)ゼミナール活動を通して学生のコミュニケーション・スキルの向上に努めた。 3)英語資格試験(例えばTOEIC)の受験料補助を考え、来年度から「英語と海外文化」受講者に対して受検させることを決めた。 4)卒業論文・ゼミナール論文の発表会を学部単位で行い、ゼミナールの相互交流を実現した。	基礎力と数的処理能力やコミュニケーション力や汎用的技能の養成・鍛錬は継続して取り組んでいる。その中で、教養科目の英語の履修指導を取り入れた。

4.教育内容・方法・成果
4-2 教育課程、教育内容

	を検討する。		
	[2-3] 1)経済（学）的思考力のための授業内容の充実を引き続き図る。 2)経済学などの専門の基礎を固めるために、専門基礎科目の連携の現状を検証する。－たとえば「マイクロ経済学 I」と「マイクロ経済学 II」など科目の継続的な受講がどのくらいされているか 3)コース選択の方法を確立する。	1)各担当教員の努力により授業内容の充実を図ることができた。 2)コースごとに推奨する科目をシラバスに提示し、基礎を固めるための体系的な学修を確立した。しかし、継続的な受講に関しては調べていない。	経済的思考力のための学習の充実に努めている。カリキュラムマップと整合するように推奨すべき科目を学生に提示した。また、アクティブラーニング教室や産業調査実習室の利用の仕方については従来通りの方法であった。
	[2-4] 1)キャリア教育科目間の相互関連・連携を図る。特に「職業と人生 I から IV」、「インターンシップ」、の受講率を上げる。 2)OB・OGや官公庁や民間企業の学外講師を招き、学生の職業意識と職業能力の伸張を図る。 3)ビジネス演習 Aにおいて、ジョブパス 3 級の合格率を上げる。	1)「職業と人生 I から IV」、「インターンシップ」、および「産業調査演習」などの体験型学習を通じて学生の職業能力や社会人力（チームワークやリーダーシップなど）の増進に努力した。 2)経済学特別講義 B において 13 人の学外講師を招いた。また、専門ゼミナール II の時間帯に 1 回学外講師を招き、学生の職業意識の伸張に努めた。 3)ジョブパスの合格率は 88%と前年の 92%を下回る結果となった。	①職業と人生の履修者は昨年度並みであったが、出席率が低いと報告があり、指導を徹底させている状況である。 ②「インターンシップ」の履修者数は昨年度に比べ半減したため、個人での参加を促したが、実態は把握していない。 ③昨年度に比べジョブパスの合格率が下がったことから、次年度担当教員とともに合格率を高めるための方策を検討したい。
	[2-5] 学生の情報関連科目の履修状況の調査およびコンピュータ基礎の成績分布の分析を行う。	情報関連科目の履修状況の調査およびコンピュータ基礎の成績分布を作成した。	情報関連科目の履修状況を把握するにとどまった。今後は少ない履修者の中でどのように資格取得を意識させるかが課題である。
	[2-6] 1)エクステンションセンターを活用し、学生の資格取得の支援を行う。 2)全学的に実施されているエクステンションセンターの受講料補助を積極的に活用する。	エクステンションセンターのいくつかの講座に対して受講料補助を行う制度を設け、10名の学生に補助を行った。	受講料補助の案内は教員が知らない中で進められたため、学生への呼びかけができなかった。さらなる学生の資格取得の支援をするため、キャリア支援課との連携を深めたい。
	[2-7] 経済学部カリキュラムにおいて情報教育の位置づけおよび推奨する履修方法の検討を行う。	CUP コース担当教員から学習状況について情報提供を受けるとともに、履修状況を確認した。推奨する履修方法についてもシラバスに掲載することを決めた。	情報教育の位置づけは行われていない。情報関連科目の履修者を確保することが、今後の課題である。
	[2-8] 過去 2 年間の入学前学習の状況と入学後の成績を比較して、効果の検証を検討する。	入学前学習の状況は調査したが、入学後の成績とは比較していない。	入学前学習の効果の評価には至っていない。高等学校との連携の方策についても定まっていない。
2017 年度	[2-1] 1)経済のグローバル化に対して、学生の日本語能力、数的処理能力、ならびに英語などの外国語の能力を鍛錬する学習方法の改善と推進を引き続き図る。 2)学生の異文化体験やコミュニケーション力の向上を図るために、国内留学制度や海外の留学制度を引き続き活かす。 3)国際コースの学生に対して語学留学の補助が実施できるよう学生に呼びかける。 4)初年次教育における自校教育について検討する。		
	[2-2] 1)ユニバーサル段階の学生に対応し、学生の言語能力と数的処理能力などの基礎力の向上をはかる。 2)「論述・作文 A、B」との連携を維持するとともに、能力別クラス編成の効果について検証する。 3)ゼミナール活動などを通して学生のコミュニケーション・スキルの向上を引き続き図る。 4)「英語と海外文化」受講者に対する TOEIC の受講補助を活用し、語学能力向上の支援を行う。 5)さらなるゼミナール間の相互交流などを検討する。		
	[2-3] 1)経済（学）的思考力のための授業内容の充実を引き続き図る。 2)経済学などの専門の基礎を固めるために、専門基礎科目の連携の現状を検証する。－たとえば「マイクロ経済学 I」と「マイクロ経済学 II」など科目の継続的な受講がどのくらいされているか 3)コース別に的確な履修ができるよう学生に指導するとともに、現状を確認する。		
	[2-4] 1)キャリア教育科目間の相互関連・連携を図る。特に「職業と人生 I から IV」、「インターンシップ」の受講率を上げる。 2)OB・OGや官公庁や民間企業の学外講師を招き、学生の職業意識と職業能力の伸張を図る。 3)ビジネス演習 Aにおいて、ジョブパス 3 級の合格率が 90%以上にするよう教育する。		
	[2-5] 1)学生の情報関連科目の履修状況の調査およびコンピュータ基礎の成績分布の分析を行う。 2)CUP コース情報プログラムの学生には資格取得するよう教育するとともに実績を把握する。		
	[2-6] 1)エクステンションセンターを活用し、学生の資格取得の支援を行う。 2)全学的に実施されているエクステンションセンターの受講料補助を積極的に活用する。		
	[2-7] 経済学部カリキュラムにおいて情報関連科目の履修者の状況を把握するとともに、情報教育の位置づけの検討を行う。		
	[2-8] 1)過去 2 年間の入学前学習の状況と入学後の成績を比較して、効果の検証を検討する。 2)入学前学習の提出方法について moodle を用いた方法の実施を検討する。		

(4) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。		①カリキュラムマップやナンバリングによる科目の体系性の表現 ②入学年度別単位取得状況分布・推移 ① 入学年度別 GPA 分布・推移
2016年度	年次計画内容 [1-1] 学年進行に伴って教育効果が高まるような科目配置になっていない可能性がないか検討する。	計画実施状況 カリキュラムマップにより順次性のある授業科目を体系的に配置しそれを学生に提示した。科目配置という形式についてはとくに問題はない。
		達成度評価指標【指標1】 ①カリキュラムマップにより科目の体系性を表現した。 【指標①カリキュラムマップ】 ②【指標なし】 ③2013年度以降の入学生についてはGPA推移が上向いている。学年進行に伴って教育効果が高まるような科目配置に改善された可能性がうかがえる。しかし、教養教育の専門教育への効果については別の検討が必要かもしれない。【指標③入学年度別GPA分布・推移】
2017年度	年次計画内容 [1-1]専門教育からみて教養教育が効果的に配置されているかどうかについて検証する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 教育課程の編成・実施方針に基づいた、各課程に相応しい教育内容を提供するための創意工夫に努める。 [2-2] 基幹科目「人間科学基礎論」や、公開講座として実施する「人間論特殊講義」において、教育目標 1.「人間と人権を尊重する精神を身につけた学生を育成する」及び教育目標 3.「既存の学問分野の相互連携と学際的な研究・教育を重視し、人間と人間を取り巻く環境の諸問題に関して広い視野をもつ学生を育成する」の達成に向けた教育内容の充実を図る。		達成度評価指標【指標2】 [2-1] [2-2]共通 ①入学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別 GPA 分布・推移 ③カリキュラムマップやナンバリングによる体系性の表現と学生のアウトカム(成果)検証
2016年度	年次計画内容 [2-1] 学生の授業評価およびリアクション・ペーパーへの記述などを参考に、教育課程にふさわしく学生の能力および興味関心が引き出せる講義内容になるよう工夫する。	計画実施状況 全学教務委員会の依頼により、「学生による授業評価アンケート結果の組織的活用」の一環として、学生からの高評価が特徴的な項目にある教員(5名)に対するヒアリングを実施した。その結果として見出されたのは、教員が理解度をあげるために細やかに手間をかけていることが共通していること、多人数の授業の場合、受講生とコミュニケーションをとるようにしていることである。学科および学部、全学の教務部長に向け報告した。
		指標に基づく中期目標の達成状況 左記にあるように、教員からのヒアリングの結果分析からは計画 2-1 の「創意工夫」が見て取れた。学生の興味関心を引き出せる講義内容もあった。しかし、現状の「学生による授業評価アンケート」で、「課程に相応しい教育内容」であるかどうかをみるのが適切かどうかは疑問である。 【指標 「2015年度「学生による授業評価アンケート」の結果分析「2015年度「学生による授業評価アンケート」の結果を踏まえた教員へのインタビュー」 ※7月学科会議資料・7月教務委員会資料】
[2-2]【人間科学基礎論コーディネータ】 1 年次配当の必修科目「人間科学基礎論」は2015年度から、学科の教員が週替わりで担当し、共通テーマについて各専門分野の視点から論じる形式を新たに導入している。今年度も昨年度を踏襲し「ダイバーシティ」を共通テーマとして実施する。		昨年度にひきつづき教育目標 1 および 3 をふまえて、13名の学科教員がそれぞれの研究領域の観点から人間と多様性に関わるテーマを選定して講義を実施した。教員同士による授業の相互参観なども行い、とりわけ前後する回の学問領域間の関連付けには配慮した授業運営を実施した。欠席者を少なくするための工夫などひきつづき課題を共有しながら授業を運営していく。
【人間論特殊講義コーディネータ】 長年市民向けの公開講座としても定着してきた「人間論特殊講義」について、2016年度も「道民カレッジ」の連携講座および「えべつ市民カレッジ」との共催で夏期集中講義として運営する。総合テーマを「人文力-資源としての人文知、闘争としての人文知」とし、学内諸学科の協力を得て、文化財学、歴史学、言語学、情報科学、英文学、国際交流といった専門分野を総合した学際的な内容をめざす。		「人間論特殊講義」は「人文力-資源としての人文知、闘争としての人文知」総合テーマとし、8月22日から26日まで開講した。道民カレッジ・えべつ市民カレッジとの連携講座とし、講時ごとの実数合計で一般市民116名、本学学生42名が出席した。
		多様な専門分野が密接につながった、教育課程に相応しい内容を提供できた。しかし、履修者数は減少傾向にあることは変わらず、本学学生の幅広い視野と学際的な知識の深まりを追求するためにも、学内履修者数の増加に向けたPRが必要である。人文学部で唯一の一般市民向けの公開講座であり、地域貢献の機能を有するこの科目の継続が目指される。なお、本学学生の履修登録者は13名で、うち10名がいずれもよい成績で単位を取得した。 【指標「人間論特殊講義」情宣チラシ】 【指標「人間論特殊講義」の実施報告・出席状況 9月学科会議資料】 根

4.教育内容・方法・成果
4-2 教育課程、教育内容

		拠「評価一覧表」(教育支援課)
2017年度	年次計画内容	
	[2-1] 各課程にふさわしい教育内容の提供につながる創意工夫のアイデアについて情報を収集する。	
	[2-2] 【人間科学基礎論】1年次配当の必修科目「人間科学基礎論」は2015年度から、学科の教員が週替わりで担当し、共通テーマについて各専門分野の視点から論じる形式を新たに導入している。今年度もひきつづき「ダイバーシティ」を共通テーマとして実施する。 【人間論特殊講義】受講者が伸び悩んできた「特講」のあり方を検討する中で、OB・OGならびに本学関係者、福祉・教育の実務者へのリカレント教育的な位置づけをねらって、夏季集中ではなく前期土曜午前2コマ続きに設定した。またテーマを「人間の生命と尊厳について考える：相模原事件から1年」として、学内外の講師に登壇していただく企画となっている。最終日は学部創設40周年記念事業の「対話集会」と位置づけ、作家・社会活動家の雨宮処凛氏を招き、歴史ある人文学部公開講座としての社会的認知を高めたい。	

(5) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育課程の編成・実施方針に基づき、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。		①学年度別単位取得状況分布・推移 ②入学年度別GPA分布・推移
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] カリキュラムマップの周知方法および積極的な活用方法について検討を開始する。また授業科目体系を評価する方策として、単位取得状況・GPA分布などのデータ活用を検討する。	カリキュラムマップの周知方法と積極的な活用方法について、学科長、学科教務委員、学生支援科担当職員の間で検討を行った。また、授業科目体系を評価するための第一歩として、今年度はまず2016年度の入学年度別GPAの分布について検証した。データからは、1年生、3年生、4年生については2.0以上に学生の大部分が集まっているのに対し、2年生に関しては2.0以下のレベルに留まる学生が一定数認められることが明らかになった。
2017年度	年次計画内容	
	[1-1] カリキュラムマップを活用し、順次性のある科目体系について、履修ガイダンスなどを通して理解・周知させる。また授業科目体系を評価する方策として、単位取得状況・GPA分布などのデータの検証を継続して行う。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 一年次の導入教育から4年次専門ゼミナールまで、継続して英語運用能力を高めるために効果的な教育内容を検討する。 [2-2] 入学前学習の効果を検証する。		[2-1] ①入学時の基礎力確認 ②学年進行後の基礎力確認 ③蓄積された学修成果の検証 [2-2] 入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	
	[2-1] 英語運用能力向上に関わる新科目のうち、新規開講となる資格・検定英語、専門ゼミナールDについて、円滑な運営をめざし、点検と評価を行う。その上で、新科目間の関連性について検証を進める。	新科目のうち、資格・検定英語については科目担当者間で点検と評価を重ねた。また専門ゼミナールDについては、来年度以降の開講に向けて学科会議の場で入念な確認・検討が行われた。	指標に基づく中期目標の達成状況 2016年度は新科目の円滑な運営に向けて必要な協議を行うことができた。次年度も同様の検証を継続するとともに、専門ゼミナールDの開講にともない、新科目間の関連性についても担当者間での情報共有を行っていききたい。 【指標「2016年度9月学科会議資料 専門ゼミナールD登録(案)について」】
	[2-2] これまで行ってきた入学前課題を継続するとともに、その取り組み状況と、入学後の成績の関連性の検証を引き続き行う。	2016度も入学前課題を継続することができた。また、入学前課題の取り組み状況と入学後の成績との関連性についても検証を行い、入学前課題の得点と入学後の成績に一定の相関関係が認められることが明らかになった。	今年度も入学前課題を継続し、さらに課題の取り組み状況と入学後の成績との間に関連性が認められることが明らかになった。次年度は、この結果に基づき、入学前指導において留意すべき点についてさらに検討を深めていきたい。 【指標「2016年度3月学科会議資料 A0・推薦入学者入学前課題の結果について」】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 英語運用能力に関わる新科目の中でも、特に新規開講となる専門ゼミナールDの円滑な運営に努める、そして新科目間の関連性を継続して検証する。 [2-2] これまで行ってきた入学前課題を継続するとともに、その取り組み状況と、入学後の成績の関連性の検証を継続する。		

(6) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。		①学年度別単位取得状況分布・推移 ②学年度別 GPA 分布・推移
2016年度	年次計画内容 [1-1] 2015年度指標①②の分布を加味した上で、教育課程の体系的見直しについて2回以上学科内で教育課程検討会の場を設ける。	計画実施状況 新学部設置および公認心理師課程を見越して、毎月最低1回は「教育課程検討会」を開催し、体系的な教育課程の編成を検討した。
指標に基づく中期目標の達成状況 中期目標を達成した。【指標「教育課程検討会の開催頻度」】		
2017年度	年次計画内容 [1-1] 新学部設置を機会に、教育効果がより高まる授業科目を体系的に配置した。指標①②を経時的に測定、分析、評価する。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 教育目標をより深い水準で達成するために下記の課題に取り組む ・上位層教育の整備。 ・修学困難者への適切な処遇 ・休退学者減少のための施策整備 [2-2] 入学前学習の効果を検証し、高等学校との連携の方策を検証する。		[2-1] ①入学年度別の入退学者数 ②蓄積された学修成果の検証 [2-2] ① GPA ②入学前学習の効果の評価(入学後の成績との関連性)
2016年度	年次計画内容 [2-1] 「上位層教育の整備」「修学困難者への適切な処遇」「休退学者減少のための施策整備」と、各教育的ニーズに即した教育内容を提供するために2回以上学科内で教育課程検討会の場を設ける。 [2-2] 入学前学習の目的と効果について教育課程検討会で検討する。	計画実施状況 毎月最低1回「教育課程検討会」を開催し、「上位層教育の整備」「修学困難者への適切な処遇」「休退学者減少のための施策整備」と、各教育的ニーズに即した教育内容を提供するためにカリキュラムマップを検討、整備した。また、入学年次の違いによる GPA の経年変化について検討した。 入学前課題の目的について教員間で話し合うことはできたが、効果検証の方法を検討することはできなかった。
指標に基づく中期目標の達成状況 各教育的ニーズとそれに応じた教育内容について教員間で検討を続け、また GPA の入学年次の違いによる経年変化を共有することができた。次年度は、入試形態や入学年次と GPA をクロスさせて分析するなどし、中期目標を達成するために、集積されている本学の膨大な量的データを多角的に分析する必要がある。 【指標「教育課程検討会の開催頻度」】 【指標「入学年度別 GPA 分布・推移」】 上記[2-1]の分析結果を基に、入学前課題の目的を再検討し、効果検証の方法についても話し合う必要がある。【指標なし】		
2017年度	年次計画内容 [2-1] 既存のデータから、「上位層」「修学困難層」「休退学者」の傾向分析をし、それぞれに応じた対策案を作成する。 [2-2] [2-1]の分析結果から、入学前課題の目的を再検討し、効果検証の方法について提案する。	

(7) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 専門科目と教養科目をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] 専門教育と教養教育のバランスに留意しつつ、資格取得に向けた授業科目の順次性を考慮し、カリキュラムマップで構造化して教育効果を高める。		[1-1、1-2 共通] ①入学年度別単位取得状況分布・推移(全学) ②入学年度別 GPA 分布・推移(全学) ③カリキュラムマップなどによる体系的表現と学生の成果検証 ④教職課程履修カルテ
2016年度	年次計画内容 [1-1] 専門科目と教養科目のバランスと年次進行の体系化を、出席状況、単位取得状況や GPA から把握し、教職員で共有していく。また現状の課題を抽出する。 [1-2] 小学校教員・保育士としての資格取得に向けた必要な専門科目、社会人として必要な教養科目を見渡せるカリキュラムマップや教職課程履修カルテを活用する。また現状の課題を抽出する。	計画実施状況 専門科目と教養科目のバランスと年次進行の体系化を、出席状況、単位取得状況や GPA から把握し、教職員で共有していく。また現状の課題を抽出した。 資格取得に向けた必要な専門科目、社会人として必要な教養科目を見渡せるカリキュラムマップや教職課程履修カルテを活用する。また現状の課題を抽出した。
指標に基づく中期目標の達成状況 現状分析を 3/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-2-1:順次性のある授業科目を体系的に配置】 【指標②「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標③「カリキュラムマップ」】 【指標：「教職課程履修カルテ」】 現状分析を 2/2 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-2-1:資格取得に向けた授業科目の順次性を考慮し、カリキュラムマップで構造化して教育効果を高める】 【指標②「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標：「教職課程履修カルテ」】 【指標：「保育実習ハンドブック」】		
2017年度	年次計画内容 [1-1] 教養と教養の科目バランス、年次進行の体系化を、学生の出席状況、単位取得状況や GPA などから把握し、教職員で共有していく。課題への対策を考えていく。 [1-2] 教員・保育士としての資格取得に必要な専門科目、社会人として必要な教養科目を見渡せるカリキュラムマップや教職課程履修カルテを活用していく上で提示された課題への対策を考えていく。	

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 「読解力、理解力、計算力」という基礎力を客観的に把握し、その向上策を検討・実施する。さらに、情報処理および伝達能力という応用力の獲得を目指し、学習習慣		①入学時の基礎力確認(全学) ②学年進行毎の基礎力確認(全学)

4.教育内容・方法・成果
4-2 教育課程、教育内容

の定着を促す方策についても検討・実施する。		③学習ポートフォリオの整備（全学） ④資格講座の出席状況や模試評価
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 入学時の基礎力の確認とその変化を把握、資格取得のための講座への出席状況と模擬試験の結果などを教職員で情報共有し、学習習慣を定着する方策を検討する。	入学時の基礎力を確認し、その変化を把握して、資格取得のための講座への出席状況と模擬試験の結果などを教職員で情報共有した。学習習慣を定着する方策をFDなどで検討した。
2017年度	年次計画内容	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 入学時の基礎力および学年進行に伴う基礎力の向上策とその成果を成績等で検証する。また、応用力の獲得についてもその向上策と成果を出席状況や成績結果などから考察し、学習習慣の定着を促す方策となっているか検討する。	基礎力：現状分析を4/4実施。検証を2/2を実施。達成0/2を実施。 応用力：現状分析を3/3実施。検証を1/2を実施。達成0/2を実施。 【指標「計画表」D4-2-2】 【指標「こども発達学科FD」報告】

(8) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教養教育と専門教育の履修において、体系的に配置して教育効果を高める。	【1-1,1-2 共通】 ①入学年度別単位取得状況分布 ②入学年度別 GPA 分布 ③コース選択状況	
[1-2]	法学部を中心に、社会科学の隣接分野の専門教育を幅広く提供する。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] すでに現行カリキュラムは、専門科目だけでなく、多方面にわたる教養科目を配置するとともに、教養科目から最低20単位の履修を必修とすることで、学生が専門知識だけでなく豊かな教養をも備えることができるよう、配慮している。学生の履修登録や単位修得などの状況を把握して、こうした目的が実際に達成されているかどうかを検証していきたい。	すでに現行カリキュラムは、専門科目と教養科目を体系的に配置し、学生が幅広く知識と教養を備えることができるよう組み立ててある。学生には今年度も、カリキュラムマップを示すなどして、体系的な履修を促している。	履修登録状況をみると、今年度も、学生は実際に、体系的に履修登録しているようで、また、単位取得状況からは、履修放棄もさほど多くないことがうかがわれ、おおむね所期の効果を得ることができている。
	[1-2] すでに現行カリキュラムは、経済学や社会学、情報分野といった隣接分野の科目を法学部設置の専門科目として履修できることとしている。学生の履修登録や単位修得などの状況を把握して、これら隣接分野の科目が実際にどう活用されているかを把握するとともに、隣接分野との連携のより良いあり方を検討していきたい。	今年度も、経済学入門や社会政策、情報システムの基礎や社会情報学など、隣接分野の科目を実際に開講することができた。	コース選択状況をみると、法律・政治学に隣接する分野の科目の履修を一つの核とするキャリアアッププログラムコースを選択する学生が多く、また、科目レベルにおいても、隣接分野科目は、ややバラツキはあるものの、それなりの数の履修者数を得ていて、単位取得状況からみても、所期の目的をほぼ達成できているといえる。他面、科目によっては、1クラスに収めるには少々無理のある履修者数となっていることもあり、今後の検討課題ではある。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 現行カリキュラムの完成年度となることを踏まえ、カリキュラムの検証を開始する。とりわけ、必修科目の達成状況、専門科目の履修状況および年次配置、教養科目の修得状況および所期したところ(豊かな教養の涵養)の達成程度等を中心に幅広い検証に着手する。		
	[1-2] 現行カリキュラムの特徴である、経済学、社会学、情報分野といった隣接分野の科目配置の狙いがどの程度達成されているかを検証する。他学部ゼミの履修はやや低空飛行が続いているが、その要因およびゼミガイダンスにおける工夫を検討する。これらを通じて、法学・政治学系の専門科目と隣接諸分野との有機的な連携のあり方を引き続き検討していく。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	初年次における基礎学力の確認とその育成を図る。	【2-1】 ①基礎学力にかかわる入門科目の履修と単位取得状況 【2-2】 ①法学検定試験ベーシックコースの合格状況 【2-3】 ①基礎ゼミナール、専門ゼミナールのシラバスの確認 ②ディベート大会の開催実績	
[2-2]	法の理念や解釈に関する基本的な知識の修得を図る。		
[2-3]	プレゼンテーションとコミュニケーションの能力育成を図る。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] すでに現行カリキュラムは、初年次の導入科目として基礎ゼミナールや憲法入門、民法入門の科目を配し、新入生全員の履修を義務づけている。実際の出席状況や、単位認定の状況(憲法入門、民法入門は必修科目でもあるので、逆に単位認定が緩くなっていないかも含めて)を把握するなどして、4年間の学修の基盤が初年次において適切に構築されているかを検証していきたい。	初年次の導入科目として、基礎ゼミナールや憲法入門、民法入門の科目を開講し、新入生全員の履修を義務づけ、学士課程の円滑なスタートを切れるように配慮してある。授業出席状況も情報ポータルを通じて、各担任教員が確認できるようにし、必要に応じて指導できる体制を整えてある。	今年度前期に講義科目として開講した憲法入門と民法入門の単位認定率は7割前後であり、おおむね適切な水準で推移している。

	<p>[2-2] 基本的な法律知識が備わっていることの一つの証左として、すべての学生に法学検定試験への合格を求め、また、試験対策科目も設置している。しかし、学生の皆において、法学検定試験合格への意欲が高まっているかという疑問がある。学生に対し、そもそも法学検定試験に取り組む意義をどう訴求するかを検討し直すとともに、基本的な法律知識の具備を確認する指標として、法学検定試験以外の可能性をも追求したい。</p>	<p>法学検定試験ベーシックコース対策を内容とする科目の時間数を今年度、倍増し、より手厚い指導を展開した。他面、学生の意識が多様であるなか、講義形式で授業することの限界もあり、そもそも全員に法学検定試験の受験を義務づけることが適切か、学生の意識なり状況なりに合わせて別の選択肢を用意することの是非を含めて、今後のあり方の検討が必要となっている。</p>	<p>法学検定試験ベーシックコースには、今年度も受験者119名中71名の学生が合格したが、そうでない学生（特に法学検定試験対策の科目の単位認定さえも受けられずにいる学生、すなわち検定受験者のうち、6名）への対応方について、今後の検討が必要である。</p>
	<p>[2-3] 学生に他者と議論させたり、人前で発表させることで、習得した法律知識を定着ないし深化させるべく、授業の新たなあり方を引き続き研究するとともに、授業時間外で学生が発表等をする場の可能性も追求していきたい。</p>	<p>例年同様、基礎ゼミナール、専門ゼミナールのような演習科目はもちろん、講義科目でも、在籍学生数減少にともない履修者数が少数となっている科目では、アクティブラーニング教室なども利用して、学生からの発言が授業のコアとなるような工夫が、各科目担当者において施されている。</p>	<p>例年同様、基礎ゼミナールを基礎として、学部内のディベート大会を1月に実施し、学生の参加意識を高めるため、優勝ゼミには景品を提供している。</p>
2017年度	年次計画内容		
	<p>[2-1] 現行カリキュラムは、初年次の導入科目として基礎ゼミナールや憲法入門、民法入門の科目を配し、新入生全員の履修を義務づけている。憲法入門、民法入門においては当然ながら、今後は基礎ゼミナールにおいても、法学部で学ぶ意味や法解釈学の方法論などを積極的に伝えることで、学生が積極的に法学部での学びに取り組むことができる環境を構築し、出席状況及び単位習得状況により、その結果を確認する。</p>		
	<p>[2-2] かねてより実施している法学検定試験は学部生全員に対して受験を求めているが、それに合格することまでは必ずしも要求されていない。法学検定試験に合格していても、同検定試験は択一式であり、学部での論述式試験において単位習得ができない学生もいることから、基礎学力の有無を測る指標として同検定が必要十分なものであるかは、今後の検討課題である。外部の試験によらなければ基礎学力の有無を測れないということはないはずであり、基本的には学部内で行われる試験やレポート課題等によって基礎学力を測る方策を検討していきたい。</p>		
	<p>[2-3] プレゼンテーション及びコミュニケーション能力の育成については、1年次は基礎ゼミナール、2年次以降は専門ゼミナールを通じて行っているが、具体的な教育内容は統一的ではなく、各担当教員の裁量にゆだねられている。そのこと自体は問題ではないが、学生のコミュニケーション能力を引き出すことは教員にとっても容易ではないため、統一的に実施する内容を策定するなどして、一定程度画一的な育成方法を確立することが可能かを検証したい。</p>		

(9) 社会情報学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。		①履修モデル ②カリキュラムマップ	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	授業科目の体系的な配置について、履修要項等にて再度確認する。	専門教育と教養教育をバランスよく配置し、順次性のある授業科目を体系的に配置して教育効果を高めた。	①②ともに履修要項に掲載【資料3,4】

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を各授業において提供する。		①シラバス	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	学部教育課程に相応しい授業内容の提供状況について再度確認する。	教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を各授業において提供した。	①シラバスの掲載内容を基準として授業を実施した。

(10) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] カリキュラムに順次性のある授業科目を体系的に配置し、教育効果を高める。 [1-2] カリキュラムにコースワークとリサーチワークを適切に配置し、教育効果を高める。		[1-1,1-2 共通] ①開講科目一覧表	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 2015年度に引き続き、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程が編成されているのか確認する。	[1-1] 本研究科のカリキュラムにおいては順次性のある授業科目が全体としてほぼ体系的に配置できている。	①開講科目一覧表、参照。
	[1-2] 地域社会マネジメント研究科との連携を視野に入れつつ、コースワークとリサーチワークの体系的あり方について検討することを始める。	[1-2] コースワークとリサーチワークの体系的あり方について検討するには至らなかった。	
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 2016年度に引き続き、教育課程の編成・実施方針に基づき、教育課程が編成されているのか確認する。		
	[1-2] 2016年度に引き続き、地域社会マネジメント研究科との連携を視野に入れつつ、コースワークとリサーチワークの体系的あり方について検討することを始める。		

4.教育内容・方法・成果
4-2 教育課程、教育内容

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 開講科目の教育内容をシラバスで確認することを通じて、その適切性を継続的に検証する。			①開講科目一覧表、参照。 ②シラバス、参照。
2016年度	年次計画内容 [2-1] 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているのか、開講科目の教育内容をシラバスで確認することを通じて、その適切性を継続的に検証する。	計画実施状況 [2-1] 運営会議で開講科目の教育内容の適切性をシラバスで確認した。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①開講科目一覧表、参照。 ②シラバス、参照。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているのか、開講科目の教育内容をシラバスで確認することを通じて、その適切性を継続的に検証する。		

(11) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 臨床心理士養成指定大学院としての要請に基づく教育課程・教育内容について、現有の人的教育資源に基づく効果的な対応を検討する。 [1-2] 新たな国家資格として検討されている公認心理師制度の動向を踏まえて教育課程・教育内容の検討を進める。			[1-1,1-2に共通] ①開設科目・担当者・単位取得状況
2016年度	年次計画内容 [1-1] カリキュラム作成に際して、適切な人的教育資源の活用を行う。 [1-2] 公認心理師制度の動向とその内容を把握する。	計画実施状況 計画に沿って遂行した。 研究科教員資格審査に関わる基準と科目適合性に基づいて実施した。 計画に沿って遂行した。 2017年3月に同制度の要項が確定するに備え、情報収集を行うとともに研究科運営会議において新カリキュラム案の検討を行った。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①達成 ①達成
2017年度	年次計画内容 [1-1] カリキュラム作成に際して、適切な人的教育資源の活用を行う。 [1-2] 公認心理師制度のカリキュラム要件などについて把握し、可能であれば2018年度から公認心理師資格に必要なカリキュラム改訂を視野に入れて検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] コースワークとリサーチワークをバランス良く配置し教育効果を高める。 [2-2] 修了に必要な必修科目と認定協会から要請される選択科目を中心に30数単位程度の履修を大幅に上回る単位修得状況を把握し、対応を検討する			[2-1,2-2に共通] ①単位修得状況・修士論文の状況(内容、レベル、執筆量)
2016年度	年次計画内容 [2-1] 高いレベルで実現されている現在のコースワーク、リサーチワークを維持し継続する。 [2-2] 修了に必要な単位数を大幅に上回る単位修得状況を把握し、一年後期から開始される相談実習のケース担当との兼ね合いについて検討する。	計画実施状況 計画に沿って遂行した。 リサーチワークとして、M2院生7名の修論は評価基準を十分に満たすとともに執筆量も十分であり学会発表レベル以上の研究であった。 計画に沿って遂行した。 履修内容は院生の選択によるが、心理臨床センターでの面談実習との兼ね合いを含めて、適切な単位修得となるよう指導した。また公認心理師制度が開始される次年度に向けて、大幅に増えた相談ケース担当数との兼ね合いを検討した。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①達成 ①達成
2017年度	年次計画内容 [2-1] 高いレベルで実現されている現在のコースワーク、リサーチワークを維持し継続する。 [2-2] 修了に必要な単位数を大幅に上回る単位修得状況を把握し、一年後期から開始される相談実習のケース担当との兼ね合いについて検討する。		

(12) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 基本科目、コミュニティ科目、ビジネス科目をバランスよく配置するとともに授業科目を体系的に配置して教育効果を高める。 [1-2] 講義科目とフィールドワーク的な要素をもった演習科目、インターンシップ等をバランスよく配置し、教育効果を高める。			[1-1,1-2共通] ①入学年度別単位取得状況分布・推移
2016年度	年次計画内容 [1-1] 大学院の方向性と照らしてカリキュラムの構成、基本科目、コミュニティ科目、ビジネス科目の内容を検討し、必要があればカリキュラムの見直しを行う。	計画実施状況 ①今年度のカリキュラムの見直しは、基本科目に「地域調査論」をおくなど小幅なものにとどめた。退職する教員がいることや基本科目の構成に議論があることからカリキュラムについては今後検討する必要がある。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①院生は、単位取得状況は良好である。長期履修者を除き、1年目で修了に必要な単位を取得している。また長期履修者も十分な単位取得をしている。

	<p>[1-2] ①大学院生にまちづくりインターンシップやフィールドワーク等に積極的に参加を促す。 ②フィールドワーク的な要素を持った科目をどう取り入れていくかを検討する。</p>	<p>①まちづくりインターンシップが今年度なかったが、修論の作成に関連して地方自治体等にヒアリングをおこなうケースがあった。 ②来年度、「地域プロジェクト論」で試験的にフィールドワークを取り入れて講義をおこなう。</p>	
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 大学院の方向性、退職した教員、これまでの議論を踏まえ、カリキュラムの構成、基本科目、コミュニティ科目、ビジネス科目の内容を検討し、必要があればカリキュラムの見直しを行う。		
	<p>[1-2] ①大学院生にフィールドワーク等に積極的に参加を促す。 ②今年度から「地域プロジェクト論演習」の中で試験的にフィールドワークを行うこととしたが、その結果を検証し、今後、フィールドワークをどうカリキュラムに取り入れるか検討する。</p>		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 定期的カリキュラム、科目の見直しを行い、教育課程の編成・実施方針に適合した教育内容の充実を図る。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学部再編の議論の動向、法学研究科との再編の検討の内容を見ながら地域マネジメント研究科の方向性を検討するとともに、カリキュラム、科目の見直しを検討する。	学部再編については、直接地域社会マネジメント研究科に関連するものがなく、今後の課題となる。	
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 学部再編の議論の動向、法学研究科との再編の検討の内容を見ながら地域マネジメント研究科の方向性を検討する。		

4-3. 教育方法

中期目標

- 【目標1】 教育目標を達成するために、適切な教育方法および学習指導を行う。
 【目標2】 学生の学習意欲を促進させる適切なシラバスを作成し、これに基づいた授業を展開する。
 【目標3】 単位制度の趣旨に基づいて、成績評価と単位認定を適切に行う。
 【目標4】 教育効果について定期的な検証を行い、その結果に基づいて教育課程や教育内容・方法を改善する。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。	[1-1,1-2,1-3 共通]	①学生による授業評価アンケート
[1-2]	学習指導を充実させるとともに、本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。		②入学年度別単位修得状況分布・推移
[1-3]	履修システムや時間割、学事暦を教育目標の実現に最適な方法を試行し実証する。		③入学年度別 GPA 分布・推移
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学生の主体的学び、特に能動的学習の実践事例を継続的に把握するとともに、これらをFDセンターや学部教授会を通じて、積極的に教員に周知していく。	毎月、教授会等の開始10分前を利用して、「10分FD」を実施した。討議テーマは学生による授業評価アンケート結果の中で学生からの要望が多かったものから教務部長が選んで提供した。 ICTを活用したアクティブラーニングの実践について、FDセンターと連携して研究会を開催した。 グローバル科目群を開設し、留学生と日本人学生がグループワークを通じて異文化コミュニケーションスキルを磨く仕組みを整備した。 海外スタディII(グローバル科目群展開科目)や地域貢献活動ABCDといった科目を整備し、学生が主体的に学習計画を立てて履修できる仕組みを作った。 非常勤講師大学説明会を実施し、学生の主体的学びへの支援を要請した。	達成度75% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。 ①「10分FD」関係資料 学生による授業評価アンケートでの学生からの要望事項をテーマに、毎月学部教授会等の開始前10分間を活用して「10分FD」を行った。
	[1-3] 学内外の行事等を円滑に遂行できるように暦に影響されないように授業時間を保持しながら授業回数の削減を検討する。合わせて、前後期の授業開始時刻の変更等を引き続いて検討する。	今年度は着手できなかった。今後、他大学の事例を参考に検討を進めたい。	達成度0% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 「10分FD」を、学部学生の修学状況や指導状況、有効な指導方法に関する情報提供の機会として活用する。修学状況と指導状況にあたっては、2016年度NEWVERYによる休退学予防コンサルなどの資料を参照する。指導方法の検討は、学生の主体的学び、特に能動的学習の実現に向かって行う。		
	[1-2] 学生の主体的学び、特に能動的学習の実現に資する学内研修会を実施し、その成果を教職員の行動の指針として活用する。有効な実践事例をFDセンターや学部教授会の「10分FD」を通じて周知し、積極的な活用を要請する。		
	[1-3] 学内外の行事等を円滑に遂行できるように暦に影響されないように授業時間を保持しながら授業回数の削減を検討する。併せて、本学の教育効果が最適になるような学期制のあり方(例えば4学期制)や、前後期の授業時間および授業開始時刻の変更などについて検討を開始する。		
中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。	[2-1,2-2 共通]	①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査
[2-2]	授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。		②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査
			③学生による授業評価アンケート
			④教員による授業の自己評価
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバス記載内容の継続的改訂を実施する。	2017年度シラバスガイドラインに、①当該科目と学科の教育目標との位置付け、②課題に対するフィードバックの記載するよう求めた。	達成度75% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。
	[2-2] シラバスの第三者チェック体制の見直しを図り、今後の継続性、実効性を持たせる。	2016年度のシラバスの第三者チェック(第三者とは、シラバス作成者以外の他者)を実施した。全科目の約2.9%が要修正とみなされ、作成者へフィードバックした後、68.0%が適性に修正された。昨年度に比して修正率は大幅に減少した。今後も引き続き実施する。	達成度75% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。
2017年度	年次計画内容		

年度	<p>[2-1] 学部、学科の教育目標に従い、各科目の「授業のねらい」「履修者が到達すべき目標」を設定する。同時に「成績評価方法」を「履修者が到達すべき目標」への到達度を測定するものにする。以上を、シラバスに明記することとする。</p> <p>[2-2] 「学力の三要素」「社会人基礎力」「国語力」などの基礎学力やジェネリックスキルの獲得がどのように目指されているかを、「授業の進め方・時間外学習・学習上の助言」としてシラバスに明記する。</p> <p>[2-3] 上記のようなシラバス内容となっていることを、教務委員が中心となって各学科でチェックし、適切な記載になるようにする。</p>
----	--

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
	<p>[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。</p> <p>[3-2] 単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。</p>	<p>[3-1]</p> <p>①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況)</p> <p>②学生による授業評価アンケート</p> <p>③教員による授業の自己評価</p> <p>④学生のGPA推移表</p> <p>[3-2]</p> <p>①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)</p> <p>②学生による学修時間の申告調査やe-learning等を用いた学修時間の計測</p> <p>③学生による授業評価アンケート</p> <p>④教員による授業の自己評価</p>	
2016年度	<p>年次計画内容</p> <p>[3-1] 教学IRや授業評価アンケートのデータを解析し、学生の実行動と成績評価の関連性を見出す。</p> <p>[3-2] 単位取得状況や科目毎の成績分布から、学科毎の教育方法、学修指導の改善に生かす。</p>	<p>計画実施状況</p> <p>1年次、2年次の行動調査を行い、時間外学習の状況や進路等の把握を行った。また、コンサルティング会社NEWVERYと連携し、1年次の科目の出席状況、単位取得状況等を調査し、入試種別、高校時代の欠席状況等との比較し傾向を把握した。授業評価アンケートのデータを大学院、学部学科ごとに分析するよう大学院研究科及び学部教授会へ求めた。</p> <p>全学教務委員会において教養科目(前期開講)の単位認定状況に関する調査結果を行い、各学部教務委員会へ報告した。コンサルティング会社NEWVERYと連携し、1年次の科目の出席状況、単位取得状況等を調査し、入試種別、高校時代の欠席状況等との比較し傾向を把握した。</p>	<p>指標に基づく中期目標の達成状況</p> <p>達成度 70%</p> <p>中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。</p> <p>①1～2年次行動調査結果報告書</p> <p>②NEWVERY最終報告書</p> <p>③学生による授業評価アンケート分析表</p> <p>達成度 50%</p> <p>中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。</p> <p>①教養科目(前期開講)単位認定状況表</p> <p>②NEWVERY最終報告書</p>
2017年度	<p>年次計画内容</p> <p>[3-1] 教学IRや授業評価アンケートのデータを解析し、学生の実行動と成績評価の関連性を見出す。</p> <p>[3-2] 単位取得状況や科目毎の成績分布から、学科毎の教育方法、学修指導の改善に生かす。</p> <p>[3-3] 「到達すべき目標」への到達をもって単位取得となるよう、不合格者に対する有料制補講の実施を検討する。</p>		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
	<p>[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、教育目標の達成状況を測定する指標を検討し適用する。</p> <p>[4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。</p>	<p>[4-1,4-2 共通]</p> <p>①教育目標達成状況測定指標の作成</p> <p>②入学年度別単位修得状況分布・推移</p> <p>③入学年度別GPA分布・推移</p> <p>④入学年度別学位授与状況</p> <p>⑤進路決定状況</p> <p>⑥学部・学科FD、FD研究会等実施状況</p>	
2016年度	<p>年次計画内容</p> <p>[4-1] 教学IRの分析を組織的に行い、教育目標、学位授与方針の適正化に活かす。</p> <p>[4-2] FDセンターと協力し、優れた教育方法、教育内容の実践事例を抽出し、様々な場で紹介し、周知する。</p>	<p>計画実施状況</p> <p>1～2年次を対象とした意識調査を実施した。時間外学習、進路等に関する設問を設けており、今後の教育方法等の改善に関する検討材料とした。ただ、教育目標、学位記授与方針の適正化に関する設問がないため、次年度に設問項目の追加変更も含めて検討したい。</p> <p>FDセンター事業と連携し、ICTを活用した授業実践に関するFD研究会を開催した。今後は開催回数を増やしていきたい。非常勤講師説大学明会において10分FDにおける授業評価アンケートの取り組みについて紹介し、その成果を全学的に開示した(掲示、FDセンターHPアップロード)。昨年度に引き続きAll SGU English Presentation Contestを実施した。広報にも大きく取り上げられた。昨年度に引き続き「SGU生が作る各国語による絵本」プロジェクトを実施し、日本人、留学生共同で4冊の絵本を作成した。広報にも大きくとりあげられ、大学広報に貢献した。</p>	<p>指標に基づく中期目標の達成状況</p> <p>達成度 30%</p> <p>中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。</p> <p>①1～2年次意識調査結果</p> <p>達成度 50%</p> <p>中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。</p> <p>①FD研究会資料(ICT関係)</p>

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

2017 年度	年次計画内容	
	[4-1]	教学 IR の分析を組織的に行い、教育目標、学位授与方針の適正化に活かす。
	[4-2]	入試成績、入学前学習等の入学前の情報から、初年次教育、専門教育に至る情報の連関を見出すべく、教学 IR を組織的に行なう。その成果を教育方法の適正化に活かす。
	[4-3]	FD センターと協力し、優れた教育方法、教育内容の実践事例を抽出し、「FD 研修会」や「10 分 FD」などで紹介し、周知する。

(2) 経営学部

中期計画【計画 1】(目標 1 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 1】
2016 年度	[1-1]	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。
	[1-2]	学習指導を充実させるとともに、本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。経営学部では実践教育科目であるフィールド実践科目群を中心に新しい学習環境の利用を積極的に行うことによって、その効果などの測定を行い、授業の改善に生かしていく。
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1]	2015 年度に引き続き、教務委員会にて検証を行っている。
2016 年度	[1-2]	アクティブラーニング教室やコラボレーションセンターなど、学内の先進的な学習環境を積極的に活用している。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		継続して、分析・検証を進めている。
		継続して、分析・検証を進めている。
2017 年度	年次計画内容	
	[1-1]	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験)の検証作業を継続する。
	[1-2]	コラボレーションセンターなど学内のアクティブラーニング教室の積極的な活用を継続する。

中期計画【計画 2】(目標 2 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 2】
2016 年度	[2-1]	授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。
	[2-2]	授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1]	2015 年度に引き続き、検証を行った。
2016 年度	[2-2]	2015 年度に引き続き、検証を行った。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		達成されている。
		整合性に問題はなく、達成されている。
2017 年度	年次計画内容	
	[2-1]	シラバスガイドラインに沿っているか検証作業を継続する。
	[2-2]	シラバスと授業内容・方法との検証作業を継続する。

中期計画【計画 3】(目標 3 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 3】
2016 年度	[3-1]	科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。
	[3-2]	講義の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[3-1]	2015 年度に引き続き、評価について確認を行った。
2016 年度	[3-2]	2015 年度に引き続き、教務委員会において検証を行った。
		指標に基づく中期目標の達成状況
		シラバスに従った評価を行っており達成されている。
		単位の実質化を図った講義を行ない、達成できた。
2017 年度	年次計画内容	
	[3-1]	評価方法・基準がシラバスに明記されているか確認作業を継続する。
	[3-2]	単位の実質化を図る教育方法・学修指導の検証作業を継続する。

中期計画【計画 4】(目標 4 に対応する計画)		達成度評価指標【指標 4】
2016 年度	[4-1]	教育目標と学位授与方針との連関性の検証と並行し、教育目標の達成状況を測定する指標を検討し適用する。その際 GPA や単位取得状況など具体的な数値を利用した検証を行う。
	[4-2]	教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD 等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。
2016 年度	年次計画内容	計画実施状況
	[4-1]	2015 年度に引き続き、教務委
		指標に基づく中期目標の達成状況
		教育目標達成状況測定指標の作成を行う

	関性の検証と教育目標の達成状況を測定する指標の検討を行う。	員会において検討を行った。	には至らなかったため、2017年度以降の作成に向けた検討が必要である。
	[4-2] 教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行う。	2015年度に引き続き、教務委員会、教授会でのFD活動において検討を行った。	FD活動を通じて、組織的な改善の取り組みについて、検討を重ねることができた。
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] 教育目標と学位授与方針の関連の検証、達成状況測定のあり方を検討する。		
	[4-2] FDを展開し教育内容・方法について組織的な改善に努める。		

(3) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。 [1-2] 経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進 [1-3] 双方向型授業(講義)の推進 [1-4] 本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。		[1-1] ①入学年度別単位修得状況分布・推移 ②入学年度別GPA分布・推移 [1-2] ①フィールドワーク補助制度利用状況 ②学外合同研究交流補助制度利用状況 [1-3] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 [1-4] ①アクティブラーニング教室や産業調査実習室の利用の仕方 ②コラボレーションセンターとの連携
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 各科目を授業形態別に分類したうえで、それぞれの修得状況を確認する。その上で、教育目標を達成するための授業形態を検討する。	「学生による授業評価アンケート」の結果を踏まえた教員へのインタビューを3名の教員に実施し、教育活動の実態を調査した。	教育目標の達成に向けた授業形態の実施を継続して検証している。なお、経済学部全体の授業評価アンケートは全学平均並である。
	[1-2] 1)学生のエントリーシート作成を支援し、学生の就業力のアップを図るとともに、ゼミナールなどで面接の練習を実施する。 2)他大学とのゼミナール交流やフィールド補助調査の支援・推進を引き続き図る。	1)外部講師を招き、インターンシップについて理解し、参加を促した。エントリーシートについてはキャリア支援課による添削を指導教員に返却し、情報を共有した。 2)12月に釧路公立大学で行われた第7回合同研究発表大会SCANに1ゼミが参加した。	①フィールドワーク補助については申請がなかった。来年度は申請者が増えるよう努力したい。 ②学外合同研究交流補助は1件の申請に留まった。こちらも活性化していきたい。
	[1-3] 1)科目別の単位修得状況を確認し、少人数授業、双方向型科目が理解度にどのように影響しているかを調べる 2)TA(SA)の活用方法を履修者や講義内容に基づいて再検討を行う。	1)昨年度と同様に少人数授業、双方向型科目を実施している。少人数のほうが、授業評価が高い傾向にある。 2)予算要求に伴い、TAの必要性を文書化してどのように活用するかをまとめた。さらに来年度からプロゼミナールでSAを活用することを決めた。	双方向型授業(講義)については従来の方法で行った。更なる推進を検討したい。 ②入学年度別単位修得状況分布・推移について、分析を進める。 ③入学年度別GPA分布・推移については、年々GPA低下の傾向がある。
	[1-4] 1)アクティブラーニング教室、産業調査実習室の利用状況を調査し、更なる利用を検討する。 2)コラボレーションセンターとの連携を検討する。 3)経済学部調査実習室について、学生が使いやすい利用方法や管理運営であるかを調査する。	1)アクティブラーニング教室、産業調査実習室の利用状況を調査はできなかった。 2)コラボレーションセンターとの連携について具体的な検討は行わなかった。 3)経済学部調査実習室について、学生が使いやすい利用方法や管理運営であるかは調査していない。	本学の新しい学習環境を活用しての学生の講義への主体的参加を促す授業方法については具体的な検討はできなかった。また、アクティブラーニング教室や産業調査実習室の利用状況は調査していない。さらに、コラボレーションセンターとの連携について具体的な検討は行われていない。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 各科目を授業形態別に分類したうえで、それぞれの修得状況を確認する。その上で、教育目標を達成するための授業形態を検討する。		
	[1-2] 1)学生のエントリーシート作成を支援し、学生の就業力のアップを図るとともに、ゼミナールなどで面接の練習を実施する。 2)他大学とのゼミナール交流やフィールド補助調査の支援・推進を引き続き図る。		
	[1-3] 1)科目別の単位修得状況を確認し、少人数授業、双方向型科目が理解度にどのように影響しているかを調べる 2)TA(SA)の活用方法を履修者や講義内容に基づいて再検討を行う。 3)今年度導入したプロゼミナールのSAの活用について総括し、次年度以降の改善点を検討する。 4)プロゼミナールの適正規模について検討する。		
	[1-4] 1)アクティブラーニング教室、産業調査実習室の利用状況を調査し、更なる利用を検討する。 2)コラボレーションセンターとの連携を検討する。 3)経済学部調査実習室について、学生が使いやすい利用方法や管理運営であるかを調査する。		

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
<p>[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。</p> <p>[2-2] 学生の質保証のための制度設計</p> <p>[2-3] 補習や補助事業の計画的活用</p> <p>[2-4] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。</p> <p>[2-5] 総合的学習と創造的思考力の伸張</p>		<p>[2-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査</p> <p>[2-2]</p> <p>①休退学除籍者数一覧</p> <p>②科目別成績分布</p> <p>[2-3]</p> <p>①学生による授業評価アンケート</p> <p>②TA(SA)に対するヒアリング</p> <p>[2-4] ①専門科目の授業内容と方法の一覧表</p> <p>[2-5]</p> <p>①カリキュラムマップや履修要項</p> <p>②学生による報告会の報告者数</p> <p>③ゼミナール交流やフィールドワーク補助事業の申請状況</p> <p>④卒論発表会の報告者数</p>	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	<p>[2-1]</p> <p>1)シラバスに必要な事項が記入されているかを検証する。</p> <p>2)コース内の科目との関連性についてシラバスで記入するかを検討する。</p>	<p>1)全学としてのシラバスチェックを行った。学部独自の調査は行っていない。</p> <p>2)具体的な検討は行っていない。次年度の課題とする。</p>	<p>シラバスの作成についてはガイドラインに沿った形で作成するよう呼びかけ、各教員に委ねる形となった。シラバス作成ガイドラインとの一致度調査は行っていない。</p>
	<p>[2-2]</p> <p>1)退学者や休学者などの学籍異動を個別に調べるなど、有意な教育方法を模索する。</p> <p>2)シラバスどおり適切に授業運営されているかを引き続き確認する。</p>	<p>休退学者予備軍を洗い出し、学生にインタビューを行った。定量的、定性的な分析を行ったうえで、休退学者を減らすための方策を検討した。</p>	<p>学生の質保証のための制度設計については引き続き検証している。次年度行う休退学を減らすための方策を検討した。</p>
	<p>[2-3]</p> <p>1) 学生の予習・復習がなされているかを調査する。</p> <p>2) TA (SA) が有効に活用されているかを確認する。</p>	<p>教員間のコミュニケーションにより、適切な授業運営を確認した。</p> <p>2)学生が定着するために、プロゼミナールに SA を導入について検討し、具体的な方法を策定した。</p>	<p>学生が定着するために、プロゼミナールに SA の導入を次年度から開始する。</p>
	<p>[2-4] 専門科目の授業内容と方法について一覧表を作成し、教員間で情報を共有することを検討する。</p>	<p>授業内容と方法に関する一覧表は作成していない。次年度検討する。</p>	<p>授業内容と方法に関する一覧表は次年度以降の検討課題である。なお、学生による授業評価アンケートは学部全体では全学平均を維持している。</p>
	<p>[2-5]</p> <p>1)体系的な学修が行われるための方策を検討する。</p> <p>2)「産業調査演習」や「社会調査演習」、「インターンシップ」、「専門ゼミナール」など体験型科目における学生の報告会を昨年に引き続き実施する。</p> <p>3)他大学とのゼミナール交流やフィールドワーク補助事業の支援・推進を引き続き図る。</p> <p>4)卒業論文やゼミナール論文の教育課程における位置づけを明確にし、卒論発表会の参加者をさらに増やす方策を検討する。</p> <p>5)コース選択のあり方について検討する。</p>	<p>1)コースごとに推奨する科目を定め、シラバスに掲載することを決めた。</p> <p>2) インターンシップ報告会を10月に行った。2年生の多くが参加し、来年度以降のインターンシップ参加の重要性を理解させることができた。また、12月に学外活動報告会を実施し、専門ゼミナールなどでの学外活動の報告を行った。</p> <p>3)12月に釧路公立大学で行われた第7回合同研究発表大会 SCAN に1ゼミが参加した。</p> <p>4)卒業論文の教育課程における位置づけについては、文書化した。</p> <p>5)コース責任者を校務分掌の中に設け、コース会議を行った。</p>	<p>総合的学習と創造的思考力の伸張に努めている。しかしカリキュラムマップと履修要項の検証は行っていない。</p> <p>④卒業論文については81名が提出し、そのうち71名が報告会で報告した。</p>
2017年度	<p>[2-1]</p> <p>1)シラバスに必要な事項が記入されているかを検証する。</p> <p>2)コース内の科目との関連性についてシラバスで記入するかを検討する。</p>		
	<p>[2-2]</p> <p>1)学生の理解度に応じた適切な教育方法を模索する。</p> <p>2)シラバスどおり適切に授業運営されているかを引き続き確認する。</p>		
	<p>[2-3]</p> <p>1) 学生の予習・復習がなされているかを調査する。</p> <p>2) TA (SA) が有効に活用されているかを確認する。</p> <p>3)プロゼミナールの SA の活用について総括し、次年度以降の改善点を検討する。</p>		
	<p>[2-4] 専門科目の授業内容と方法について一覧表を作成し、教員間で情報を共有することを検討する。</p>		
	<p>[2-5]</p> <p>1)体系的な学修が行われるための方策を検討する。</p> <p>2)「産業調査演習」や「社会調査演習」、「インターンシップ」、「専門ゼミナール」など体験型科目における学生の報告会を昨年に引き続き実施する。</p> <p>3)他大学とのゼミナール交流やフィールドワーク補助事業の支援・推進を引き続き図る。</p> <p>4)卒業論文やゼミナール論文の教育課程における位置づけを明確にし、卒論発表会の参加者をさらに増やす方策を検討する。</p>		

5) コースの特徴づけがなされているかについて検討する。

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1]	評価方法・基準をシラバスに明記し、厳格な成績評価を行う。	[3-1]	
[3-2]	単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討を行う。	①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート ③成績確認願の状況	
		[3-2]	
		①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 1) 学生による授業評価アンケートや学生からの成績確認願に対する応答で厳格な成績評価を担保する。 2) 学生による成績確認願の出願状況について確認する。 3) 学生の修学指導と成績評価との関連について検討する。	1) 学生による授業評価アンケートや学生からの成績確認願に対する応答で厳格な成績評価を担保した。 2) 学生の成績確認願提出について、各教員が成績確認することにより、成績評価の透明性を担保している。 3) 学生の修学指導は十分行ったものの、その後の成績評価との関連については学部全体として十分に調査・検討は出来なかった。	評価方法・基準をシラバスに明記し、厳格な成績評価に努めた。しかし、教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査は行っていない。なお、学生による授業評価アンケートは学部全体では全学平均を維持している。
	[3-2] 単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討を引き続き行う。	単位の実質化を図ることができる学事暦を議論し、半期15週確保することと、補講期間を設けることで、教育体制を維持するよう努めた。	単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討は引き続き行う。また、教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査は行っていない。しかし、学生による授業評価アンケートは学部全体では全学平均を維持している。
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] 1) 学生による授業評価アンケートや学生からの成績確認願に対する応答で厳格な成績評価を担保する。 2) 学生による成績確認願の出願状況について確認する。 3) 学生の修学指導と成績評価との関連について検討する。		
	[3-2] 単位の実質化を図ることができる学事暦と教育体制の検討を引き続き行う。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1]	教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、教育目標の達成状況を測定する指標を検討し適用する。	[4-1]	
[4-2]	教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、教育成果の向上を図る。	①教育目標達成状況測定指標の作成 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移	
[4-3]	経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進	[4-2]①学部・学科FD、FD研究会等実施・参加状況	
[4-4]	学生の他学部・他大学での講義履修の便宜を図る	[4-3]	
[4-5]	ゲストスピーカーによる学生への総合学習の機会を設け、学生の社会との連携を促す	①就業力向上のための学部企画開催回数 ②フィールドワーク補助事業の参加者数 ③学業奨励制度利用者の動向	
		[4-4]①単位互換性度による派遣者数および受入者数 [4-5]①経済学特別講義の履修者数	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 教育目標の達成状況を測定する指標を検討する。	「ビジネス演習A」でのジョブパス能力資格試験の高い合格率(90%以上)は達成できなかったものの、高い就職内定率(90%以上)は達成できた。	継続して目標達成するよう努める。ジョブパスの高い合格率を達成することが次年度の課題である。
	[4-2] 経済学部のFD活動の活発化を模索する。	10分FDを3回行い、休退学予防、英語教育について議論した。	10分FDを設けることになり、定期的にFD活動を実施している。
	[4-3] 1) 学生の就業力をあげるための学部企画を開催する。さらに、これに関連した履修・修学指導のあり方を再検討する。 2) 修学ポートフォリオについて、学習効果を向上させるための利用を引き続き検討する。 3) 「フィールドワーク補助事業」の運営方法について再検討する。 4) 「専門ゼミナールI」の発表会を、学生の学習効果が上がるように教育課程に位置づけるかを検討する。 5) 成績優秀者に対する学業奨励	1) 就業力を上げるための企画として、3年生対象に前期1回ゼミの時間に行った。 2) 修学ポートフォリオを実施したものの、利用方法については検討していない。 3) フィールドワーク補助事業において2年生4名が栗山町で行った。今年度は実施方法の検討に時間を要し、十分な告知のないままに実施したため、次年度からは募集をできるだけ早め、参加者を増やすことを検討する。 4) 専門ゼミナールIの発表会については検討していない。今年度は、インターンシップ報告、SCAN参加ゼミの	経済のグローバル化、ユニバーサル段階、職業能力に対応する学習方法の開発と推進に努めた。 ①就業力向上のための学部企画は1回にとどまった。 ②フィールドワーク補助事業は昨年に比べて参加者が少なかった。次年度は十分な告知をして参加者を増やしたい。 ③学業奨励者は順調に学修している。

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

	制度を有効活用する。 6) 卒論懸賞制度の検討を行う。	報告、産業調査実習ゼミの報告や海外フィールドワーク参加ゼミの報告を通じて、学生の体験学習への取組を刺激した。 5) 成績優秀者に対する表彰を5月に行った。 6) 検討し、次年度実施に向けて方法を議論した。	
	[4-4] 札幌圏の単位互換制度を維持する。	単位互換制度により、前期に学生の受入2名、派遣1名を行った。	学生の他学部、他大学での講義履修の便宜と図るように努力した。札幌圏の単位互換制度は派遣、受入の相互協力で維持されている。
	[4-5] 経済学特別講義の履修率の向上に向けた施策の検討をする。	今年度からゲストスピーカーによる講義は経済学特別講義 B, C を隔年開講して3年次科目として運営することとした。今年度実施した経済学特別講義 C は学生47名の履修者、一般市民延べ60名の受講生であった。	ゲストスピーカーによる学生への総合学習の機会を設け、学生の社会との連携を促すよう、努めた。
2017年度	[4-1]	教育目標の達成状況を測定する指標として、ジョブパス3級の合格率90%以上、就職率90%以上を達成させる。	
	[4-2]	10分FDを継続的に行うとともに、全学的なFD活動に積極的参加を促す。	
	[4-3]	1) 学生の就業力をあげるための学部企画を開催する。さらに、これに関連した履修・修学指導のあり方を再検討する。 2) 修学ポートフォリオについて、学習効果を向上させるための利用を引き続き検討する。 3) 「フィールドワーク補助事業」の運営方法について再検討する。 4) 「専門ゼミナール I」の発表会を、学生の学習効果が上がるように教育課程に位置づけるかを検討する。 5) 成績優秀者に対する学業奨励制度を有効活用する。 6) 卒論懸賞制度の検討を厳格に実施する。	
	[4-4]	札幌圏の単位互換制度を維持する。	
	[4-5]	経済学特別講義の履修率の向上に向けた施策の検討をする。	

(4) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】		
	[1-1] 「基礎ゼミナール A・B および C」において、教育目標 2. 「人間科学科の専門領域である社会、心理・教育、福祉、文化、思想の諸分野の学問的基礎力を養成する」の達成に向けた展開を図る。 [1-2] 教育目標 4. 「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、実験・実習科目の充実を図り、その効果について検証する。 [1-3] 教育目標 5. 「社会福祉士、学芸員、中学校・高校・特別支援学校教員などの資格をもった専門的な職業人を養成し、地域社会の産業、福祉、文化、教育等に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、資格関連科目の充実を図り、その効果について検証する。 [1-4] 4年間を通しての学習指導を充実させるとともに、学生の講義・演習への主体的参加を促す授業方法を検討する。		[1-1] 基礎ゼミ AB 連絡会議実施状況 基礎ゼミ C 報告集 [1-2] ①「フィールドワーク」報告書 ②社会福祉実習報告書 ③「遊ベンチャー」実施状況 ④考古学実習報告書 [1-3] ①社会福祉国家試験受験者数および合格者数 ②社会福祉にかかわる OBOG との交流会実施状況 ③福祉実習準備室活用状況 ④学芸員課程登録者数および資格取得者数 ⑤教職課程登録者数および修了者数 ⑥教員採用試験受験者数および合格者数 ⑦「複免」取得者数 ⑧特別支援教育実習の実習生数と実習実施状況 [1-4] ①[1-1]と同じ ②卒論発表会の実施状況	
年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況		
2016年度	[1-1] 【基礎ゼミ AB コーディネータ】 ・少人数教育により、学修の基礎となる読む力、報告する力、討論する力を養成する。 ・専門領域への関心喚起を目的とした交流企画や学修ガイダンスのさらなる充実を図る。 ・多様化する学生のニーズに応え、初年次の順調な適応を支援するために、連絡会議を行って担当教員間の情報共有を綿密に行うとともに SA とも緊密な連携をはかる。 【基礎ゼミ C コーディネータ】 基礎ゼミ C では、文献や資料の	15名程度の少人数クラスを編成し、クラスごとに学習基礎力の養成をはかった。後期は学年全体での発表会を2回実施し、とくに口頭発表と討論の力の養成をはかった。 特別な企画として、前期には学科内交流企画として学生が興味・関心を共有する他クラスの学生・教員と接する機会を1回設けた。後期は学年全体に対して教員が学科の実習系の教育について具体的に説明する学修ガイダンスを1回実施した。年間に担当者の情報交換のための会議を3回、SA連絡会議を5回実施した。	1クラスの人数は予定の範囲内(15名程度)に収めることができた。全体発表会、交流企画および学修ガイダンスも予定の回数・日程で開催することができた。担当者会議は予定どおり合計3回実施した。SAは各クラス2名配置することができ、SA連絡会議で緊密な連携を勧めることができた。 全体として新入生を大学での学修と日常生活へと円滑に導入するための機能をクラスに持たせることができた。 【指標「休退学除籍者数一覧」】	
	基礎ゼミ C では、文献や資料の	すべてのゼミから学習の成果(報告集の原稿)が7月の最終授業日に提出され、		

<p>蒐集、検討、それに基づく報告、討議を通して、大学での学びに必要な基礎的能力を養う。また、昨年に引き続き、各ゼミにおいて報告・検討された内容をゼミ報告集としてまとめ、論理的な記述と他者に伝える力の育成をはかる。</p>	<p>大学での学びに必要な基礎的能力の育成をはかった。報告集作成のために、担当教員間で打ち合わせを行うとともに、ゼミから選出された報告集編集委員間での打ち合わせも適宜、実施することで、報告集を作成することができた。</p>	<p>コーディネータによる編集作業をへて、9月20日に報告集を刊行することができた。後期開講後に、この報告集はゼミ担当教員と学生すべてに配布された。 【指標「基礎ゼミC報告集」】</p>
<p>[1-2] 【社会領域】 「社会調査法」では、社会調査のいくつかの方法を習得するために、体験的な学習機会を設ける。「フィールドワーク」では、対象地域の人々と直接関わり、地域社会やそこに暮らす人々が抱える諸問題を体験的に把握するために現地調査を実施する。</p>	<p>2016年度は北海道江別市大麻銀座商店街および福島県昭和村の2地点を調査対象地域に選定し、商店街再生や特産品づくりを通じて地域再生に取り組む人びとへのインタビューを中心とするフィールドワークを実施した。</p>	<p>2015年度の報告書を2016年4月中に発行し、関係者に配布した。2016年度のフィールドワークの報告書は年度内に完成した。大麻銀座商店街担当班は商店街振興のためにホームページを作成することを提言し、その試作版を作成し、協力いただいた関係者に見ていただき、意見交換を行った。 昨年同様、受講者6人のすべてが熱心に課題に取り組み、優秀な成績を収めた。 【指標「フィールドワーク」報告書】</p>
<p>【福祉領域】 昨年度に引き続き、「社会福祉論A」と「社会福祉演習Ⅰ／Ⅱ」および「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」においては、福祉の現場の具体的なイメージや専門職観を醸成すべく、学外講師を積極的に招へいする。また、今年度夏期集中講義となる「社会福祉論A」については、学外講師の講話と専任の担当者の授業が密接に関連付けられるような工夫を図り、福祉に関する導入科目としてふさわしいアクティブな教育的取り組みを検討・実施する。</p>	<p>社会福祉士養成課程の基幹科目である「演習Ⅰ」および「Ⅱ」では昨年同様、職業意識や専門職としての考え方、立場について、特に実習の領域ごとに外部講師を招へいしお話しいただいた。 社会福祉論Aにおいては、基本的な領域の理解として障がい領域で当事者の方を、相談援助の理解として病院ソーシャルワーカーの方を、そして実践領域として認知症サポーター講座の方をそれぞれお招きし、専任担当者の講義と組み合わせることで社会福祉の基礎的理解を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉演習Ⅰ学外講師・・・4名 ・社会福祉演習Ⅱ学外講師・・・4名 ・社会福祉論A学外講師・・・3名 <p>以上の学外講師の招へいは、教育目標4.「体験学習・実習を重視し、職業人として社会に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、「実験・実習科目の充実を図った」実績として位置づけられるが、その効果について検証することは難しい。 【指標なし】</p>
<p>【福祉領域】 2015年度より開始した「当事者参加型実習前評価システム」を継続する。この模擬面接の試みが実際の実習でどのように生かされたかを、2016年度も学生アンケートを通して把握し、次年度以降のさらなる改善に生かす。</p>	<p>実習教育として「当事者参加型実習前評価システム」の模擬面接を22名の学生が実施した。2～3名の組になって9名の地域の協力者（高齢者・障害者等）宅へ訪問し利用者理解や生活理解を行うというものである。 終了後には協力者・学生が評価を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実施学生22名、協力者9名 ・学生の自己評価実施 ・協力者の学生評価実施 ・学生への模擬面接に関するアンケート
<p>【心理・教育領域】 職業人として必要な、分析的・合理的な視点とプレゼンテーション能力を養うために、「心理学実験実習」において少人数教育体制を活かした指導をおこなうとともに、学生の能力の伸長程度を測定する方法を検討する。</p>	<p>「心理学実験実習Ⅰ」において、データの採取と分析、結果の発表活動やレポート作成などに力点を置いた指導を行った。</p>	<p>発表活動やレポート作成を通じて、学生が職業人として必要な、分析的・合理的な視点とプレゼンテーション能力を涵養する機会を与えることができたが、具体的な伸びについては測定できなかった。この測定については、方法も含めて今後の課題とする。 【指標「心理学実験実習」のシラバス、学科会議資料】</p>
<p>【心理・教育領域】 学生の地域連携活動（SGU遊ベンチャー）への支援を継続すると共に、その成果を活動報告書にまとめる。</p>	<p>学生の地域連携活動の支援を継続し、成果について学生の協力を得て活動報告集にまとめた。</p>	<p>年間で4回の子どもの活動を学生が企画し、事前事後の綿密な会議、打ち合わせを通じて無事に実施することができた。 【指標「SGU遊ベンチャー活動報告集」】</p>
<p>【文化領域】 置戸町での「考古学実習」の発掘調査を継続するとともに、その調査成果を活用して、学生が学習成果を主体的に発信する機会を作る。</p>	<p>前期は、論文を読解し実習の手引きを作成するとともに、機材を実際に操作し発掘調査の基礎知識習得を図った。その後のフィールドワークは、北海道常呂郡置戸町に位置する勝山2遺跡を対象に2016年度も引き続き発掘調査を実施した。発掘から出土資料の分析まで学生とともにいき、調査の概要報告書を作成した。</p>	<p>2015年度の調査概要報告書を2016年度中に発行し、関係者に配布した。2016年度のフィールドワークの報告書の作成も終了したため、次年度に関係者に配布する予定である。 本年度のフィールドワークは7名が受講し、いずれも現地調査等において熱心な学習に取り組んだ。 【指標「考古学実習報告書」】</p>
<p>[1-3] 【社会福祉士課程】 引き続き、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのカリキュラムを円滑に推進する。</p>	<p>受験資格取得のための指定科目を非常勤講師の協力も得ながら円滑に実施した。2009年度以降、実習施設の指導者要件の厳格化がはかられ、実習先の確保や事務手続きに苦慮することも多いが、担当教員間の連携と教育支援課担当職員の協力のもとに今年度も円滑に進めることができた。</p>	<p>教育目標5.「・・・資格をもった専門的な職業人を養成し、地域社会の産業、福祉、文化、教育等に貢献できる学生を育成する」の達成に向け、カリキュラムの運営について円滑に行うことが出来た。国試の合格率向上については、引き続き学習指導方法の検討と対策を講じていく。 【指標なし】</p>

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

<p>【社会福祉士課程】 現場の実習指導者の実習報告会への積極的な参加を呼びかける。これにより実習成果に関して現場からのフィードバックを得るとともに、実習指導者・学生・教員間の連携を図る。</p>	<p>実習修了生 12 名による実習報告会を 12 月 24 日午後学内で開催した。全実習施設に案内を送付するだけでなく、12 月は次年度実習先依頼の時期でもあるため、電話での打診の時に報告会への参加も直接声掛けした結果として、実習指導者も 2 名の参加があった。また PSW 課程の教員 2 名も初めて参加した。 本学の実習報告会は課程設置以来実習生による実行委員方式で開催することになっており、テーマの設定から当日の時間配分まで、学生主体で計画・実施された。</p>	<p>ほぼ例年通りの内容・質で実施できた。ただし今年度も実習指導者の参加が低調であった。実習施設・機関との連携の機会として、事後教育のまとめである実習報告会への参加を一層促したい。 【指標「実習報告会プログラム」】</p>
<p>【社会福祉士課程】 社会福祉士国家試験に向け、東京アカデミーへの委託による受験対策講座の実施、自主勉強会の強化のほか、「自主ゼミ」として、専任教員による「過去問を用いた国家試験対策」を企画している。新卒者の平均合格率（3 割程度）を確保するためには、6 名の合格者を出す必要がある、それを目標値として設定する。</p>	<p>東京アカデミーへの国家試験対策（9 月～11 月、12 月～1 月）を実施したほか、自主学習を補佐するプリント学習を対策講座と並行して毎週実施した。また、模試の回数を増やし、6 月には新たに東京アカデミー 2015 全国模試を実施したほか、例年行っている日本社会福祉士養成校協会全国統一模試を 10 月、東京アカデミーの対策講座内の全国模試を 11 月に実施した。さらに 12 月と 1 月には自主ゼミとして希望者に過去の模擬試験問題を用いた模試を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東京アカデミー 2015 模試の実施：22 名に配布 ・日本社会福祉士養成校協会全国統一模試の提出状況 ・国家試験受験者 17 名（合格発表 3 月 15 日） <p>【指標 東京アカデミーの対策講座出席簿】 【指標 プリント学習提出状況】 【指標 社会福祉士受験資格取得状況】</p>
<p>【社会福祉士課程】 福祉系 OB/OG 交流会は、2015 年度以降隔年開催とするため、今年度は実施しないが、OB・OG にとっても在学生にとっても有意義な交流の在り方を今年度中に検討しておく。</p>	<p>OBOG 交流会については 2015 年度以降隔年開催とし、2016 年度は実施しなかった。次回開催の 2017 年度については、今年度中には特に検討を進めることはできなかったが、卒後間もない若い OBOG のフォローアップ教育の場として位置づけるようなアイディアは出された。</p>	<p>実施しなかったため、達成状況の指標は特になし。 【指標なし】</p>
<p>【社会福祉士課程】 「福祉実習準備室」の学生利用が促進されるよう、準備室パート職員および学生へのヒアリングを行う。</p>	<p>最新版の国家試験対策用テキスト等教材の新規購入を行った。PSW 課程の学生にも利用を促し、自主勉強会の会場として利用される頻度が高まった。パート職員および学生へのヒアリングを実施するにはいたらなかった。</p>	<p>PSW 課程の学生も含め、使いやすい設備や運営を目的とした学生へのヒアリングとを行うことを、次年度以降の課題としたい。 【指標なし】</p>
<p>【学芸員課程】 学芸員資格課程を円滑に実施し、学生の資格取得を進めるとともに、講義・実習を通して博物館・生涯教育・文化財に関連する進路への意欲を高める。</p>	<p>講義・実習の双方において、カリキュラムを円滑に実施し、履修学生の資格取得が進んだ。</p>	<p>カリキュラムの円滑な運営により、今年度は 8 名の学生が資格を取得した。しかし資格取得の卒業後の進路に照らすと、必ずしも資格を生かした進路ではない。資格に関連した進路は限られているが、今後教育方法・学習指導により、知識を活かせる人材の育成を目指す。 【指標「2016 資格取得者人数」】 【指標「学芸員取得者の進路一覧」】</p>
<p>【教職課程】 人間科学科生の教員免許取得と採用機会の拡大を目指し、現役生および期限付き教員として奮闘している卒業生に対して合格への意欲を喚起させる取組を強める。免許統合などの政策動向を注視しながら、こども発達学科と結んだ小学校教員免許の取得に関わる「他学科教員免許履修制度（副免）」の協定を両学科間の調整の下、円滑に運営し、その指導の安定的な運用を計る。 【教職課程】 特別支援学校教諭一種免許課程における「特別支援教育実習」の 3 年次履修、4 年次履修の履修条件に基づく判定と、学生に対する事前指導を充実させる。 【教職課程】 「特別支援学校教育実習連絡協議会」において、他大学並びに特別支援学校長会と緊密に連携しながら、「特別支援教育実習」の円滑な推進を図る。</p>	<p>中学校、高校、特別支援学校の教員免許取得に加え、小学校教員免許取得のための「他学科教員免許履修制度」が活用されている。 3 年次に実施される特別支援教育実習に各自が意欲的に取り組み、辞退者、中止者はいなかった。 特別支援教育実習は、「特別支援学校教育実習連絡協議会」が適切に調整しており、概ね、実習生の希望に沿う形で進められている。</p>	<p>1 年生 2 名が、小学校教員免許取得を希望し、面接・選考の結果、合格した。4 年生 1 名が小学校一種免許取得の見込みである。教員採用は、全学において現役・既卒合わせて近年最高の 52 名（特別支援 17 名）の合格者を出し、人間科学科生も特別支援学校高等部で 2 名の合格者を出した。期限付教員として奮闘している卒業生や教職をめざす現役生に対して合格への意欲を喚起させる取組が引き続き必要である。 人間科学科の教職課程履修者数は減少傾向であったが、本年度 4 年生 24 名、3 年生 21 名、2 年生 11 名、1 年生 17 名であり、若干ではあるが盛り返すことができた。 【指標「教職課程登録者数および修了者数」】 【指標「教職免許状取得者数」】 【指標「副免」取得者数＝取得者なし】 【指標「特別支援教育実習の実習生数」】</p>

	<p>[1-4] ・SAの制度を、4年間の学習指導においても活用できないか検討する。SAとなる学生を増やすことによって、SA自身の学習となるように、SA活用を計画する。予算確保を工夫する。 ・領域ごとの特性を生かしつつ、多くの学科教員・学生が参加・交流できるような卒論発表会のあり方を検討・実施する。</p>	<p>・基礎ゼミAB・C各クラスに3・4年生からなるSAを2名ずつ配置し、先輩への助言・指導にあたらせた。教員はSAとの打ち合わせを行い、SA学生の意欲向上に配慮した。上級生と下級生の交流は、学修の刺激として双方に良い影響を与えることが見て取れた。 ・卒論発表会は2月8日に社会領域・福祉領域はSGUホール、心理・教育領域はコラボレーション・センターを会場とし、ポスター発表を行った。文化領域は2月7日に教室で口頭発表を行った。</p>	<p>上級生が身につけた学修成果を先輩として役立てる機会がより多くあることが望まれる。SAという名称が必要かどうか、予算（報酬）が必要かどうか、どの程度の責任をもたせるかどうかなど、検討する必要がある。 【指標 基礎ゼミAB・C活動報告、卒論発表会報告 学科会議資料】</p>
<p>2017年度</p>	<p>年次計画内容</p>		
<p>[1-1]</p>			
<p>【基礎ゼミAB】</p>			
<p>・少人数教育により、学修の基礎となる読む力、報告する力、討論する力を養成する。 ・専門領域における学びへの関心を喚起するための交流企画や学修ガイダンスを工夫し、実施する。 ・多様化する学生のニーズに応え、初年次の順調な適応を支援するために、連絡会議を行って担当教員間の情報共有を綿密に行うとともにSAとも緊密な連携を図る。</p>			
<p>【基礎ゼミC】基礎ゼミCでは、文献や資料の蒐集、検討、それに基づく報告、討議を通して、大学での学びに必要な基礎的能力を養う。また、これまでに引き続き、各ゼミにおいて報告・検討された内容をゼミ報告集としてまとめ、論理的な記述と他者に伝える力の育成をはかる。学生の個別的な学修状況等を把握し、クラスでの成果を高めるために教員間の打ち合わせを適宜行うとともに、SA間の情報共有の機会をもつ。</p>			
<p>[1-2]</p>			
<p>【社会領域】「社会調査法」では、社会調査のいくつかの方法を習得するために、体験的な学習機会を設ける。「フィールドワーク」では、対象地域の人々と直接関わり、地域社会やそこに暮らす人々が抱える諸問題を体験的に把握するために現地調査を実施する。</p>			
<p>【福祉領域】引き続き、「社会福祉論A」と「社会福祉演習Ⅰ／Ⅱ」および「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」において、実践的な知識の獲得をねらいとし、学外講師を積極的に招聘する。</p>			
<p>【福祉領域】相談援助職としての基本的技能である面接力と対人関係形成力を評価し実習に活かすために2015年度より開始した「当事者参加型実習前評価システム」を継続する。また、「社会福祉士養成校協会北海道ブロック」が推奨するもう一つの実習前評価システムである「実習前コンピテンスアセスメント」に基づく「CBT (Computer Based Training)」のSGU版の実施も予定している。これは本学でも従来「実習前知識テスト」と称して実施してきたものだが、2017年度はより広くかつ緻密な知識を求める内容に刷新し、実習前学習の深化を図ることで、実習をより充実した状態で迎えられるよう働きかける。</p>			
<p>【心理・教育領域】職業人として必要な、分析的・合理的な視点とプレゼンテーション能力を養うために、「心理学実験実習」において少人数教育体制を活かした指導をおこなうとともに、学生の能力の伸長程度を測定する方法を引き続き検討する。</p>			
<p>【心理・教育領域】学生の地域連携活動（SGU遊ベンチャー）への支援を継続し、その成果を活動報告書にまとめる。</p>			
<p>【文化領域】置戸町での「考古学実習」の発掘調査を継続するとともに、その調査成果を活用して、学生が学習成果を主体的に発信する機会を作る。</p>			
<p>[1-3]</p>			
<p>【社会福祉士課程】引き続き、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのカリキュラムを円滑に推進する。</p>			
<p>【社会福祉士課程】現場の実習指導者の実習報告会への積極的な参加を呼びかける。これにより実習成果に関して現場からのフィードバックを得るとともに、実習指導者・学生・教員間の連携を図る。</p>			
<p>【社会福祉士課程】社会福祉士国家試験対策として、自主模試・自主勉協会の実施、毎週月曜4講の「演習Ⅲ」終了後の30分テスト、学外模試の必須化（4回）、東京アカデミーへの委託による対策講座などを企画している。個別の状況を「見える化」する「国試対策個人カルテ」を作成し、都度学生自身に記入・提出させ、それに基づきながら国試申し込み時や卒論提出前後、試験直前には個別面談を実施する予定である。</p>			
<p>【社会福祉士課程】隔年開催となった福祉系OB/OG交流会は、2017年度は実施の年である。今年度は卒業間もないOB/OGへの声掛けを積極的に行い、実習報告会と連動させることで現役学生との交流を深めるとともに、既卒者へのフォローアップ教育の場としての位置づけを検討する。</p>			
<p>【社会福祉士課程】「福祉実習準備室」の学生利用が促進されるよう、準備室パート職員および学生へのヒアリングを行い、環境整備の方針を明確化する。</p>			
<p>【学芸員課程】学芸員資格課程を円滑に実施し、学生の資格取得を進めるとともに、講義・実習を通して博物館・生涯教育・文化財に関連する進路への意欲を高める。</p>			
<p>【教職課程】昨年度は全学的にかつてない規模の教員採用実績を残し人間科学科生・卒業生への大きな励みとなっている。教員免許取得と採用機会の拡大を目指し、現役生及び期限付き教員として奮闘している卒業生に対して、合格への意欲を喚起させる取組を一層強める。免許統合などの政策動向を注視しながら、こども発達学科と結んだ小学校教員免許の取得に関わる「他学科教員免許履修制度（副免）」の協定を活用する機運を高め、実りあるものとして安定的な運用を図る。</p>			
<p>【教職課程】特別支援学校教諭一種免許課程における「特別支援教育実習」の3年次履修、4年次履修の履修条件に基づく判定を適切に進め、実習事前指導の一層の充実を図る。</p>			
<p>【教職課程】「特別支援学校教育実習連絡協議会」において、他大学並びに特別支援学校長会と緊密に連携しながら、「特別支援教育実習」の円滑な推進を図る。</p>			
<p>[1-4]</p>			
<p>・学生が4年間の学修をイメージしやすく、計画的に学習して卒業論文で集大成できるように、各領域の方針に沿って講義・演習での指導方法を整える。 ・基礎ゼミAB・C各クラスに配置されたSA学生だけではなく、上級生と下級生の交流ができないか検討する。</p>			

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。		[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバス一致度チェックを経験した後なので、ガイドラインに則ったシラバス作成を定着させる。	授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成するよう、教授会で依頼するとともに、記述内容が適正か否かを自己点検するためのチェックリストを盛り込んだ「シラバス作成ガイドライン」を全教員に配布した。	人間科学科の専門科目170科目(担当者62名)のシラバスに関してガイドラインとの一致度チェックを行い、8科目(担当者6名)分について修正を行った。対象となった科目数と担当者数は前年度比で半減した。 【指標①「シラバス作成ガイドラインとの一致度調査」】
	[2-2] 全学教務委員会が実施する調査や学生アンケートの結果を活用して、授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証する。	「2014、15年度入学生意識調査」「学生による授業評価アンケート」では、授業内容・方法とシラバスとの整合性を問う設問がないので、検証することができなかった。	授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証する必要があるなら、学生による授業評価アンケートの設問項目のなかに、授業内容・方法とシラバスとの整合性を問う設問を復活させるよう求める。 【指標③「学生による授業評価アンケート」】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 今年度も「シラバス作成ガイドライン」を全教員に配布し、適正なシラバス作成に努力する。		
	[2-2] 「新入生意識調査」や「学生による授業評価アンケート」以外に授業内容・方法とシラバスの整合性を検証する適切な手段があるか否か、検討を進める。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 昨年に引き続き、作成されたシラバスを調査し、どのような評価法が採用されているかを把握する。	成績評価方法・基準がシラバスに明記されているか否かについてシラバスチェックを行った。	人間科学科の専門科目170科目(担当者62名)のシラバスに関してガイドラインとの一致度チェックを行い、8科目(担当者6名)分について修正を行った。対象となった科目数および担当者数は前年度比で半減した。 【指標①「シラバス作成ガイドラインとの一致度調査」】
	[3-2] 昨年に引き続き、講義の事前・事後学習が行われている科目を選び、工夫している点を明らかにする努力をする。	学生による授業評価アンケートにおいて、事前事後学習をしていると答えた学生の割合が多かった教員5名を選び、ヒアリングを実施して、工夫している点などを公表するとともに、教務委員の所見を記した。	今年も学生による授業評価アンケートから、5つの事例を取り上げ、学科教員間で共有した。今後も、これを積み重ねていき、学生の時間外学習を増やす努力を継続していきたい。 【指標「2015年度「学生による授業評価アンケート」の結果分析(2016/7/14)」※7月教務委員会資料】
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] 昨年度に引き続き、作成されたシラバスを調査し、どのような評価法・基準が採用されているかを把握する。		
	[3-2] 講義の事前・事後学習が行われている授業を選び、工夫している点を明らかにする。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] 教育効果について、既存の指標を用いて定期的に検証する。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。		[4-1,4-2 共通] ①意識調査・学修行動調査 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 ④入学年度別学位授与状況 ⑤進路決定状況 ⑥学科FDの実施状況	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 昨年度に引き続き、学修行動調査のデータからどれくらいの学生の学ぶ意欲を引き出せているかについて検証する試みを行う。今年度は新入生以外の学年を対象としたい。	2015年10月に2年生を対象として実施した「学修行動調査」によると、1年生時の時間外学習時間の平均は週71分であったが、2年生時には99分にまで増加したことが確認できる。	引き続き、3年生以上の学生についても学習意欲に関する調査を継続し、学習意欲を引き出す方策を探っていきたい。 【指標「2年生学修行動調査の結果分析」2017年3月7日学部教務委員会資料11】

	[4-2] 昨年に引き続き、[4-1]の検証を基に、教育効果を上げていると思われる要因について明らかにする努力を継続する。	今年度から、基本的に毎月の学科会議で「学科FD」を行った。4月から翌年2月までのテーマは次のようである。「基礎ゼミBの総括」(4月)、「卒論発表会の総括」(4月)、「基礎ゼミABの運営について」(5月、6月)、「基礎ゼミAの運営について」(7月)、「基礎ゼミCの運営について」(9月)、「人間科学基礎論について」(10月)、「心理学実験実習Iにおける発表活動について」(11月)、「講義のスピードに関して」(12月)、「受講生への課題の返却について」(1月)、「教養教育・外国語のカリキュラムについて」(2月)	これからも引き続き、学科FDを実施して教育効果を上げる要因について検討を進める。 【指標「2016年度学科会議資料(学科FD)」】
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] 昨年度に引き続き、学修行動調査のデータからどれくらいの学生の学ぶ意欲を引き出せているかについて検証する試みを行う。昨年度は2年生を対象としたので、今年度は3年生以上を対象としたい。		
	[4-2] 昨年度から定期的に行っている学科FDにおいて、教育効果を上げる要因について明らかにする努力を継続する。		

(5) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 学生の講義への主体的参加を促す授業のあり方を検証する。 [1-2] 本学の学習環境の活用を検証し、学習指導を充実させる。	[1-1] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③入学年度別GPA分布・推移 [1-2] 教室利用状況一覧	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 前年度に引き続き、学科会議においてSA・TAとの連携、グループワークの採用、卒業論文の取り組み等について現状を分析し、学生の講義への主体的参加を促す方法の検証を進める。	前年度に続き、英文講読SAと学習環境の効果的利用について確認と検証を行った。また、English Writing A・B・Cとの関連が高まりつつある学生支援室のSA・TAの業務内容および活動状況についても、検証に向けた情報収集を開始した。	今年度も英文講読SAと学習環境の効果的利用についての検証を継続することができた。また、学生支援室におけるSA・TAの業務内容および活動状況についても情報収集を開始することができた。次年度も同様の取り組みを続け、教育支援体制への貢献や課題の洗い出しを進めたい。 【指標「SA一覧と多目的教室利用状況」】
	[1-2] 本学の学習環境を効果的に利用している教員、ICTやグループワークを積極的に取り入れた授業を行っている教員に、学科会議において利用状況の報告を依頼する。	学科会議の10分FDの時間を活用し、ペアワーク等のアクティブ・ラーニングを実践している教員に発表を依頼し、教員間で情報共有や意見交換を行った。	今年度は、学科会議においてペアワーク等のアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れた授業を行なっている教員を中心に情報共有を行うことができた。次年度も同様の取り組みを継続していきたい。 【指標「2016年度7月学科会議資料 10分FD資料」】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] SA・TAとの連携、グループワークの採用、卒業論文の取り組み等について現状を分析し、学生の講義への主体的参加を促す方法を継続して検証する。		
	[1-2] 本学の学習環境を効果的に利用している教員に、学科会議において利用状況の報告を継続して依頼する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 授業内容、到達目標、授業の進め方、授業計画、成績評価方法など必要事項を明記したシラバスを作成する。	①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 来年度のシラバス作成に向けて、学科会議で注意喚起を行い、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。	シラバス作成についての注意喚起は学科会議の場では行わなかったが、前年度の取り組みを基に、各教員が適正なシラバス作成に務めた。また、「成績評価方法」と「時間外学習」について、今年度は2年生の配当科目について検証を行い、適切なシラバス作成に向けた方向性が共有されていることが確認された。	今年度も適切なシラバス作成へ向けた取り組みを継続することができた。 【指標「成績評価方法と事前学習」】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバス作成の留意事項について学科会議においても注意喚起し、必要事項が明記された適切なシラバス作成を目指す。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
	[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の修学時間を確保し、単位の実質化を測ることができる教育方法、修学指導を行う。	[3-1] 成績評価方法の記載状況一覧 [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一	

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

			致度調査（事前・事後学習の記載状況） ②学生による授業評価アンケート
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 専門科目担当者間での情報共有を1年生対象以外の専門科目にも広げ、適切な評価のあり方についての検証を進める。	前年度の議論を基に、各専門科目の担当者間で適正な評価に向けた取り組みを継続して行った。また、今年度は2年次配当科目のシラバスにおける「評価方法」を点検し、適正な成績評価に向けた議論をさらに進めていくための準備を行った。	今年度は2年次配当科目のシラバスにおける「評価方法」の検証を行うことができた。次年度も同様の分析を進めていきたい。 【指標「成績評価方法と事前学習」】
	[3-2] シラバスの「時間外学習の取り組み」について、授業評価アンケートも参照しながら、学科会議での情報共有を継続して行う。	今年度は学科会議でシラバスの「時間外学習の取り組み」について議論することはなかったが、今後の意見交換に向け、学科長、教務委員、教育支援課担当職員の間で2年生の配当科目についての検証を進めた。また、授業評価アンケートを参照した議論の方向性についても合わせて意見交換を行った。	今年度は2年次配当科目のシラバスにおける「時間外学習の取り組み」の項目を検証することができた。次年度も同様の分析を進めるとともに、授業評価アンケートのさらなる活用方法についても方向性を探っていきたい。 【指標「成績評価方法と事前学習」】
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] 学習者の目標意識が高まる評価方法について、学科で問題意識を共有し、適切な評価のあり方を引き続き検討する。		
	[3-2] シラバスの「時間外学習の取り組み」について、授業評価アンケートを参照し、学科会議での情報共有を継続して行う。		

中期計画【計画4】（目標4に対応する計画）		達成度評価指標【指標4】	
[4-1]	教育目標の達成に向けて効果的な教育内容・方法を検証する。	[4-1,4-2 共通]	
[4-2]	教育効果を上げるために、教育内容・方法について、FD等を通じて改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。	①入学年度別単位修得状況分布・推移 ②入学年度別GPA分布・推移 ③入学年度別学位授与状況 ④進路決定状況 ⑤学部・学科FD、FD研究会等実施状況	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 前年度に続き、4年生の成績、英語プレイスメントテストのスコア、TOEICのスコア、留学状況、進路決定状況などさまざまなデータから、教育効果の検証を進める。	前年度の学科会議での議論を基に、複数の資料から4年生の成績、英語プレイスメントテストのスコア、TOEICのスコア、留学状況、進路決定状況を検証する取り組みを継続して行い、教育効果の検証に向けたデータの蓄積を進めた。	今年度も4年生のデータを基に検証を進めることができた。来年度も同様の取り組みを続けたい。 【指標「2016年度10月学科会議別添資料 英語英米文学科外国留学奨学生申込者一覧」「2016年度3月学科会議資料 学位授与式の学科代表について（4年生取得単位・GPA一覧）」「内定状況」】
	[4-2] 学科会議において、各学問分野におけるFD実施状況についての情報共有をさらに充実させ、教育方法の改善に努める。	今年度は毎月の学科会議でFDに関する報告の時間を設け、教育方法の改善に向けた意見交換を行った。	今年度から毎月の学科会議でFDに関する報告の時間を設けたことから、定期的な意見交換を行うことができた。来年度以降も同様の取り組みをさらに充実させていきたい。 【指標「2016年度7月学科会議資料 10分FD資料」】
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] 4年生の成績、英語プレイスメントテストとTOEICのスコア、留学状況、進路決定状況などさまざまなデータから、教育効果の検証と分析を継続する。		
	[4-2] 学科会議において、各学問分野におけるFD実施状況についての情報共有を継続し、教育方法の改善に努める。		

(6) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】（目標1に対応する計画）		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	カリキュラムマップに基づき、教育目標に合わせた講義を展開しつつ個別の指導を行う。		学年別GPA分布
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	大学基準4-2において学科の教育指針の詳細を検討した後、授業評価アンケートに基づき、学習指導の方法について教育課程検討会で情報交換を行う。	学科の教育指針やカリキュラムマップを教員間で共有した上で、授業評価アンケートの結果を質的に分析し、より効果的な学習指導方法を学科会議検討した。また、学習指導のより具体的方法について、学科会議の前のFDミーティングで継続的に話しあった。	今後も新学部設置や公認心理師課程導入の経過を見ながら、効果的な学習指導方法について、情報共有を継続する必要がある。【指標なし】
2017年度	年次計画内容		
	前年度同様、学科会議の中で、カリキュラムマップ、教育目標の共有を行う。		

中期計画【計画2】（目標2に対応する計画）		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	シラバス作成ガイドに基づく適切なシラバスを作成し、各講義の目標を広く学生に周知する。		授業評価アンケート
2016	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況

年度	大学基準 4-2 において学科の教育指針の詳細を検討した後、授業評価アンケートに基づき、シラバス作成の方法について教育課程検討会で情報交換を行う。	特に新学部設置以降のシラバス内容について、何度も教員間で情報交換を行うことができた。	現在在籍している教員間では十分にシラバス作成ガイドラインや意欲を促進させるシラバス内容について共有できていると考えられるが、新学部設置に伴い新たに採用された教員にも新学部シラバス検討の経過や、適切なシラバス作成について伝達する必要がある。【指標なし】
2017年度	年次計画内容 前年度同様、学科会議の中で、シラバス作成ガイドを確認する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1] シラバスに成績評価基準の明確化を行う。		シラバス作成ガイドラインとの一致度調査	
2016年度	年次計画内容 [3-1] 大学基準 4-2 で学科の教育指針の詳細を検討した後、成績評価及び単位認定の方法について教育課程検討会で情報交換を行う。	計画実施状況 新学部設置に向けて、教育目標やカリキュラムマップ、シラバスについては教員間で検討することができたが、単位認定基準については、検討する時間的余裕がなかった。	指標に基づく中期目標の達成状況 教育目標、カリキュラムマップ、シラバス内容について、現在在籍している教員のみならず新任教員とも共有し、その上で、成績評価基準についても検討する必要がある。【指標なし】
2017年度	年次計画内容 [3-1] 前年度同様、学科会議の中で、成績評価基準の明確化について確認する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] 教育効果の検証のために、既存の指標を用いて検証を行う。		①授業評価アンケート ②各講義ごとの単位修得率	
2016年度	年次計画内容 [4-1] 大学基準 4-1 および 4-2 を整備した後、講義毎の単位取得率をもとに検証を行う。	計画実施状況 現行カリキュラムでの、講義ごと単位取得率を学科会議で共有した。	指標に基づく中期目標の達成状況 今後も経年変化を分析し続ける必要がある。また、単に単位取得率のみならず上述の成績評価基準もあわせて検討していく必要がある。【指標②】
2017年度	年次計画内容 [4-1] 前年度同様、①②を経時的に分析し、学科会議で共有する。		

(7) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実習等)の実施を検証する。 [1-2] 学習指導の充実を図るとともに、本学の新しい学習環境を活用し、学生主体の双方向の授業形態について検討する。		[1-1、1-2 共通] ①学生による授業評価アンケート(全学) ②入学年度別単位修得状況分布・推移(全学) ③入学年度別 GPA 分布・推移(全学)	
2016年度	年次計画内容 [1-1] 授業評価アンケートや教職員の授業評価と GPA などの達成度を比較して、より良い授業づくりを目指す。 [1-2] 授業形態の特色に合わせて学習指導の充実を図るために、コラボレーションセンターを活用し、小テスト、レポートなどのフィードバックができるような授業形態を工夫する。担任制度により学生対応の充実を図る。	計画実施状況 授業評価アンケートや教職員の授業評価と GPA などの達成度を比較して、より良い授業づくりを目指した。 学習指導の充実を図るために、コラボレーションセンターを活用した。小テスト、レポートなどのフィードバックができるような授業形態を工夫した。担任制度により学生対応の充実を図った。	指標に基づく中期目標の達成状況 現状分析を 2/2 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-1:教育目標の達成に向けた授業形態の検証】 【指標①「学生による授業評価アンケート」】 【指標②③「入学年度別 GPA 分布・推移」】 現状分析を 4/4 実施。検証を 2/4 を実施。達成 1/3 を実施。 【指標「計画表」D4-3-1:教育目標の達成に向けた授業形態の検証】 【指標①「学生による授業評価アンケート」】 【指標②③「入学年度別 GPA 分布・推移」】 【指標「基礎ゼミのクラス分けについて」】
2017年度	年次計画内容 [1-1] 授業評価アンケートや教職員の授業評価や GPA などで達成度を把握し、教育目標に向けた授業形態が行われているか検証する。 [1-2] 前年度に引き続き、授業形態の特色に合わせた学習指導の充実を図る。そのために、コラボレーションセンターの利用やリアクションペーパーなどの活用など学生主体の双方向の授業形態について検討し、実施する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 授業の内容、到達目標、授業方法、授業計画、成績評価方法等必要な項目を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法が明記されたシラバスと講義実施状況を検証する。		[2-1、2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(全学) ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査(全学) ③学生による授業評価アンケート(全学)	
2016年度	年次計画内容 [2-1] シラバス作成ガイドラインが達成できているかのチェックをおこない、重点的に授業時間外の学習などについて周知徹底を図っていく。	計画実施状況 シラバス作成ガイドラインが達成できているかのチェックをおこなった。重点的に授業時間外の学習などについて周知徹底を図った。	指標に基づく中期目標の達成状況 現状分析を 2/3 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-2:適切なシラバスの作成】 【指標①③】

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

	[2-2] シラバスと実施状況との一致度を、「講義実施状況達成度調査」および学生による「授業評価アンケート」を通して検証し、その改善を図る。	シラバスと実施状況との一致度を、「講義実施状況達成度調査」および学生による「授業評価アンケート」を通して検証し、その改善を図った。	現状分析を 2/2 実施。検証を 0/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-2:シラバスに基づいた講義の実施】 【指標①③】 【指標「非常勤講師の説明会」(資料)】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバス作成ガイドラインに従い、授業の内容、到達目標、授業方法、授業計画、成績評価方法等必要な項目を明記したシラバスを作成するよう周知徹底する。		
	[2-2] 授業内容・方法が明記されたシラバスと講義実施状況の検証を、学生による「授業評価アンケート」や「講義実施達成度調査」などを通して実施する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
	[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価の視点を設定するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った成績・単位認定評価を行う。 [3-2] 講義や実習の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)(全学) ②学生による授業評価アンケート(全学) [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)(全学) ②学生による学修時間の申告調査やe-learning等を用いた学修時間の計測(全学) ③学生による授業評価アンケート(全学)
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 授業形態に合わせて評価の多様化を図り、それをシラバスに明記するようにする。その評価方法を成績に反映し、学生による「授業評価アンケート」の結果によって検証する。	授業形態に合わせて多様化を評価と、シラバスに明記した。評価方法を成績に反映した。教職科目については、厳密なる評価をおこなうことを再確認にした。	現状分析を 2/3 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-3:適切な成績・単位認定評価】 【指標②】 【指標「単位の厳格化について」】 【指標「非常勤講師への講義のお願い」】
	[3-2] 授業形態に合わせて学習指導の充実のために、学習時間の確保ができているか、単位の実質化を図る方針を学生に周知を図る。学生による「授業評価アンケート」とその結果を検証するとともに、学習時間の確保に努める。	学習時間の確保と単位の実質化を図る方針を学生に周知し、学習時間の確保に努めた。	現状分析を 3/3 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-3:単位の実質化を図る教育方法、学修指導】 【指標③】
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価の視点を設定するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記すること、および、それに従った成績・単位認定評価を行うことを周知徹底する。また、その結果を学生による「授業評価アンケート」や成績などによって検証する。		
	[3-2] 講義や実習の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行うよう奨励する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
	[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性を検証しつつ、教育目標の達成状況を把握するための指標を検討し適用する。 [4-2] 教育の充実と学習成果の向上のために、教育内容・方法等について研究会等を通じて組織的な取り組みを行う。		[4-1、4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成(全学) ②入学年度別単位修得状況分布・推移(全学) ③入学年度別GPA分布・推移(全学) ④入学年度別学位授与状況(全学) ⑤学部・学科FD、FD研究会等実施状況(全学) ⑥「はぐくみ」への記入 ⑦自己評価シート
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 専門に関する基礎知識、豊かな人間性、他者との協力やコミュニケーション能力、教育実践や課題探求など、学科の教育目標の達成度を教職カルテなどの自己評価システムを運用し、教員がチェックしていく体制を構築する。	教育目標の達成度を教職カルテなどの自己評価システムを運用した。また基礎能力の不足する学生への対処を全員で共有し、対処をした。	現状分析を 1/2 実施。検証を 1/2 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-4:教育目標の達成状況を把握するための指標の適用】 【指標③】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】 【指標「こども発達学科FD」報告】 【指標「教職課程履修カルテ」※現物提出】
	[4-2] GPAの分布や推移に注意し、学科全学年の学生についての教育効果などについて話し合う場を継続的に設け、意見交換する。	学科全学年の学生についての教育効果などについて話し合う場を継続的に設け、意見交換を行った。	現状分析を 2/4 実施。検証を 1/1 を実施。達成 0/1 を実施。 【指標「計画表」D4-3-4:教育内容・方法等についての組織的な取り組み】 【指標③】 【指標「卒業率・進級率推移表」】 【指標「コミュニケーション記録登録件数」】
2017年度	年次計画内容		

年度	[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性を教職カルテなどの自己評価システムの運用と教員によるチェック体制で検証し、教育目標の達成状況を把握するための指標を検討する。
	[4-2] 教育の充実と学習成果の向上のために、教育内容・方法等について、研究会や情報交換の場、学科会議のFD等で組織的に検討する取り組みを行う。

(8) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 授業参観による自己研修、教員協議会における意見交換を通じて、授業方法および演習運営の工夫・改善を図る。 [1-2] 授業理解度および出席率の低い学生に対し、個別面談を実施して学習方法を指導することで、講義への継続的出席を促す。 [1-3] 学生が法の理念や解釈に関する知識を修得し、かつ将来の進路のために努力する姿勢を確立するため、法学検定試験ベーシックコースに合格させる。	[1-1,1-2,1-3 共通] ①学生による授業評価アンケート ②入学年度別GPA分布 ③学部専門講義科目出席統計 ④法学検定試験ベーシックコース合格率	
2016年度	年次計画内容 [1-1] 授業参観期間を今年度も設定し、教員が他の教員の講義を直接参観することで、教授方法の工夫や学生の反応などを体感できるようにしたい。 [1-2] 情報ポータル活用による学生情報(出席状況、取得単位、学生状況等)の担任教員と教務課職員との共有の促進を図り、問題学生の早期発見、担任教員との連携した対応を促進する。 [1-3] 法学検定試験合格者と不合格者の各々について、「法学スキル基礎」の出席率を測り、試験対策授業の内外で必要な対策があるかどうかを探る。また法学検定ベーシックの合格率を高めるよう努める。公務員志望学生の増加に対応し、英語、数学等の学力調査を実施し、その克服のための施策を実施する。	計画実施状況 例年同様、前期・後期とも、授業参加期間を約1ヶ月間設定し、各教員が他の教員の日常の講義を直接参観することで、当該他の教員において工夫等されている教授方法や学生の反応などを体感できるようにした。 各教員がゼミ生と随時面談し、留年生等については担任教員が5月と10月に一斉面談を行い、その結果を「はぐくみ」に記入して情報を共有した。 法学スキル基礎の出席率と定期試験結果、および授業評価を踏まえ、法学スキル応用の授業について、6名の担当教員が統一的な方式で行うこととし、各回に確認テストをすることで、法学検定試験ベーシックの合格率向上に努めた。	指標に基づく中期目標の達成状況 学生による授業評価アンケートの結果や、専門講義科目の出席統計をみれば、各教員が工夫等を重ねていることがわかれ、授業改善効果があがっているものと思われる。 学生による授業評価アンケートの結果や、専門講義科目の出席統計をみれば、各教員が工夫等を重ねていることがわかれ、授業改善効果があがっているものと思われる。 法学検定試験ベーシックについては、受験者119名中71名が合格し、合格率は60.0%となり、全国平均の60.6%に近づいた。
2017年度	[1-1] かねてより設けられている授業参観期間を今年度も設定し、授業方法がどのように工夫されているかを見て、自己の授業において改善することができるようにする。 [1-2] 情報ポータルを積極的に活用すべきことをすべての教員に対して周知し、文書のみで説明できない内容については口頭で教員及び教育支援課職員に周知し、問題のある学生を早期に発見し、情報の共有を図る。 [1-3] 法解釈学の基礎は1年次の必修科目及び基礎ゼミナールで習得することを前提として、法律知識の定着度合いを測る指標の1つとして法学検定試験を受験させる。また、そのための対策授業である「法学スキル(基礎・応用)」を実施し、合格率の向上に努める。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 授業のねらい、到達目標、授業の進め方に関し、明確かつ具体的な記述がなされているか、教務委員会で点検する [2-2] 授業の進め方、学生の時間外学習等に関し、どのような成果と課題があるか、教員協議会における意見交換にて確認する。	[2-1,2-2 共通] ①シラバス第三者点検にて修正依頼をした科目数 ②学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容 [2-1] 学部コア科目を中心に、シラバスを点検する。 [2-2] 学生の授業時間外学習につき、どのような工夫があり得るか、各教員における取組みの調査など、研究を進めたい。	計画実施状況 時間外学習および学習上の助言が、シラバスに明記されているか確認し、学生へのフィードバックを行った。 学生に授業時間外学習を促すべく、各教員においてどのような取組みがされているか、教員協議会において確認することはできなかった。	指標に基づく中期目標の達成状況 時間外学習および学習上の助言が明記されていないシラバスは、2科目であった。 学生の授業時間外学習について、各科目においてシラバスに明記されているものの、実際にどう学習されているかは、十分には確認できていない。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 学部コア科目を中心に、シラバスを点検する。 [2-2] 90分一コマ以外における学生の学習行動を多面的に把握する。積極的・能動的な予復習を招来する具体的な工夫を、FDの推進と並行して検討する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】
	[3-1] ①科目展開の特性を踏まえた評価方法・評価基準をシラバスに明記する。 ②シラバスに明記した評価方法・評価基準に従って評価を行う。 [3-2] ①事前・事後学習の必要性および目処をシラバスに明記する。 ②学生の学習時間を確保することを目的に適切な教育指導を行う。	[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

			③学生による申告調査を通じて計測した学習時間
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] ①授業評価アンケートへのレスポンスを通じたフィードバックともあわせ、シラバスに基づく授業展開を徹底 ① 績評価および単位認定の内容を充実させる。	①毎回の教授会において、コア科目、基礎・専門ゼミナール等での学生の学修状況を報告する。 ②教務委員会報告において全教員の成績評価・単位認定状況を周知し、適切な成績評価について検討する。	①毎回の教授会時に10分FDを設け、コア科目、基礎・専門ゼミナール等での学生の学修状況を共有し、適切な指導を追求してきた。 ②全教員の成績評価状況の共有は各セメスターにおいて実施している。
	[3-2] ①事前・事後学習における学修の位置づけを明確化し、各種指導を通じて学生に対し予復習の徹底を図る。授業評価アンケートの双方向的活用を推進する。 ②「はぐくみ」による出席状況、単位修得状況等の担任教員による適宜把握を促す。	①業における到達目標の明示、それに基づく課題提出や到達度確認などの工夫する。コメントペーパーなどを活用し、学生の習熟度を確認する。 ②「はぐくみ」の利用について、教授会にて広報した。	①講義期間中の確認テストやレポート提出などを求めるなど教員個々には工夫が見られるが、事前事後学習の位置づけを明確化したというところまでは到達していない。 ②「はぐくみ」には、ほぼすべての学生について記載がなされている。
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] シラバスに基づく授業展開を徹底する。成績評価や単位認定に大きなバラツキがみられないかを検証する。		
	[3-2] 事前・事後学習における学修の位置づけを明確化し、各種指導を通じて学生に対し予復習の徹底を図る。授業評価アンケートへのレスポンスを通じたフィードバックないし双方向的活用に取り組む。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
	[4-1] ①教育目標と学位授与方針との連関性を検証する。 ②教育目標達成状況を測定する指標の開発を検討する。 [4-2] ①学部内・学部間FD等を通じて教育内容・方法の組織的改善に取り組む。 ②FDのフィードバックを踏まえ、教育効果の継続的向上に努める。	[4-1,4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の検討状況 ②入学年度別単位修得状況・GPA分布 ③入学年度別学位授与・進路決定状況 ④優秀学生表彰、学生論文顕彰、学生論集発行状況 ⑤授業参観、FD等実施状況 ⑥教員協議会開催状況	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] ①コース別を含めた入学年度ごとの単位修得状況を多角的に把握し、特待入試学生・成績優秀学生のトップアップおよび要指導学生の掘り起こしに取り組む。 ②教育目標達成状況測定指標について、全学的な取り組みに基づきつつ検討する。	[4-1] ①2014年度入学生では、アドバンストコースの成績が高い水準で推移しており、トップアップの役割を果たしていることが確認できる。しかし2015年度入学生においてはアドバンストコースの成績が二極化しており、ボトムアップ面で課題を残している。2016年度入学生も含めた3コースの選択状況をみると、CUPコースが常に1,2を争う人気コースとなっており、また成績面でも他のコースに遜色ない。成績優秀学生への具体的な指導・支援内容については検討の入り口にある。 ②全学教務レベルでは指標開発にはいまだ至っていない。次年度が新カリキュラムの完成年度であるので、卒業・就職・資格取得などを総合的に勘案した達成度の評価を次年度以降おこなう。	達成状況 コース・年次別取得単位(平均)は以下のとおり: 新4年生 アドバンスト 114単位 スタンダード 94単位 CUP 107単位 新3年生 アドバンスト 62単位 スタンダード 75単位 CUP 76単位 新2年生 アドバンスト 37単位 スタンダード 36単位 CUP 40単位
	[4-2] 学部内外でのFD活動への取組みを進めるとともに、FDをテーマとする教員協議会を開催し、教員間の意見交換の場を設けたい。	例年同様、前期・後期とも授業参加期間を約1ヶ月間設定し、他学部教員に向けても参観を可能とした。また、学科長が全学のFD委員として、全学のFD委員会に出席し、学内外でのFD活動の情報収集等に努めた。	授業参観期間は設定したものの、他学部教員からの参観はなかった。FDをテーマとする教員協議会を、ほぼ毎月、短時間ではあるが開催することができた。
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] コース別を含めた入学年度ごとの単位修得状況を多角的に把握し、特待入試学生・成績優秀学生のトップアップ、学生全体のボトムアップおよび要指導学生の掘り起こしに取り組む。		
	[4-2] 10分FDを中心に学部内のディベロップメントに取り組む。あわせて、学内のFD関連事業への教員の参加、学外でのFD関連の催しへの教員の派遣などに取り組む。教員協議会を開催し、教員間の意見交換の場を設ける。		

(9) 社会情報学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の実施を検証する。 [1-2] 学習指導を充実させるとともに、本学の新しい学習環境を活用して、学生の講義への主体的参加を促す授業方法を行う。	[1-1,1-2 共通] ①講義形態ごとの授業科目のリスト ②授業形態の適切さについての教員の評価、特に新しい学習環境での授業

			実施についての教員の評価および学生の感想
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 授業形態の編成を再度確認する。	講義に適切な形態で授業が行われた。	①演習科目 6 科目、実習や演習を主体とする科目 43 科目、講義を主体とする科目 29 科目【履修要項：社会情報学部授業科目一覧表：資料 6】 ②新しい学習環境にふさわしい教授法の工夫がなされた。
[1-2] 学部の授業において新しい学習環境の活用を進める。	新しい学習環境を活用とした授業が行われた。それにふさわしい教授法の工夫がなされた。		

中期計画【計画 2】（目標 2 に対応する計画）			達成度評価指標【指標 2】
[2-1] 授業の内容、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。			[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバスについて再度確認する。	適切なシラバスを作成した。	[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインと一致している ②シラバスに基づいた講義が実施された
[2-2] 授業内容とシラバスとの整合性について各担当者が確認する。	シラバスを基準とした授業を各担当者が行った。		

中期計画【計画 3】（目標 3 に対応する計画）			達成度評価指標【指標 3】
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。			[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査（成績評価方法の記載状況） [3-2] ① 成績評価の分布
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] シラバスにおける評価方法の記載について再度確認する。	[3-1] 適切なシラバスを作成した。	[3-1] ①シラバス作成ガイドラインと一致している。
[3-2] 成績評価の分布を再度確認する。	[3-2] 適切に成績を評価した。	[3-2] 成績評価の分布【専門全科目の成績評価の秀優良不可の各比率：資料 7】	

中期計画【計画 4】（目標 4 に対応する計画）			達成度評価指標【指標 4】
教育効果を上げるために、教育内容・方法について、研究会を通じて情報を交換し、組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。			①単位修得状況分布・推移 ②GPA 分布・推移 ③学位授与状況 ④学部研究会等実施状況
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	学部教授会や学部運営会議で教育効果改善の試みについて検討する。	「10 分間 FD」のなかで、教育内容・方法についての検討が行われた。	①修得単位数、4 年生以上（120 単位以上 86.11%、120 単位未満 13.89%）。 ②【資料 8】 ③2013 年度以前入学の在校生 38 名（内 2013 年度入学生 31 名）中、2 年次留年 5 名（内 2013 年度入学生 1 名）、学位授与対象者 35 名（内 2013 年度入学生 28 名）、卒業延期 5 名（内 2013 年度入学生 0 名）、学位取得者 30 名（内 2013 年度入学生 28 名）。学位授与対象者を分母とした学位授与率 85.7%（内 2013 年度入学生 100%）。

(10) 大学院法学研究科

中期計画【計画 1】（目標 1 に対応する計画）			達成度評価指標【指標 1】
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の適切性を検証する。 [1-2] 研究指導計画に基づき、学位論文作成に向けて適切な研究指導を行う。			[1-1] ①シラバス ②学生による授業評価アンケート ③単位修得・GPA 分布状況 [1-2] ①修士論文作成スケジュール（便覧）
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 2015 年度に引き続き、教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習）の適切性を検証する。	[1-1] シラバスや院生アンケートの結果をみるかぎり、教育目標の達成のに向けて適切な授業形態（講義ないし演習）が取られているものと思われる。	シラバス
[1-2] 2015 年度に引き続き、研究指導についてアンケートで院生の感想・意見を集約し、必要に応じて研究指導計画に反映させる。	[1-2] 本研究科独自の「研究と研究環境に関するアンケート調査」を 2 月に実施した。その結果に加えて、事務窓口寄せられた要望等を集約し、可能な範囲で研究指導計画に反映した。	[1-2] 「研究と研究環境に関するアンケート調査」	

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

2017年度	年次計画内容	
	[1-1]	2016年度に引き続き、教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習)の適切性を検証する。
	[1-2]	2016年度に引き続き、研究指導についてアンケートで院生の感想・意見を集約し、必要に応じて研究指導計画に反映させる。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] シラバス作成ガイドラインに基づいて、授業の目的、到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記した統一的なシラバスを作成し、公表する。 [2-2] シラバスと実際の授業展開との整合性を恒常的に検証し、維持する。		[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	
	[2-1] ①2015年度に引き続き、大学基準協会の指摘に従い、精粗のないシラバスを作成する。 ②2015年度に引き続き、シラバス作成ガイドラインに基づきシラバスに必要事項が明記されているか、運営会議で点検する。	[2-1] ①大学基準協会の指摘にしたがい、教員は精粗がほぼないように、シラバスを作成した。 ②シラバス作成ガイドラインに基づき、必要事項が記載されているかどうか、運営会議で点検した。	指標に基づく中期目標の達成状況 ①シラバス作成ガイドラインに沿っているかどうかを、運営会議で点検した。 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査は、実施できなかった。
	[2-2] 2015年度に引き続き、シラバスと実際の授業展開との整合性を院生による授業評価アンケートで検証する。	[2-2] 院生による授業評価アンケートの質問項目について検討したが、改定の必要性を認めなかった。	院生による授業評価アンケート
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] ①2016年度に引き続き、大学基準協会の指摘に従い、精粗のないシラバスを作成する。 ②2016年度に引き続き、シラバス作成ガイドラインに基づきシラバスに必要事項が明記されているか、運営会議で点検する。		
	[2-2] 2016年度に引き続き、シラバスと実際の授業展開との整合性を院生による授業評価アンケートで検証する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1] 科目の特性に応じて多面的な評価を採用するとともに、成績評価方法・基準をシラバスに明記し、それによって成績評価と単位認定を行う。 [3-2] 授業の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を模索し、実施する。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②学生による授業評価アンケート [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況) ②学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	
	[3-1] 2015年度に引き続き、シラバスに明記された成績評価方法・基準に従って成績評価と単位認定を行う。 [3-2] 2015年度に引き続き、事前・事後学習を促す教育方法、学習指導について検討する。	[3-1] シラバスに明記された成績評価方法・基準に従って、単位認定されている。 [3-2] 事前・事後学習を促す教育方法、学習指導については検討するにいたらなかった。	指標に基づく中期目標の達成状況 院生からの問題の指摘などは聞こえていない。
	[3-1] 2016年度に引き続き、シラバスに明記された成績評価方法・基準に従って成績評価と単位認定を行う。 [3-2] 2016年度に引き続き、事前・事後学習を促す教育方法、学習指導について検討する。		
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] 2016年度に引き続き、シラバスに明記された成績評価方法・基準に従って成績評価と単位認定を行う。 [3-2] 2016年度に引き続き、事前・事後学習を促す教育方法、学習指導について検討する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] 教育目標と学位授与方針との整合性を検証しつつ、教育目標の達成状況を測定する指標を検討・作成し、その指標を適用する。 [4-2] 教育効果を上げるために、FD等を通じて教育内容・方法の改善の組織的な取り組みを行う。		[4-1,4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成 ②単位修得・GPA分布状況 ③学位授与状況 ④修了生進路状況 ⑤研究科FD、FD研究会等実施状況	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	
	[4-1] ①教育目標と学位授与方針との整合性を検証する。 ②上記の検証に基づき、教育目標の達成状況を測定する指標を検討する。	[4-1] 学位授与方針を新年度に向けて改定したが、教育目標については検討できなかった。	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-2] 教育効果を上げるために、FD等を通じて教育内容・方法の改善の組織的な取り組みのあり方について検討する。	[4-2] 新年度、FDに関する意見交流会を実施すべく、検討を進めている。	
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] ①教育目標と学位授与方針との整合性を検証する。 ②上記の検証に基づき、教育目標の達成状況を測定する指標を検討する。		

[4-2]	教育効果を上げるために、FD等を通じて教育内容・方法の改善の組織的な取り組みのあり方について検討する。
-------	---

(11) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1]	各学年定員10名の少人数教育に適切な授業評価調査方法を運営会議において継続的に検討する。	[1-1] ①研究科委員会議題(ワーキンググループ・運営会議からの報告・審議)
[1-2]	事例検討を通じて学習する機会を維持する。	[1-2] ①特別事例検討会実施状況
[1-3]	専門科目によっては道内に適切な講師がいない現状を踏まえ、道外からの優秀な非常勤講師の確保に努める。	[1-3] ①道外非常勤講師数 ②道外非常勤講師旅費・滞在費
[1-4]	心理臨床センターは臨床心理士指定大学院として必須の実習教育施設であり、その運営を適切に維持し継続する	[1-4] ①心理臨床センター相談室員数・運営日数ならびに時間数等

2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 適切な授業評価方法を検討し、匿名での投書形式などを含めて探索的に実施する。	計画に沿って投書形式での実施を検討したが、その後、全学的に実施されてきた授業評価アンケートを大学院でも実施することになり、履修者が5名以上の科目を中心にアンケート調査を実施した。	① 達成
	[1-2] 事例検討会を企画し実施する。	計画に沿って遂行した。	① 達成(心理臨床センター運営会議議事録・資料)
	[1-3] 科目適合性の高い教員を道内で検討しつつ、道外からの適確な教員の確保を行う。	計画に沿って遂行した。道内では適格者が得られない科目について、道外からの非常勤講師の出張旅費の制限に基づいて1名の確保を行った。	① 達成
	[1-4] 相談室員の実働状況を把握し、心理臨床センターの維持・運営に問題がないかを引き続き確認する。	計画に沿って遂行した。毎月定例開催される心理臨床センター運営会議において状況確認を行った。	① 達成
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 全学的にアンケート方式での授業評価が実施されたが、必ずしも匿名性が保たれない事情が確認されたため、あらためて適切な授業評価方法を検討し探索的に実施する。		
	[1-2] 事例検討会を企画し実施する。		
	[1-3] 科目適合性の高い教員を道内で検討しつつ、道外からの適確な教員の確保を行う。		
	[1-4] 相談室員の実働状況を把握し、心理臨床センターの維持・運営に問題がないかを引き続き確認する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1]	適切なシラバスを作成し、履修状況・学習状況に基づいて適切な柔軟性を維持しながら授業を展開する。	[2-1] ①シラバス	
[2-2]	実習科目に関わる指導では専任教員を含め有能なスーパーバイザーを確保する。	[2-2] ①スーパーバイザー名簿リスト	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバス作成基準に則って作成を行い、少人数教員である特徴を生かして、柔軟な対応をとりつつ授業を展開する。	計画に沿って遂行した。シラバスの記載方法・内容と第三者によるチェック体制が全学的に整備されたため、それに即して実施した。また、少人数教育のメリットを生かして必要に応じて柔軟な授業展開を行った。	① 達成
	[2-2] 有能な外部スーパーバイザーを引き続き確保する。	計画に沿って遂行した。有能な外部スーパーバイザー(SV)を確保しているが、特殊なケースなどへの対応のため、今後も引き続き確保する必要が指摘された。	① 達成
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバス作成基準に則って作成を行い、少人数教員である特徴を生かして、柔軟な対応をとりつつ授業を展開する。		
	[2-2] 有能な外部スーパーバイザーを引き続き確保する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1]	適切な成績評価を行い、院生に対する説明責任が伴うことを継続的に確認する。	①成績表	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] 不合格者の出た科目について、研究科運営会議ないし研究科委員会で理由・状況の確認を行う。	計画に沿って遂行した。必修科目での成績が低い院生を把握し、そうした院生に対して個別指導を実施して対応した。	① 達成
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] 不合格者の出た科目について、研究科運営会議ないし研究科委員会で理由・状況の確認を行う。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】
[4-1]	回答の匿名性を保ちながら定員10名の少人数教育に適した授業評価アンケートの実施方法を検討する。	①授業評価アンケート(試案を含む)

4. 教育内容・方法・成果

4-3 教育方法

2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 匿名のアンケート方式などの有効性を調べるため、引き続き探索的に実施する。	全学的に実施されている授業評価アンケートが研究科目にも拡大されて実施された。少人数教育でのアンケート形式による調査の妥当性について、運営会議において引き続き検討を行った。	① 実施
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] 匿名のアンケート方式などの有効性を調べるため、引き続き探索的に実施する。		

(12) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習等)を検討し、実施する。 [1-2] 演習を中心として、院生の修論作成に向けた指導体制を実施、検証する。			
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] カリキュラム内容の見直しとともに現在の講義のあり方を検討し、改善の必要な点があれば改善に向けて検討する。	カリキュラムの見直しをおこなった。フィールドワークを取り入れる科目をつくったがそれ以外に講義内容の検討はできなかった。	
	[1-2] 指導教員の演習による指導の他に、修士論文の中間報告会、報告会、リサーチペーパーの報告会を行い、修士論文の作成の指導を行う。	修士論文の中間報告会、報告会、リサーチペーパーの報告会を行い、修士論文の作成の指導を行った。	
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 現在の講義のあり方を検討し、改善の必要な点があれば改善に向けて検討する。		
	[1-2] 指導教員の演習による指導の他に、修士論文の中間報告会、報告会、リサーチペーパーの報告会を行い、修士論文の作成の指導を行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 到達目標、授業内容・方法、授業計画、成績評価方法等必要な事項を明記したシラバスを作成する。 [2-2] 授業内容・方法とシラバスとの整合性を検証し、維持する。		[2-1,2-2 共通] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査 ②教員によるシラバスに基づいた講義実施状況達成度調査 ③学生による授業評価アンケート	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] シラバスの概要について説明書を配布し、適切なシラバスを作成することを教員に要請する。	適切なシラバスの作成を教員に要請した。	①シラバス作成ガイドラインと一致している。 ②授業評価アンケートはおこなわなかったが、大学院生に大学院に関するアンケート調査をおこない、その中で講義の全体的な評価を尋ねている。
	[2-2] シラバスに必要事項が記載されているかどうか、整合性がとれているかどうかを検証する。	シラバスの検証を行った。	
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] シラバスの概要について説明書を配布し、適切なシラバスを作成することを教員に要請する。		
	[2-2] シラバスに必要事項が記載されているかどうか、整合性がとれているかどうかを検証する。		

中期計画【計画3】(目標3に対応する計画)		達成度評価指標【指標3】	
[3-1] 科目の特質に応じて多面的な評価を採用するとともに、評価方法・基準をシラバスに明記し、それに従った評価を行う。 [3-2] 講義の事前・事後学習も含めて学生の学修時間を確保し、単位の実質化を図ることができる教育方法、学修指導を行う。		[3-1] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(成績評価方法の記載状況) ②院生によるアンケート [3-2] ①シラバス作成ガイドラインとの一致度調査(事前・事後学習の記載状況)	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[3-1] シラバスに評価方法・基準を明記する。講義の特質に応じた評価を行う。	シラバスに評価方法・基準を明記させた。	①シラバス作成ガイドラインと一致している。 ②院生アンケートは行った。
	[3-2] シラバスや講義などで事前・事後学習をするように指導する。	シラバスで事前・事後学習をするような記述をするように教員に要請した。	①シラバス作成ガイドラインと一致している。 ②院生アンケートは行った。
2017年度	年次計画内容		
	[3-1] シラバスに評価方法・基準を明記する。講義の特質に応じた評価を行う。		
	[3-2] シラバスや講義などで事前・事後学習をするように指導する。		

中期計画【計画4】(目標4に対応する計画)		達成度評価指標【指標4】	
[4-1] 教育目標と学位授与方針との関連性の検証と並行し、修士論文や単位取得の状況、進路状況等をみて教育目標の達成状況を検証する。 [4-2] 教育効果を上げるために、教育内容・方法について、組織的な改善の取り組みを行い、さらなる教育成果の向上を図る。		[4-1,4-2 共通] ①教育目標達成状況測定指標の作成 ②入学年度別単位修得状況分布・推移 ③進路決定状況	

2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[4-1] 修士論文や単位取得の状況、進路状況等をみて教育目標の達成状況を検証する。	修士論文の内容から見て教育目標は達成されている。	①教育目標達成状況測定指標は検討中である。 ②院生の単位取得状況は良好である。 ③今年度は社会人除く修了生は1名であり、その1名については研究と関連する分野への就職活動をおこなっている。
	[4-2] 大学院生に対するアンケート調査の中に講義に対する項目を設け、その結果を講義などに反映させる。	アンケートの項目の中に講義に関連する科目をいれて、調査をおこなった。回収率が低い点、項目の内容については今後の検討が必要である。	
2017年度	年次計画内容		
	[4-1] 修士論文や単位取得の状況、進路状況等をみて教育目標の達成状況を検証する。		
	[4-2] 大学院生の講義に対する要望、意見等を調査し、今後の講義に反映させる。		

4-4. 成果

中期目標

- 【目標1】教育目標に基づいた人材を育成する。
【目標2】学位授与方針に基づいた能力を育成し、適切に学位授与を行う。

(1) 全学教務委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し適用する。	[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-2] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査	
[1-2]	各学部学科が実施する、学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を支援する。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教学 IR のデータの分析を継続的に行う。	教学 IR 専門部会から、1~2年次の行動調査結果が出された。	達成度 75% 中期目標を検証するための【指標】について、次年度見直しも含めて検討したい。なお、2016年度は以下の資料をもとに検証を行った。 ①1~2年次意識調査結果
	[1-2] 教学 IR と学生の卒業時のデータや、卒後のアンケートデータとの関連性を検証する。	分析結果については、今年度の検証は完全になされていないが、次年度検証作業に入る。	達成度 0% IR 専門部会の報告による。就職委員会と連携し、卒業時および卒業後数年間を経過した後のアンケートの実施について検討を開始したい。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 学部、学科の教育目標に従い、各科目の「授業のねらい」「履修者が到達すべき目標」を設定する。同時に「成績評価方法」を「履修者が到達すべき目標」への到達度を測定するものにする。 [1-2] 「学力の三要素」「社会人基礎力」「国語力」などの基礎学力やジェネリックスキルの獲得がどのように目指されているかを明確にする。 [1-3] 入試成績、入学前学習等の入学前の情報から、初年次教育、専門教育に至る情報の連関、さらには進路情報、資格取得情報との連関を探るべく、教学 IR を活用する。その成果を教育目標、教育方法の適正化に活かす。		

(2) 教職課程委員会

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1]	4年間の切れ目のない指導体制を確立し、教職に対する意識・態度を身につけ、教育実践的知識・スキルを十分に習得するような指導方法の工夫に努める。	[1-1] ①教職資格登録状況 ②教育実習を行った学生の人数 ③教育職員免許取得者数 [1-2] ①教員採用状況・推移 ②教員採用状況(期限付き)	
[1-2]	教員採用の実績の向上に向けた改善を行う。		
[1-3]	地域社会の要請に応じて、新たな免許教科開設の可能性を検討する。		
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 4年間の切れ目のない指導を行い、教職に関する十分な知識、技能を身につけさせる。 (1)学部教授会と協力し教職課程カリキュラムの編成と検証を行う。 (2)教職課程履修カルテを活用して教科教育法、教職特講及び教職実践演習を軸とする4年間の継続した指導を行う。 (3)小学校、中・高等学校及び特別支援学校の教職課程履修及び免許取得に向けたガイダンスを各学年に応じて実施する。 (4)教職特講、教育実習事前・事後指導等に学外の現職教員等の協力を得て実践的に行う。また、授業見学などを積極的に取り入れる。 (5)全教育実習生に対する訪問指導を学部ゼミ教員の協力を得て実施する。 (6)教職課程に関するFD活動を推進し、『SGU 教師教育研究』の充実を図る。 (7)教職課程に係る教員養成の目標、組織、研究業績、授業科目及び卒業者の状況等について情報を公表する。	[1-1] 各学年、免許教科毎にガイダンス・個別指導を行い教職に関する知識、技能の取得を図った。 (1)教職課程委員及び教職課程担当教務委員による教職課程委員会は、学部教授会と協力し教職課程カリキュラムの編成を行った。 (2)教職課程履修カルテを活用して教科教育法、教職特講及び教職実践演習を軸とする指導を行った。 (3)小学校、中・高等学校及び特別支援学校の教職課程履修及び免許取得に向けたガイダンスを各学年に応じて実施した。 (4)教職特講、教育実習事前・事後指導等において予算の範囲で学外の現職教員等の協力を得てより実践的に行った。また、教職特講(英語)において大学バスを使って中学校の授業見学を行った。 (5)全教育実習生に対する訪問指導を、学部ゼミ教員の協力を得て実施した。 (6)『SGU 教師教育研究第31号』を発行した。 (7)教職課程に係る教員養成の目標、組織、研究業績、授業科目及び卒業者の状況等についてホームページ	①教職資格登録状況 教職課程新規登録者は、2015年度67名で大幅に落ち込んだが、2016年度は92名と少し改善した。 ②教育実習を行った学生の人数 小学校24名、特別支援学校46名、中学(社会)7名、中学(英語)6名、高校(商業)1名、(地歴)3名、(公民)8名、(英語)2名の99名であった。 ③教育職員免許取得者数 免許の取得者は、実人数65名で、小学校43名、特別支援学校29名、中学(社会)11名、(英語)8名、高校(商業)3名、(地歴)10名、(公民)11名、(英語)7名、(情報)1名、(福祉)1名、のべ124名(免許)であった。

4. 教育内容・方法・成果

4-4 成果

	<p>[1-2] 教員採用の実績の向上に向けた改善を進める。</p> <p>(1)学科に設置された教職課程の履修に加えて複数免許取得の促進を図る。</p> <p>(2)教職特講等の授業において教員採用試験を想定した教科指導、個別・集団面接等の指導を行う。また、小論文等の提出書類の添削指導、二次試験対策指導を実施する。</p> <p>(3)「教職をめざす学生交流会」、「教育実習生交流会」、「教師教育研究協議会」等を通じて教員採用試験突破への意欲を高める。</p> <p>(4)学生の自主学習、学生指導の場として教職課程室の充実と利用促進を図る。また、特別支援教育演習室の設置を図る。</p> <p>(5)東京アカデミー等の課外講座の活用を進める。</p> <p>(6)札幌市、北海道及び特別支援学校等の学校ボランティアに取り組む。</p> <p>(7)期限付き任用教員及び非常勤講師等の採用に関わる情報を提供する。</p>	<p>ジに掲載した。</p> <p>[1-2] 教員採用実績向上のために次のような取り組みを行った。</p> <p>(1)2016年度新規副免許登録者として、中学社会2名、小学校2名の履修を許可した。</p> <p>(2)教職特講等の授業において教員採用試験を想定した教科指導、個別・集団面接等の指導を行った。また、小論文等の提出書類の添削指導、二次試験対策指導を実施した。</p> <p>(3)「教職をめざす学生交流会」、「教育実習生交流会」、「教師教育研究協議会」等において現職OB教員等の具体的な指導を受け、教職に関する認識を深め、教員採用試験突破への意欲を高めた。</p> <p>(4)教職課程室の配置資料を随時更新した。特別支援教育演習室の設置について学長に要望書を提出した。</p> <p>(5)東京アカデミー等の課外講座を継続して行った。</p> <p>(6)札幌市、江別市との協定に基づくボランティア派遣を行い援助金を支出した。また、北海道及び特別支援学校等の学校ボランティアについて学生に紹介した。</p> <p>(7)期限付き任用教員及び非常勤講師等の採用に関わるガイダンス・指導を行った。</p>	<p>①教員採用状況・推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員採用者は、現役15名(小学校、特別支援学校)、卒業生37名(小学校、特別支援学校、中学校(英語)、高校(商業))、合計52名と健闘した。特に、卒業生が期限付き教員等を行いながら頑張っているといえる。 <p>②教員採用状況(期限付き)</p> <p>2015年度採用38人、2016年度採用24人であった。</p> <p>③その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語の副免許新規希望者は、再募集もしたが希望者がいなかった。 ・学校ボランティアに、札幌市9名、江別市10名が登録した。しかし、ボランティア実績のない学生も数名いた。 ・教師教育研究協議会は、平日の開催であったが、OB教員45名に出席いただいた。
	<p>[1-3] 地域社会との連携を図り、新たな免許教科開設の検討を行う。</p> <p>(1)教員養成制度に関する調査研究を行い、学部再編等の動向に対応した免許教科開設の可能性を検討する。</p> <p>(2)学部教授会及び申請準備委員会と密接な連携をとり免許教科の保持及び再申請に必要な準備を進める。</p> <p>(3)免許状更新講習を「札幌圏教職課程コンソーシアム」と連携して開講する。</p> <p>(4)各教育委員会、校長会、全私教協・道私教協及び道特支学校教育実習連絡協等と協力して教職課程の充実・発展を図る。2015年度・2016年度の2年間を道私教協事務局校として、その職責を果たすことに努め、加えて道教委の依頼による「北海道いじめ問題対策連絡協議会」への出席や、同じく「教員育成協議会」(仮称)の創設・運営などに協力する。</p>	<p>[1-3] 再課程申請及び新たな学部学科の枠組みに対応した免許のあり方について検討を開始した。</p> <p>(1)教員養成制度に関する検討の一環として道教育委員会及び札幌市教育委員会と教員育成指標の策定等について懇談を行った。再課程申請について教職課程委員会及び全学教務委員会において検討を行った。</p> <p>(2)人文学部の人間科学科5専攻案は、文部科学省との相談の結果不可となり、心理学部を設置することになったため、今後の方向性について検討した。</p> <p>(3)「札幌圏教職課程コンソーシアム」において、2016年度総括及び2017年度講習の開講について確認した。</p> <p>(4)各教育委員会、校長会、全私教協・道私教協及び道特支学校教育実習連絡協等の主催する会議に出席し意見を述べた。道私教協幹事校会で再課程申請について検討した。</p>	
<p>2017年度</p>	<p>年次計画内容</p>		
	<p>[1-1] 4年間の切れ目のない指導を行い、教職に関する十分な知識、技能を身につけさせる。</p> <p>(1)学部教授会と協力し教職課程カリキュラムの編成と検証を行う。</p> <p>(2)教職課程履修カルテを活用して教科教育法、教職特講及び教職実践演習を軸とする4年間の継続した指導を行う。</p> <p>(3)小学校、中・高等学校及び特別支援学校の教職課程履修及び免許取得に向けたガイダンスを各学年に応じて実施する。</p> <p>(4)教職特講、教育実習事前・事後指導等に学外の現職教員等の協力を得て実践的に行う。また、授業見学などを積極的に取り入れる。</p> <p>(5)全教育実習生に対する訪問指導を学部ゼミ教員の協力を得て実施する。</p> <p>(6)教職課程に関するFD活動を推進し、『SGU教師教育研究』の充実を図る。</p> <p>(7)教職課程に係る教員養成の目標、組織、研究業績、授業科目及び卒業生の状況等について情報を公表する。</p>		
	<p>[1-2] 教員採用の実績の向上に向けた改善を進める。</p> <p>(1)学科に設置された教職課程の履修に加えて複数免許取得の促進を図る。</p> <p>(2)教職特講等の授業において教員採用試験を想定した教科指導、個別・集団面接等の指導を行う。また、小論文等の提出書類の添削指導、二次試験対策指導を実施する。</p> <p>(3)「教職をめざす学生交流会」、「教育実習生交流会」、「教師教育研究協議会」等を通じて教員採用試験突破への意欲を高める。</p> <p>(4)学生の自主学習、学生指導の場として教職課程室の充実と利用促進を図る。また、特別支援教育演習室の設置を図る。</p>		

<p>(5)東京アカデミー等の課外講座の活用を進める。 (6)札幌市、北海道及び特別支援学校等の学校ボランティアに取り組む。 (7)期限付き任用教員及び非常勤講師等の採用に関わる情報を提供する。</p>
<p>[1-3] 地域社会との連携を図り、新たな免許教科開設の検討を行う。 (1)教員養成制度に関する調査研究を行い、学部再編等の動向に対応した免許教科開設の可能性を検討する。 (2)学部教授会及び申請準備委員会と密接な連携をとり免許教科の保持及び再申請に必要な準備を進める。 (3)免許状更新講習を「札幌圏教職課程コンソーシアム」と連携して開講する。 (4)各教育委員会、校長会、全私教協・道私教協及び道特支学校教育実習連絡協等と協力して教職課程の充実・発展を図る。</p>

(3) 経営学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
<p>[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し適用する。その際、GPAや資格取得状況、進路決定状況など具体的な数値によって検証する。 [1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を行う。</p>		<p>[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-2] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査</p>	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学生の学習成果を測定する方法について検証を行なう。	評価指標の開発には至らなかった。	測定方法についての検証を行うべく、具体的な検討を行う必要がある。
	[1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)方法等について検討を行う。	十分な検討を行うには至らなかった。	調査実施に向けた、具体的な検討を行う必要がある。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 学習成果の測定について GPA、取得資格などのデータにより検証する。		
	[1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価方法についての検討を継続する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
<p>[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。</p>		<p>①対照表による評価(4-1参照) ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率</p>	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。	継続して、検証を行った。	検証を行い、学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを確認した。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		

(4) 経済学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
<p>[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適用する。 [1-2] 学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を行う。 [1-3] 留年者および休・退学者の状況を把握し、教育効果の検証を行う。 [1-4] キャリア支援課と連携を強めながら学生の進路支援を組織的に行う。 [1-5] 教育効果を踏まえて、補習・補充学習の必要性を検討する。</p>		<p>[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) [1-2] ①学生満足度調査 ②卒業生満足度調査 [1-3] ①休退学除籍者数一覧 ②入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-4] ①資格等取得状況 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③内定率・就職率</p>	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学習成果を測定する評価指標の検討を行う。	経済学部では、全開設科目の成績分布を一覧表にして教授会で確認しているが、具体的な評価指標の検討には至っていない。次年度の課題である。	学習成果を測定する評価指標は開発されていない。 なお、GPAの分布を作成し、学習効果を評価する方向を模索する。また成績評価(素点)や秀・優・良・可・不可の分布によって学習効果を測定する評価指標の作成を模索中である。
	[1-2] 卒業アンケートおよび満足度調査に対して分析をして学生の評価を検討する。	調査については報告したものの、検討は行わなかった。次年度の課題である。	学生の自己評価、卒業後の評価は集計したものの、十分な分析は行われていない。
	[1-3] 1) 学生の実態を引き続き再確認する。さらに、厳格な成績評価の観点から退学や休学に関する課題を検討す	1) 休・退学者の状況を把握し、初年次教育における出席管理を重点的に強化することにより、成績評価を向上させる取り組みを次年度から始める	留年者および休・退学者の状況を踏まえて、教育効果の検証は行い、次年度から対策を行うこととした。 ①休退学除籍者数については、近年減少

4. 教育内容・方法・成果

4-4 成果

	<p>る。それと同時に、休・退学者を減らすために専門科目ならびに教養科目・全学共通科目の出欠を調査する。</p> <p>2) 1)の結果を履修・修学指導に活用し、学生支援の改善を図る。</p>	<p>こととした。今年度は、一部科目で出欠情報の調査を行った。</p> <p>2) 出欠情報の調査は指導教員の修学指導には活用されたが、全体的な改善は行われなかった。</p>	<p>の傾向がある。</p> <p>②入学年度別学位授与率・4年間卒業率は昨年並みとなった。</p>
	<p>[1-4]</p> <p>1) 「専門ゼミナール II」や「専門ゼミナール III」において、学生のコミュニケーション力を培うために、学生の自己分析や自己アピールなどを支援する。</p> <p>2) 学生の就業力のアップを図るために、学生のエントリーシート作成を支援するとともに、学部企画を開催する。</p>	<p>1) 各ゼミナールにおいて、指導教員などにより学生の自己分析や自己アピールなどを支援できた。</p> <p>2) エントリーシートの書き方はキャリア支援課で行うことになったため、学部企画は行わなかった。なお、学生が提出し、添削されたエントリーシートは指導教員に配布している。</p>	<p>3年生ゼミナールを「職業と人生」と同じ曜日に行い、履修率を上げる、学生の就職状況をキャリア支援課と連絡を密にし、正確に把握する、ゼミナールにおいて学部全体のキャリア教育を実施するなど、キャリア支援課と連携を強めながら学生の進路支援を組織的に行うことができた。</p>
	<p>[1-5]</p> <p>1) サポートセンター利用も含めた講義以外の学習方法について検討する。</p> <p>2) 補習授業について検討する (TA(SA)の活用)。</p>	<p>1) 具体的な学習方法は検討していない。</p> <p>2) 限られた予算の中で TA の活用方法を検討したが、今年度は補習授業の検討の必要はなかった。</p>	<p>教育効果を踏まえて、補習・補充学習の必要性は引き続き検討している。</p>
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 学習成果を測定する評価指標の検討を行う。		
	[1-2] 卒業アンケートおよび満足度調査に対して分析をして学生の評価を検討する。		
	[1-3]		
	1) 学生の実態を引き続き再確認する。さらに、厳格な成績評価の観点から退学や休学に関する課題を検討する。それと同時に、休・退学者を減らすために専門科目の出欠を全科目調査する。		
	2) 1)の結果を履修・修学指導に活用し、学生支援の改善を図る。		
	[1-4]		
	1) 「専門ゼミナール II」や「専門ゼミナール III、IV」において、学生のコミュニケーション力を培うために、学生の自己分析や自己アピールなどを支援する。		
	2) 学生の就業力のアップを図るために、学生のエントリーシート作成を支援するとともに、学部企画を開催する。		
	[1-5]		
	1) サポートセンター利用も含めた講義以外の学習方法について検討する。		
	2) 補習授業について検討する (TA(SA)の活用)。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。	①進路決定状況(業種別等を含む) ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率・4年間卒業率 ④卒業論文提出者数
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[2-1] 卒業論文やゼミナール論文の質の向上をはかるとともに、卒論発表会を今年度も実施する。卒論発表会の参加者をさらに増やすよう検討する。	卒業論文については81名が提出し、そのうち71名が報告会で報告した。教員の呼びかけにより報告する割合が増えたことから、今後も引き続きこの状態を維持したい。
		③入学年度別学位授与率・4年間卒業率は昨年並みとなった。 ④卒業論文については81名が提出し、そのうち71名が報告会で報告した。
2017年度	年次計画内容	
	[2-1] 卒業論文やゼミナール論文の質の向上をはかるとともに、卒論発表会を今年度も実施する。卒論発表会の参加率をさらに増やすよう検討する。	

(5) 人文学部人間科学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
	[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学びの成果を点検し評価する(学生の自己評価を含む)。	[1-1] ①意識調査・学修行動調査 ②入学年度別 GPA 分布・推移 ③学生満足度調査(アンケート)の活用 ④入学年度別学位授与率 ⑤卒論の最終評価の構成比
	[1-2] 教育目標に基づいた人材育成の観点から、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)に関する調査結果を検証する。	[1-2] ①進路決定状況(業種別等を含む) ②資格等取得状況 ③卒業生満足度調査の活用
2016年度	年次計画内容	計画実施状況
	[1-1] 達成度評価指標のいずれかを用いて、学生の学びの成果を点検し、評価する。	学びの成果の最も重要な指標の1つは学びの集大成である卒業論文の提出率とその評価である。卒業論文の提出率と最終評価の年次推移を取りまとめた。
	[1-2] 学科の就職委員は、キャリア支援課担当職員と日頃から情報共有し、学科の就職内定状況やその時点での課題を把握して、学科会議等を通じてそれを報告する。	毎月学科会議にて就職委員が学科の全学生につき、キャリア支援課の利用状況や就活・内定状況を報告し、担当教員との情報共有や指導助言についてのお願いをした。また「職業と人生Ⅲ・Ⅳ」の履修率が低
		今後とも、卒業論文の提出率と最終評価のデータを蓄積していくとともに、未提出と不合格の理由を明らかにして、未提出者と不合格者を減らす努力を継続していく。 【指標「卒論の最終評価の構成比」】 内定率は前年同月とほぼ同じであるが、昨年よりは女子の内定率が上がっている。複数の内定を得られる学生と、就活そのものから離脱してしまう学生との二極化が進んでいるように感じられる。 【指標「進路決定状況一覧(人間科学科)」(3

		い要因について、H14 学生の志望傾向や学生個別の困難性について話し合った。	月末決定))
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 学習の集大成である卒業論文の未提出と不合格の理由を明らかにし、未提出者と不合格者を減らす努力を継続する。 [1-2] 学科の就職委員は、キャリア支援課担当職員と日頃から情報共有し、就職内定状況やその時点での課題を把握して、学科会議等を通じてそれを報告する。 また、進路が固まらなかったり学生自身が抱える難しさにより就職活動がままならなかったりするケースに対し、卒業後の方向性を提示できるような進路支援のあり方を、ゼミ担当者と就職委員を中心に個別に検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①対照表による評価(4-1参照) ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 昨年度に引き続き、卒業論文の指導および発表会・審査会などとおして、学位授与方針に示された諸点を踏まえた学位の授与を行い、その成果を学科会議で総括する。	卒業論文の審査にあたっては、ポスター発表会(社会、福祉、心理・教育領域)、口頭発表会(文化領域)を実施し、その後領域ごとの会議において評価基準の統一を図りながら評価を行った。	今年度(前期末および後期末)の卒業論文の提出者は103名、未提出者は5名、提出率は95.4パーセントだった。合格者の内訳はS評価6名、A評価25名、B評価46名、C評価26名であり、卒業論文は学科の教育成果を評価する指標としても有効に機能しているといえる。4年生の卒業率は98.0%だった。 【指標③「入学年度別学位授与率・年間卒業率」「人文学部卒業論文評価一覧」3月臨時教授会資料】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 引き続き、卒業論文の指導および発表会・審査会などとおして、学位授与方針に示された諸点を踏まえた学位の授与を行い、その成果を学科会議で総括する。		

(6) 人文学部英語英米文学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学びの成果を点検し評価する。 [1-2] 教育目標に基づいた人材育成の観点から、卒業後の進路について点検し評価する。		[1-1, 1-2 共通] ①入学年度別GPA分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 ⑤国際交流活動の参加状況	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 4年生に対するTOEIC等英語検定のスコア、資格等取得状況、国際交流活動の参加状況についての調査を継続し、学生の学びの成果を点検し評価する。	今年度も4年生に関してTOEIC等英語検定のスコア、資格等取得状況、国際交流活動参加状況・進路決定状況についての調査を継続し、学生の学びの成果を確認した。	今年度も4年生に関して検討を行った。来年度も検証を継続し、経年比較のためのデータの蓄積を進めていきたい。 【指標「2016年度10月学科会議別添資料 英語英米文学科外国留学奨学生申込者一覧」「2016年度3月学科会議資料 学位授与式の学科代表について(4年生取得単位・GPA一覧)」「内定状況】
	[1-2] 当該年度の卒業生の進路について、入学時からの修学状況および進路決定状況に鑑みた検証を継続する。	キャリア支援課職員と就職委員が定期的に会い、すべての卒業予定者の就学状況および進路決定状況を確認し、入試制度とも照らし合わせて検証を行った。	学生の進路情報を学科教員で共有し、ゼミ担任、就職委員、キャリア支援課職員が中心に進路支援を継続した。一方で、学年によって学生の気質・進路傾向が異なるため、それに応じた指導も必要となることが分かった。 【指標「内定状況】
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 今年度も引き続きTOEIC等英語検定のスコア、資格等取得状況、国際交流活動の参加状況について調査を行い、学生の学びの成果を点検し評価する。 [1-2] 当該年度の卒業生の進路について、入学時からの修学状況および進路決定状況に鑑みた検証をさらに継続し、教育目標に基づいた人材育成の観点から点検と評価を行うための準備を進める。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①進路決定状況(業種別等を含む) ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率・4年間卒業率	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 前年度に引き続き、学生の資格取得状況、進路決定状況などを参照し、学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを検証する。	今年度は4年生の進路決定状況を参照し、教育目標と学位授与方針との関連性を検証した。その結果、大部分の学生が教育目標に合致した進路を決定しており、学位授与方針がその成果を適正に評価できるものであることが確認された。	今年度は4年生の進路決定状況を参照し、教育目標と学位授与方針との関連性を検証した。来年度以降も同様の取り組みを続けていきたい。 【指標「内定状況】
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 今年度も継続して、学生の資格取得状況、進路決定状況などを参照し、学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを検証する。		

4. 教育内容・方法・成果

4-4 成果

(7) 人文学部臨床心理学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標(学生による自己評価を含める)を適用する。		①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④学生満足度調査 ⑤卒業生満足度調査
2016年度	年次計画内容 [1-1] 入学年度によって、GPAの推移、進路決定状況、資格取状況に違いがあるかを検証する。	計画実施状況 入学年度の違いによるGPAや進路決定状況、資格等取得状況などの、膨大な量的データの経年変化について検討するために、データの統合を試みた。
2017年度	年次計画内容 [1-1] データベース案をつくり、経時的に測定、分析、評価しやすくする。	指標に基づく中期目標の達成状況 試みてみたところデータ整理のデザインが全学的に整っていないことがわかった。このままでは膨大な量的データが活かしきれずもったいないことがわかった。次年度全学的にデータ整理の方法を整えていく必要がある。【指標なし】

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①進路決定状況(業種別等を含む) ②資格等取得状況 ③学年度別学位授与率
2016年度	年次計画内容 [2-1] 卒業生の進路決定状況、資格取得状況を参考に、学位授与方針が教育目標の成果を評価できる内容になるように検討する。専門性を生かした進路決定の推進について更に力を入れていく。	計画実施状況 キャリア支援課から年次別進路希望や、進路決定状況を随時聞き、合同企業説明会への参加をうながす声かけを行った。また、2018年度卒業生に対しても就職活動への動機づけ作りの声かけを行った。
2017年度	年次計画内容 [2-1] 卒業生の進路決定状況、資格取得状況を参考に、学位授与方針が教育目標の成果を評価できる内容になるように検討する。専門性を生かした進路決定推進とともに、進路決定に困難を抱えている学生へのフォローも重視する。	指標に基づく中期目標の達成状況 2016年度の進路決定状況も、前年度同様に毎月高い水準で推移しており、また学位授与率も例年の水準を保っている。 【指標①「進路決定状況(3月末日)」】 【指標②「キャリア支援課窓口相談実績(2月末日)」】 【指標③「職業と人生出席状況(2月末日)」】

(8) 人文学部こども発達学科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標を念頭に学生の学習成果を評価する指標を検討し、運用する。 [1-2] 学生の自己評価(修学状況、単位取得状況等を含む)、卒業後の進路(教員、保育士採用等、卒業生評価)評価を行う。		[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移(全学) ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率(全学) ⑤教員・保育士採用等の採用状況 [1-2] ①学生満足度調査(全学) ②卒業生満足度調査(全学)
2016年度	年次計画内容 [1-1] 学科の学習成果を評価するため、全学年のGPA、卒業率、進路や資格取得状況などを把握できる仕組みを検討する。	計画実施状況 学科の学習成果を評価するため、全学年のGPA、卒業率、進路や資格取得状況などを担任制度によって把握することにした。
2017年度	年次計画内容 [1-1] こども発達学科全学年の学習成果を評価するため、GPA、卒業率、進路や資格取得状況などを把握できる仕組みについて検討する。 [1-2] こども発達学科全学年の学生についての修学状況や進路希望状況を把握し、学生達の自己評価シート(教職課程履修カルテ)や保育士指定科目習得チェック表と合わせて分析する。また、新たに組織された卒業生の会などで直接意見を聞くことによって実態を把握し、大学在学中や卒業後の満足度を向上させるように図る。	指標に基づく中期目標の達成状況 現状分析を2/2実施。検証を1/1を実施。達成0/1を実施。 【指標「計画表」D4-4-1:学習成果を評価する指標の検討と運用】 【指標①④】 【指標②進路決定状況】 【指標「こども発達学科卒業生の進路希望調査」】 現状分析を2/4実施。検証を1/3を実施。達成0/1を実施。 【指標「計画表」D4-4-1:学生の自己評価と卒業後の進路の評価】 【指標「こども発達学科卒業生の会記念文集」一部分】

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。		①対照表による評価(4-1参照) ②進路決定状況(業種別等を含む)

			③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率（全学） ⑤教員・保育士採用等の採用状況
2016年度	年次計画内容 [2-1] 学位授与方針に基づいた能力が、4年間の教育を通して十分に身につけているかを、進路希望状況調査や進路決定状況をなどから検証し、指標化できるかを検討する。	計画実施状況 入学時および入力後の進級に伴う進路希望調査や進路決定状況について適宜学科会議で報告し、学科の教職員全員でその情報を共有し、意見を交換している。その中で、学位記授与方針に基づく能力を4年間の教育を通して十分に身につけているかを検証し、指標化について検討した。	指標に基づく中期目標の達成状況 現状分析を3/3実施。検証を1/2を実施。達成0/1を実施。 【指標「計画表」D4-4-2】 【指標「こ発在学生の進路希望調査」】 【指標 進路決定状況】 (いずれも学科会議資料に有り)
2017年度	年次計画内容 [2-1] 学位授与方針に基づいた能力が、4年間の教育を通して十分に身につけているかを、資格取得状況や進路希望調査及び進路決定状況などから継続的に検討する。		

(9) 法学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し適用する。 [1-2] 留年、休学及び退学の状況を把握し、それらの減少に努める。 [1-3] 資格取得者、及び検定合格者の増加を図る。		[1-1] ①入学年度別 GPA 分布 ②進路決定状況 ③資格等取得状況 ④入学年度別学位授与率・4年間卒業率 [1-2]①留年者、休学者・退学者の推移 [1-3]格取得者及び検定合格者の推移	
2016年度	年次計画内容 [1-1] 卒業論文の履修率と執筆率、内定獲得の延べ人数と実人数など、データを収集し、昨年度の測定に用いた評価指標以外の指標を検討するとともに、指標に基づく測定を行う。	計画実施状況 [1-1] 卒業論文の履修率と執筆率（提出率）、内定獲得の延べ人数と実人数など、データを収集し、評価指標の開発に努めた。	指標に基づく中期目標の達成状況 [1-1] 卒業論文の履修率は2010年度の23.9%をピークにして減少してきた。2013年度には5.5%にまで減った。しかし2016年度は67%であり、2013年度以降は増加傾向にある。2014年度から施行されたカリキュラムでは卒業論文が2単から4単にされたことで今後履修率が高まるものと見込まれる、また2年生、3年生の専門ゼミナールでは統一シラバスの箇所レポート作成を課しており、この点からも増加する可能性が見込まれる。あわせて執筆率（提出率）を高めることも必要である。卒業論文の履修率、提出率、内定率の数値が好循環に作用しあうためにも、今後も評価指標の開発と利用を促進したい。 GPAの分布であるが、法学部は377名在籍でGPA平均値は1.94である全学の平均値は2.14であるため若干低くなっている。進路決定状況であるが、2月末現在の法学部の内定率は91%を若干超えるところである。今後も就職活動に対する個別指導を強化し内定率を引き上げていきたい。 資格取得では法学検定試験ベーシックに71名、法学検定試験スタンダードに1名合格している。
	[1-2] 留年、休学、退学減少のための努力を引き続き行う。そのための方策は次のとおり。 ①「はぐくみ」を通じた学生の把握を進める。 ②毎教授会で、昨年同期比の休学・退学・除籍数の実数を学部教員で把握する。	各教員が、ゼミ生との随時面談および担任する学生との一斉面談を通じて修学指導を行い、その結果を「はぐくみ」に記入した。 毎教授会にて、前年同月比の休学・退学・除籍数を確認した。	「はぐくみ」には、ほぼすべての学生について記載がなされている。
	[1-3] 法学検定試験、TOEIC・TOEFL・英語検定試験、宅地建物取引士、行政書士などの各種検定試験、資格試験の受検を促す。	在学生ガイダンスにおいて、各種検定・資格試験について広報したほか、情報ポータルを通じて、エクステンション講座の受講を推奨した。また、法学部生が多く利用する校舎に、各種試験のポスターを掲示した。	法学検定試験は、119名が受験した。
2017年度	年次計画内容 [1-1] 卒業論文の履修率と執筆率、内定獲得の延べ人数と実人数など、データを収集する。数値の評価を多角的におこなう。 [1-2] 留年、休学、退学減少のための努力を引き続きおこなう。はぐくみへの記入を精力的におこなう。学籍移動の状況の可視化を通じた問題把握を教授会を中心におこなう。 [1-3] 法学検定試験（とりわけスタンダード）、TOEIC・TOEFL・英語検定試験、宅地建物取引士、行政書士などの各種検定試験、資格試験の受検を促す。		

4. 教育内容・方法・成果

4-4 成果

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。			①進路決定状況 ②資格等取得状況 ③入学年度別学位授与率・4年間卒業率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] ①学位授与方針の適合するディベート大会等を実施するとともに発展を図る。 ②学位授与方針に基づき教育の成果があがるよう、資格取得、卒業、就職の面で改善に努める。	①例年に従い、基礎ゼミナール対抗ディベート大会を挙行政した。 ②昨年に引き続き法学検定試験スタンダードに合格者1名を出した。	ディベート大会に計5ゼミが参加した。留学生チームからの参戦もあった。天皇退位など時宜に即したテーマ設定をおこない、同時に学生のプレゼンテーション能力を研磨すべくパワーポイントを作成させた。 法学検定試験ベーシック合格者71名、法学検定試験スタンダード合格者1名
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 学位授与方針に適合する、ゼミ発表会やディベート大会等を計画・実施する。専門ゼミナール間の連携を模索する。その他、学位授与方針に基づく教育の成果があがるよう、資格取得、卒業、就職の面で改善を図る。		

(10) 社会情報学部

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を評価する。 [1-2] 学生の自己評価、卒業時の評価を行う。			[1-1] ①入学年度別GPA分布・推移 ②資格等取得状況 ③学位授与率・4年間卒業率 [1-2] ①担任による卒業時の評価
年次計画内容	計画実施状況		指標に基づく中期目標の達成状況
2016年度	[1-1] 学生の成績、資格等取得状況、学位授与率を確認する。	学生の成績、資格等取得状況、学位授与率を確認した。	①【資料8、9】 ②資格取得状況：社会調査士5名 ③学位授与率85.7% (内2013年度入学生100%)、4年間卒業率71.8%。
	[1-2] 卒業時についての担任による評価の実施方針について確認する。	卒業時の担任による評価は実施しなかったが、教授会で常に情報共有を行った。	卒業時の担任による評価は実施しなかったが、教授会で常に情報共有を行った。

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。			①担任による卒業時の評価
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	卒業時についての担任による評価の実施方針について確認する。	教授会での卒業判定の際、その妥当性について議論した。 卒業時の担任による評価は行わなかった。	教授会での卒業判定の際、その妥当性について議論した。 卒業時の担任による評価は行わなかった。

(11) 大学院法学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)			達成度評価指標【指標1】
[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を適切に測定するための評価指標を開発し、適用する。			①単位修得状況 ②GPA分布 ③資格等取得状況 ④学位授与率 ⑤修了生進路状況
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 教育目標達成の観点から、学生の学習成果を適切に測定するための評価指標の開発を検討する。	[1-1] 院生の学習成果を適切に測定するための評価指標として、現行の修士論文審査の各審査項目、各科目の成績評価、法律資格の取得状況で十分に行えていることを運営会議で確認し、来年度研究科委員会で確認することとした。	
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 2016年度では、院生の学習成果を適切に測定するための評価指標として、現行の修士論文審査の各審査項目、各科目の成績評価、法律資格の取得状況で十分に行えていることを運営会議で確認したところであり、2017年度はそのほかに適切な指標がありうるか検討する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)			達成度評価指標【指標2】
[1-1] あらかじめ学位授与方針を学生に明示し、明確な責任体制の下で審査を行い、適切に学位を授与する。			①学位授与率
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 学位授与方針に基づき、明確な責任体制の下で審査を行い、適切に学位を授与する。	[1-1] 学位授与方針に基づき、主査、副査の2名を基本に、一部の院生については専門委員を外部に委嘱する形で、十分な時間をかけて適切に学位を授与した。	①学位授与率、67%。
2017年度	年次計画内容		

年度	[1-1] 学位授与方針に基づき、明確な責任体制の下で審査を行い、適切に学位を授与する。
----	--

(12) 大学院臨床心理学研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 臨床心理士試験合格者数ならびに修了後の進路を把握する。	①臨床心理士試験合格者数 ②修了後の進路	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 合格者数と進路、その経年変化を把握する。	計画に沿って遂行した。 例年通り合格者数・進路について調査し把握した。	① 達成 ② 実施(就職先など)
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 合格者数と進路、その経年変化を把握する。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[1-1] 単位修得状況と修士論文を総合的に把握する。	① 単位修得状況 ② 修士論文評価(修論審査報告書)	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 単位修得状況と修士論文の適正な質・量を把握する。	計画に沿って遂行した。 修了判定会議において、単位修得状況を把握し、各院生に対して主査1名・副査2名による審査報告書が提示され、修士論文としての質・量がともに適正であることを把握した。	① 達成 ② 達成
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 単位修得状況と修士論文の適正な質・量を把握する。		

(13) 大学院地域社会マネジメント研究科

中期計画【計画1】(目標1に対応する計画)		達成度評価指標【指標1】	
	[1-1] 教育目標達成の観点から、院生の学習成果を測定するため、修士論文の評価や進路状況などからなる評価指標を開発し適用する。 [1-2] 学生の進路状況を把握し、就職活動の支援を行う。	[1-1] ①入学年度別 GPA 分布・推移 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③修士論文の検証 [1-2]	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[1-1] 修士論文の評価や進路状況などからなる評価指標についての検討を行う。	今年度、検討は行ったが、まとめることができなかった。	
	[1-2] ①キャリア支援課と協力して学部から進学した院生等の職を持たない学生の就職活動の支援を行う。 ②大学院での研究分野と関連した団体や企業へ就職できるように活動の支援を行う	①今年度、就職する院生は1名であるが、特にキャリア支援課との協力をおこなわずに就職活動をおこなった。 ②1名の院生は、指導教員と相談しながら大学院と関連した分野への就職活動をおこなっている。	①GPAは全体として低下傾向にあるが3を上回っている。2016年度生の1年次のGPAは3.1であり、2015年度生に比べて低下している。 ②今年度は社会人を除く修了生は1名である。1名について進路は決まっていない。 ③修士論文は必要な水準を充たしている。
2017年度	年次計画内容		
	[1-1] 修士論文の評価や進路状況などからなる評価指標についての検討を行う。		
	[1-2] ①キャリア支援課と協力して学部進学生等の職を持たない学生の就職活動の支援を行う。 ②大学院での研究分野と関連した団体や企業へ就職できるように活動の支援を行う。		

中期計画【計画2】(目標2に対応する計画)		達成度評価指標【指標2】	
	[2-1] 学位授与方針が、教育目標の成果を評価できる内容であることを継続して検証する。	①対照表による評価 ②進路決定状況(業種別等を含む) ③資格等取得状況	
2016年度	年次計画内容	計画実施状況	指標に基づく中期目標の達成状況
	[2-1] 院生の修士論文の作成状況、進路状況を見ながら学位授与方針が適切なものであるかどうか検証する。	修士論文から見て学位授与方針は適切なものであるといえる。進路状況についても今年度の修了生2名の内、社会人が1名であり、社会人の再教育という教育目標に合致している。	①対照表から見て学位授与方針と教育目標は十分に関連している。 ②社会人以外の1名について現在就職活動中である。 ③特に資格取得者はいなかった。
2017年度	年次計画内容		
	[2-1] 院生の修士論文の作成状況、進路状況を見ながら学位授与方針が適切なものであるかどうか検証する。		